

**ANALISIS FAKTOR-FAKTOR PENYEBAB
TERJADINYA TINDAKAN *JIDOUGYAKUTAI* OLEH
TOKOH *SINGLE MOTHER* DALAM DRAMA
*MOTHER***

SKRIPSI

Diajukan untuk memenuhi salah satu syarat menempuh ujian sarjana sastra Jepang
pada Program Studi Sastra Jepang STBA JIA Bekasi



PINA ISMAYANTI

431315.20143.060

**PROGRAM STUDI SASTRA JEPANG
SEKOLAH TINGGI BAHASA ASING JIA
BEKASI**

2018

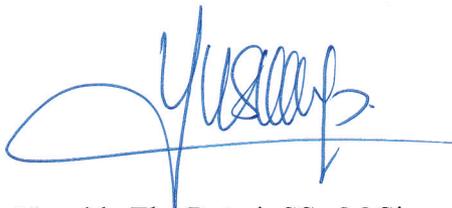
LEMBAR PERSETUJUAN

ANALISIS FAKTOR-FAKTOR PENYEBAB TERJADINYA TINDAKAN *JIDOUGYAKUTAI* OLEH TOKOH *SINGLE MOTHER* DALAM DRAMA *MOTHER*

Pina Ismayanti
431315.20143.060

Disetujui oleh

Pembimbing I



Yusnida Eka Puteri, SS., M.Si.

NIDN. 412067304

Pembimbing II



Elli Rahmawati Z., S.Pd., M.Si.

NIDN. 423077903

Ketua STBA JIA



Drs. H. Sudjianto, M.Hum.

NIP. 195906051985031004

LEMBAR PENGESAHAN

Nama : Pina Ismayanti
Nomor Induk Mahasiswa : 431315.20143.060
Judul : ANALISIS FAKTOR-FAKTOR PENYEBAB
TERJADINYA TINDAKAN *JIDOUGYAKUTAI*
OLEH TOKOH *SINGLE MOTHER* DALAM DRAMA
MOTHER

Disahkan oleh:

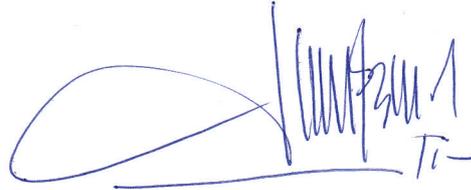
Penguji I



Aam Hamidah, M.Pd.

NIDN. 420087003

Penguji II



Ani Sunarni, S.S., M.Pd.

NIDN. 418098202

Ketua STBA JIA



Drs. H. Sudjianto, M.Hum.

NIP. 195906051985031004

SURAT KETERANGAN LAYAK UJIAN SIDANG

Saya Pembimbing I Skripsi, dengan ini menyatakan bahwa mahasiswa berikut:

Nama : Pina Ismayanti
Nomor Induk Mahasiswa : 431315.20143.060
Judul Skripsi : ANALISIS FAKTOR-FAKTOR PENYEBAB
TERJADINYA TINDAKAN *JIDOUGYAKUTAI*
OLEH TOKOH *SINGLE MOTHER* DALAM DRAMA
MOTHER

Sudah layak mengikuti sidang skripsi yang akan diselenggarakan pada 10 – 11 Agustus 2018, karena sudah menyelesaikan masa bimbingan sebanyak 10 kali tatap muka dan mengikuti konsultasi-konsultasi lainnya. Selanjutnya untuk kesempurnaan hasil skripsi yang telah dibuat, maka saya menyerahkan sepenuhnya kepada tim penguji sidang skripsi untuk menguji hasil skripsi mahasiswa tersebut.

Bekasi, 1 Agustus 2018

Pembimbing I



Yusnida Eka Puteri, SS., M.Si.

NIDN. 412067304

SURAT KETERANGAN LAYAK UJIAN SIDANG

Saya Pembimbing II Skripsi, dengan ini menyatakan bahwa mahasiswa berikut:

Nama : Pina Ismayanti
Nomor Induk Mahasiswa : 431315.20143.060
Judul Skripsi : ANALISIS FAKTOR-FAKTOR PENYEBAB
TERJADINYA TINDAKAN *JIDOUGYAKUTAI*
OLEH TOKOH *SINGLE MOTHER* DALAM DRAMA
MOTHER

Sudah layak mengikuti sidang skripsi yang akan diselenggarakan pada 10 – 11 Agustus 2018, karena sudah menyelesaikan masa bimbingan sebanyak 10 kali tatap muka dan mengikuti konsultasi-konsultasi lainnya. Selanjutnya untuk kesempurnaan hasil skripsi yang telah dibuat, maka saya menyerahkan sepenuhnya kepada tim penguji sidang skripsi untuk menguji hasil skripsi mahasiswa tersebut.

Bekasi, 1 Agustus 2018

Pembimbing II



Elli Rahmawati Z., S.Pd., M.Si.

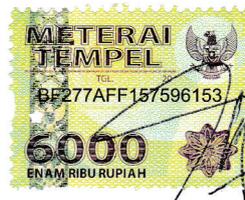
NIDN. 423077903

LEMBAR PERNYATAAN KEASLIAN SKRIPSI

Nama : Pina Ismayanti
Nomor Induk Mahasiswa : 431315.20143.060
Program Studi : Sastra Jepang S-1
Judul Skripsi : ANALISIS FAKTOR-FAKTOR PENYEBAB
TERJADINYA TINDAKAN *JIDOUGYAKUTAI*
OLEH TOKOH *SINGLE MOTHER* DALAM DRAMA
MOTHER

Dengan ini saya menyatakan bahwa skripsi yang saya buat adalah asli bukan plagiasi atau saduran. Apabila terdapat kecurangan dalam penelitian ini, maka akan menjadi tanggung jawab saya di kemudian hari.

Bekasi, 1 Agustus 2018



Pina Ismayanti

NIM. 43131520143060

MOTO DAN PERSEMBAHAN

Tanpa do'a dan restu dari kedua orangtua,
saya tidak bisa apa-apa.

人生で私を助けることができるのが、最初は両親からの祈りである。

Persembahan:

Skripsi ini saya persembahkan untuk orangtua.

**ANALISIS FAKTOR-FAKTOR PENYEBAB TERJADINYA TINDAKAN
JIDOUGYAKUTAI OLEH TOKOH *SINGLE MOTHER* DALAM DRAMA
*MOTHER***

PINA ISMAYANTI

431315.20143.060

PENELITIAN SASTRA JEPANG

STBA JIA

2018

ABSTRAKSI

Penelitian ini membahas tentang analisis faktor-faktor penyebab terjadinya tindakan *jidougyakutai* oleh tokoh *single mother* dalam drama *mother*. *Jidougyakutai* adalah suatu tindakan kekerasan terhadap anak (berusia < 18 tahun). Tujuan dari penelitian ini adalah untuk mendeskripsikan faktor-faktor apa saja yang dapat mempengaruhi terjadinya tindakan *jidougyakutai* oleh tokoh *single mother*, serta kategori *jidougyakutai* apa saja yang terdapat dalam drama *mother* tersebut. Metode yang digunakan adalah metode deskripsi dan analisis data (*content analysis*) dengan teknik studi kajian pustaka. Metode deskripsi digunakan untuk melukiskan, menggambarkan, menjelaskan suatu keadaan (yang diteliti) seperti apa adanya, sesuai dengan situasi dan kondisi ketika suatu penelitian dilakukan. Kemudian untuk metode analisis isi (*content analysis*) dipakai untuk menganalisis teks berupa tulisan maupun wacana, dalam rangka menemukan makna atau isi pesan yang disampaikan. Sedangkan, studi kajian pustaka adalah kegiatan menganalisis dan mengkaji data/teori yang bersumber dari kepustakaan (buku, jurnal, penelitian terdahulu, *website* dan sumber lain) yang kemudian dikaitkan dengan objek penelitian. Data penelitian ini yaitu berupa adegan-adegan dalam drama *Mother*. Adegan-adegan tersebut kemudian disajikan pada data 1-12 yang dianalisis berdasarkan teori sosiologi sastra Ian Watt dan teori tambahan dari Durkheim tentang fakta/gejala sosial. Hasil analisis menunjukkan terdapat lima faktor utama penyebab terjadinya tindakan *jidougyakutai* oleh tokoh *single mother*, yaitu berasal dari masalah struktur keluarga, ekonomi keluarga, status *single mother*, *parenting stress*, serta pola asuh yang digunakan oleh ibu.

Kata kunci : *Jidougyakutai*, *Single mother*, Sosiologi sastra

Kata kunci : *Jidoug yakutai*, *Single mother*, Sosiologi sastra

ドラマ「マザー」におけるシングルマザーの人物が犯した児童虐待行為を引き起こす原因の分析

PINA ISMAYANTI

431315.20143.060

日本文学の研究

STBA JIA

2018

要旨

この本論のタイトルは「ドラマ「マザー」におけるシングルマザーの人物が犯した児童虐待行為を引き起こす原因の分析」である。児童虐待とは暴力を受けた子供（18歳未満）である。本研究の目的は、児童虐待をしてしまったシングルマザーにどのような要因が影響を与えるかを記述することであり、ドラマ「マザー」にある児童虐待の分類が含まれている。使用される方法は、文献レビューの研究技術を用いた記述およびデータ分析の方法である。記述方法は、研究が実施された状況および条件に従って、状況を説明するために使用される。さらに、コンテンツ分析の方法は、メッセージ内容や内容を理解するために、文章や談話の形でテキストを分析するために使用されます。一方、文献研究は、文献や雑誌や先行研究やウェブサイトなどに由来する理論を分析し、研究目的に関連する活動である。この研究のデータは、ドラマ「マザー」にあるシーンの形をしています。シーンは、イアンワットによる文学の社会学とデュルケムによる社会的事実/現象についての理論に基づいて分析されるデータ 1 から 12 までで提示される。分析の結果は、シングルマザーによる児童虐待行為の発生要因が 5 つあり、それは家族構成、家族経済、シングルマザーの状態、子育てストレス、母親から子どもへの育児などの問題から生ずる。

キーワード：児童虐待、シングルマザー、文学の社会学

第 I 章

はじめに

A. 背景

私達が知っている限り、日本はアジア大陸で先進国の一つである。他の先進国と同様に、日本の進歩はいくつかの要因によって支えられており、その一つは経済的な観点からである。これらの経済成長の結果で、高い生活費にも影響を与える。したがって、日常生活のニーズを満たすため、その中の人々が競争して働くことが求められる。

どの国でも、家族の中で父親は家族のリーダーになる。しかし、女性が仕事業界に入る事で、母親になっても働いている女性が増えて行く、それにしたがって夫婦共仕事する数が増加した (Nobuhiro, 2007: 98)。その結果、家族と過ごす時間も減少するし、子どもの育児する時間も短くなる。だから、もし父親の役割が本当に家族に存在しなければどうでしょうか？

日本を含め、世界のシングルマザーの数が増えている。2014 年には、日本の児童を持つシングルマザーの家計の貧困率は 54.6% である。

家族の経済面の問題と一人に担うシングルマザーが疲労およびストレスになって児童虐待を引き起こす最も多い原因になる。児童虐待は、1990 年代から今までの日本の社会問題の 1 つである。

上記のような人間の生活の様々な問題から、現在は文学の形で表現されていることは稀ではない。そのうちの 1 つはドラマである。ドラマは、

多くの観客の前で会話と動作で、ステージ上に投影された形式の人間の紛争である(Suroso, 2015: 38).

このようなドラマで表現されている社会生活の話は、文学の社会学の研究に含まれている。本研究では、著者は「文学は社会生活の反映」と表現する Ian Watt の理論による文学社会学を使用する。

シングルマザーが行った児童虐待がドラマ「マザー」に見ることができる。そのドラマには仁美という名前のシングルマザーが頻繁に7歳の娘に虐待する。

背景に基づいて、著者は日本にある児童虐待原因のことを研究するのに興味があるので、著者は「ドラマ「マザー」におけるシングルマザーの人物が犯した児童虐待行為を引き起こす原因の分析」を研究する。

B. 問題の定式化

背景によると、問題は:

1. ドラマ「マザー」に登場するシングルマザー人物のが児童虐待の行動を引き起こした要因は何か?
2. そのドラマ「マザー」では、どんな児童虐待の分類があるのか?

第II章

理論的基礎

A. 家族

1. 家族の定義

Plato によると、家族は社会組織の最小単位です(Shinta, 2015:3)。一方、Salvicion と Ara Celis によると、家族というのは2人以上の個人で、血縁関係があり、婚姻関係があり、一緒の家庭に居

住し、お互いに交流し、それぞれの役割を果たして文化を創造し、維持する (Arifin、2015: 228)。

2. 家族構成

家族構造は家族のタイプまたは形態である。日本のほとんどの家族は大家族を形成している。しかし、工業化の戦争が進んだ後、家族の形態は、大家族から小家族や核家族に徐々に変化する。亘弘 (2007: 99) によると、日本の家族は「イエ」制度のもとで成り立っていた。この「イエ」制度は、家庭内における仕事の分担、家庭内の重要なことを決めるときの発言する権利など、あらゆる日常生活に浸透していた。この結果、「男性は仕事、女性は家事し、子育て」という家族形態ができあがった。

3. 家族問題

信義 (2004: 36) によると、家族の連帯の妨げとなる多くの問題が起こっている。少子高齢化、婚姻率の低下と離婚率の上昇、児童・高齢者の虐待、配偶者暴力、扶養と相続をめぐる紛争等々、私たちの大切な家族の全体にわたっている。

Abu Ahmadi によれば、家族に非常に影響を与えるいくつかの要素、すなわち家族の社会経済的地位、完全な家族の要因、親の態度と習慣である (Arifin、2015: 228)。

Kumagai と Masako (2016: 161) によると、それぞれの家族は、働く母親と仕事と生活のバランス、子供の育て、高齢の両親の世話、財政上の問題、そして片親の家族など、さまざまな問題に直面している。

a. 日本の家族経済

日本はアジア大陸に位置する先進国の一つである。2014年には、日本の児童を持つシングルマザーの家計の貧困率は54.6%である。山口（2012: 1）によると、母子世帯の貧困問題は、母親本人の問題に止まらず、その子供にもネガティブな影響を及ぼす可能性が高い。貧困であるゆえに、母親が育児放棄や児童虐待に走ったり、子供に十分な栄養や教育を提供できなかつたりすることが比較的容易に起きる。

b. 離婚

亘弘（2007: 101）によると、日本の離婚率は年々増加している。この背景には、人々の離婚に対応する意識の変化がある。近年の離婚理由として「性格が合わない」「肉体的・精神的な虐待」などが増えている。

c. シングルマザー

Crosson（2014: 21）の Fabes and Martin（2003）・Skolnick and Skolnick（2010）によると、最近、単一の親の家族は親の母集団の大部分、すなわちシングルマザーによって率いられた4つの家族のうちの1つを占めている。

d. 子育てストレス

単一の母親のストレスは、単独で負担しなければならぬ二重の責任の負担から始まる。

B. 児童虐待

児童虐待は、1990年代から今までの日本の社会問題の1つである。Hanada et al. にりおると、児童虐待を行われる人は孤児（片親）と貧しい家族を世話する人にものみ行われる（Kumagai & Masako, 2016: 49）。Nabekuraによると、児童虐待行った母親が20,864人（62.4%）に達し、これが一番多くである（2017: 246）。両親の側からの児童虐待行動発生を引き起こす要因は次のとおりである（Nabekura, 2017: 247）：養育能力の問題（養育力の未熟、育児不安）、育児の援助者不在、夫婦の不和や家庭内の葛藤、不安定な就労状態、経済的困窮、若年での妊娠、結婚、出産、心身の問題（性格の偏りや精神疾患）、母親自身の被虐待体験、親戚、近隣、友人などからの社会的孤立が挙げられる、子供の側の要因は次の通り：望まれない出生、多胎児出産、先天的な異常（染色体異常、奇形などの先天性異常、低出生体重児）による、母子間の分離体験、生後に発症した障害等による育てにくさ（発達障害、病気、問題行動）である。

内容によって、以下のように四つに分類（児童虐待の防止等に関する法律二〇〇〇年）されている；「身体的虐待」、「ネグレクト（養育放棄）」、「心理的虐待」、「性的虐待」。この四分類は、児童虐待防止等の活動をする人たちの間でも広く使われているものである。和巳はこれにかえて、「心理的ネグレクト」を入れて五分類としている。

C. 日本の育児パターン

Reikoによると、日本の育児の主な特徴は：（Ghiamitasya, 2012: 98-99）

1. 大きな役割の母親、

2. お父さんは子育てにあまり関わっていない、
3. 親戚からの支援の欠如、
4. ベビーシッター、ヘルパー、または家事を援助する労働者の低使用、
5. 両方の両親が働く家族では、保育園（デイケア）などの施設はある程度
の役割を果たす。

D. 文学の社会学

文学の社会学は、文学的建築者としての社会的要因を利用する科学である（Suwardi, 2011: 8）。Jabrohim dkk.（2003: 158）によると、文学社会学は、社会的側面を考慮した文献へのアプローチである。

第Ⅲ章

研究方法

A. 研究方法

研究方法は、直面している問題を解決する方法または手順という意味である（Sudaryono, 2017: 69）。本研究の研究方法は質的研究方法である。本研究を研究する時間は約6ヶ月をかけた。それは今年の2月から7月までである。本研究の研究する場所は JIA 外国大学の図書館とインドネシア大学の図書館である。

B. 研究手順

著者が行った研究の手順は次のとおり:

1. 準備の段階

この準備の段階では著者が研究の表題を選んで、背景、問題
定式と問題境界、研究の目的と研究の給付、研究方法、研究対象まで

を考えて、そしてそれを書き始まった。それをできた後、先生と相談した。

2. 実装段階

この階段に著者は理論を準備したり、ドラマ「マザー」を見たり、理解したり、もらったデータを分析する。

3. 完成階段

この階段には著者が論文を作ったり、著者は、分析された結果から結論を徹底的に引き出し、先生のアドバイスに従い改善する。

第IV章

データ分析

ドラマ「マザー」にあるシーンと会話を分析してから、著者はシングルマザーの人物が犯した児童虐待行為を引き起こす原因を見つけた。そして、このドラマにあシングルマザーの行われる児童虐待は四つの分類（児童虐待の防止等に関する法律二〇〇〇年）と Kazumi からの追加の児童虐待分類に基づいてに入られたこと。分析の結果は次の通りである：

1. データ一

シングルマザーの行われる児童虐待の : シングルマザーの二重の役割。

行為を引き起こす要因

児童虐待の分類 : 心理的虐待

2. データ二

シングルマザーの行われる児童虐待の : シングルマザーの貧困

行為を引き起こす要因

児童虐待の分類 : ネグレクト

3. データ三

シングルマザーの行われる児童虐待の : シングルマザー家族の新しい人の
行為を引き起こす要因 存在は、シングルマザーの新しい恋
人のようなものだ。

児童虐待の分類 : ネグレクト

4. データ四

シングルマザーの行われる児童虐待の : 若い頃のシングルマザーの地位に
行為を引き起こす要因 なる。親戚、近隣、友人などからの
社会的孤立が挙げられる。

児童虐待の分類 : 身体的虐待、心理的虐待

5. データ五

シングルマザーの行われる児童虐待の : シングルマザーに対する社会的支
援の欠如。
行為を引き起こす要因

児童虐待の分類 : ネグレクト

6. データ六

シングルマザーの行われる児童虐待の : 母親自身の被虐待体験。
行為を引き起こす要因

児童虐待の分類 : 心理的虐待

7. データ七

シングルマザーの行われる児童虐待の : 家族の問題の負担からで生じる疲

行為を引き起こす要因 労やストレスは、単独で負担される。

児童虐待の分類 : 心理的虐待、身体的虐待

8. データ八

シングルマザーの行われる児童虐待の : 仕事及び家族からの競合。

行為を引き起こす要因

児童虐待の分類 : 心理的虐待、身体的虐待

9. データ九

シングルマザーの行われる児童虐待の : 育児や経済的な問題によるストレス。
行為を引き起こす要因

児童虐待の分類 : 身体的虐待

10. データ十

シングルマザーの行われる児童虐待の : シングルマザーの二重の役割から
行為を引き起こす要因 での疲れによる子育ての放棄。

児童虐待の分類 : ネグレクト

11. データ十一

シングルマザーの行われる児童虐待の : 養育能力の問題（養育力の未熟、
行為を引き起こす要因 育児不安)

児童虐待の分類 : 身体的虐待、心理的虐待

12. データ十に

シングルマザーの行われる児童虐待の : 子どもと親の間の既存の絆が失われ、その結果で、違うな育児の治療
行為を引き起こす要因

する。

児童虐待の分類

：ネグレクト、心理的ネグレクト

第V章

結論と提案

A. 結論

第IV章で著者の分析に基づいての結論は次の通りを書くことが出来る：

1. ドラマ「マザー」におけるシングルマザーの人物が犯した児童虐待行為を引き起こす原因：
 - a. 家族構成の変化
 - b. 家族経済問題
 - c. シングルマザーになるの地位に起因する
 - d. 子育てストレス
 - e. 育児し方の理解
2. ドラマ「マザー」にある児童虐待の分類：
 - a. 身体的虐待：叩く、殴る、デコピン、子殺し/間引き、押し入れに閉じ込める、窒息させる/首を絞める、タバコの火を押し付ける。
 - b. ネグレクト：夜遅くまで家の外に子供を一人にさせ、食事を与えない、食事を与えず放置して子どもの通常の成長（身長・体

重)を阻害したり、子捨て、同居人が虐待していても放置する、長い間、家の中に一人にさせておける。

- c. 性的虐待：性的な関心で体を触る、見る。
- d. 心理的虐待：言葉の暴力、無視したり、拒否的な態度を示す、子どもの自尊心を傷つけるような言動。
- e. 心理的ネグレクト：子供の痛みに関心。

B. 提案

作者が行った分析に基づいて、著者の提案は次の通りであり：

1. 特に STBA JIA の学生のためには、もし類似のテーマを研究したい人は、この研究はまだ完璧ではないことと知っているなので、日本にある児童虐待という社会的な問題の理論をさらに鋭く拡大することが期待される。
2. STBA JIA 図書館の本のコレクションのために、著者は今日本の社会問題や日本の生活などの本のコレクションを追加することを提案する。

KATA PENGANTAR

Dengan mengucapkan puji syukur kepada Tuhan Yang Maha Esa, karena berkat rahmat dan karunia-Nya, penulis dapat menyelesaikan skripsi yang berjudul *Analisis Faktor-Faktor Terjadinya Tindakan Jidougakutai oleh Tokoh Single Mother Dalam Drama Mother*. Penulisan skripsi ini merupakan salah satu syarat yang harus dipenuhi untuk menyelesaikan program studi S1 pada jurusan Bahasa dan Sastra Jepang di STBA JIA Bekasi.

Penulis menyadari bahwa tanpa bantuan, bimbingan, serta dukungan dari berbagai pihak, baik ketika masa perkuliahan sampai dengan pada penyusunan skripsi ini, akan sangat sulit bagi penulis untuk dapat menyelesaikan skripsi ini. Oleh karena itu, dalam kesempatan ini dengan ketulusan hati penulis ingin mengucapkan terima kasih kepada:

1. Yusnida Eka Puteri, S.S., M.Si, selaku dosen pembimbing I yang senantiasa meluangkan waktu dan pikirannya, dengan segala kesabaran telah membimbing dan mengarahkan penulis selama penulisan skripsi ini.
2. Elli Rahmawati Z., S.Pd., M.Si, selaku dosen pembimbing II yang juga senantiasa meluangkan waktu dan pikirannya, dengan segala kesabaran telah membimbing dan mengarahkan penulis selama penulisan skripsi ini.
3. Drs. H. Sudjianto, M.Hum, selaku Ketua STBA JIA Bekasi.

4. Rainhard Oliver, S.S., M.Pd, selaku Ketua Program Studi Sastra Jepang STBA JIA Bekasi.
5. Siti Nur Isnaini, S.S., M.Pd, selaku dosen pembimbing akademik.
6. Segenap dosen STBA JIA Bekasi yang telah membimbing dan mendidik penulis selama menjadi mahasiswa di STBA JIA Bekasi.
7. Seluruh staf karyawan STBA JIA Bekasi.
8. Keluarga tercinta, ibu, ayah, dan adik yang selalu mendukung dan mendo'akan penulis untuk terus semangat dalam mengerjakan dan menyelesaikan skripsi ini.
9. Teman-teman kelas malam dan shift A angkatan 2014. Terima kasih atas segala momen-momen yang sangat berharga dan tak terlupakan.
10. Semua pihak yang turut membantu dalam penyelesaian skripsi ini.

Penulis menyadari bahwa dalam penulisan skripsi ini masih jauh dari kata sempurna. Namun demikian, penulis telah berusaha semampu dan semaksimal mungkin untuk menyelesaikan skripsi ini dengan sebaik-baiknya. Oleh karena itu, penulis sangat mengharapkan kritik dan saran positif yang bersifat membangun, supaya skripsi ini dapat bermanfaat bagi para pembaca umumnya dan khususnya bagi para pembelajar Bahasa dan Sastra Jepang.

Bekasi, 1 Agustus 2018

Pina Ismayanti

DAFTAR ISI

Lembar Judul.....	i
Lembar Persetujuan.....	ii
Lembar Pengesahan	iii
Surat Keterangan Layak Ujian Sidang.....	iv
Lembar Pernyataan Keaslian Skripsi	vi
Moto dan Persembahan	vii
Abstraksi	viii
Yoshi	ix
Kata Pengantar	xxi
Daftar Isi	xxiii
Daftar Gambar	xxvi

BAB I PENDAHULUAN

A. Latar Belakang Masalah	1
B. Rumusan dan Fokus Masalah	10

C. Tujuan dan Manfaat Penelitian	10
D. Definisi Operasional	12
E. Sistematika Penelitian	13

BAB II LANDASAN TEORITIS

A. Keluarga	16
1. Definisi Keluarga	16
2. Struktur Keluarga	17
3. Masalah Keluarga	18
a. Ekonomi Keluarga di Jepang	20
b. Perceraian di Jepang	27
c. <i>Single Mother</i>	31
d. <i>Parenting Stress</i>	33
B. <i>Jidougyakutai</i>	39
C. Pola Asuh Anak di Jepang	57
1. <i>Ryousai Kenbo</i>	60
2. <i>Kyouiku Mama</i>	63
3. <i>San Sai Ji Shinwa</i>	65
D. Sosiologi Sastra	67
E. Penelitian Relevan	70

BAB III METODOLOGI PENELITIAN

A. Metode Penelitian	75
1. Waktu dan Tempat Penelitian	75

2. Jenis Penelitian	76
B. Prosedur Penelitian	77
1. Tahapan Persiapan	77
2. Tahapan Implementasi	77
3. Tahapan Laporan	79
C. Teknik Pengumpulan Data	79
D. Teknik Analisis Data	80
E. Sumber Data	82
BAB IV ANALISIS DATA	
A. Sinopsis Drama “ <i>Mother</i> ”	83
B. Paparan Data	90
C. Analisis Data	93
D. Interpretasi Data	139
BAB V KESIMPULAN DAN SARAN	
A. Kesimpulan	151
B. Saran	156
Daftar Acuan	157
Lampiran	164
Riwayat Hidup Penulis	166

DAFTAR GAMBAR

Gambar 1.1. : Peringkat Negara dengan Biaya Hidup Tinggi	2
Gambar 2.1. : Tingkat perceraian dengan perbandingan ada atau tidaknya tanggungannya anak	29
Gambar 2.2. : Persentase pelaku tindakan <i>jidougyakutai</i>	43
Gambar 2.3. : Grafik jumlah tindakan <i>jidougyakutai</i> di Jepang	44
Gambar 2.4. : Grafik jumlah tindakan <i>jidougyakutai</i> sesuai bentuknya	44
Gambar 4.1. : Poster serial drama “ <i>Mother</i> ”	83

BAB I

PENDAHULUAN

A. Latar Belakang Masalah

Seperti yang kita ketahui bahwa Jepang merupakan salah satu negara maju yang terletak di benua Asia. Sama halnya dengan negara-negara maju lainnya, kemajuan Jepang didukung oleh beberapa faktor, salah satunya adalah dari segi ekonomi. Menurut Nobuhiro (2007: 121), pertumbuhan ekonomi di Jepang saat ini disebabkan oleh adanya modernisasi dari Restorasi Meiji ke pra-Perang Dunia II, melaju ke rekonstruksi pasca-Perang Dunia II, yang diikuti pula oleh pertumbuhan ekonomi yang tinggi.

Akibat dari pertumbuhan ekonomi tersebut, berdampak pula terhadap biaya hidup yang tinggi, seperti yang dilansir pada grafik dibawah tentang *Peringkat Negara dengan Biaya Hidup Tinggi (seikatsuhi ga takai kuni ranking/生活費が高い国ランキング)* (<http://info-graphic.me/map/1110>, diakses pada 17 November 2017), yang diukur dan ditandai dengan warna, yang dimulai dari warna coklat tua yang menandakan biaya hidup tertinggi, sampai warna biru muda yang menandakan biaya hidup terendah.



Gambar 1.1 : Peringkat Negara dengan Biaya Hidup Tinggi

(Sumber : http://www.huffingtonpost.com/2015/01/21/map-expensive-countries_n_6510018.html?utm_hp_ref=world&ir=World, oleh Harry Bradford, 21 Januari 2015)

Dari gambar grafik tersebut, terlihat jelas bahwa negara Jepang termasuk kedalam negara dengan biaya hidup yang tinggi di dunia, dan khususnya di benua Asia. Oleh karena hal itu, mengharuskan masyarakat yang ada didalamnya untuk bersaing dan bekerja keras demi memenuhi kebutuhan hidupnya sehari-hari.

Sosok ayah sesuai dengan tugasnya dalam keluarga di berbagai negara manapun, memiliki peranan yang sama, yakni sebagai pencari nafkah untuk keluarganya. Begitu pula sosok ayah di Jepang. Namun dewasa ini, banyak pula perempuan yang telah menjadi istri/ibu dalam suatu keluarga ikut bekerja untuk membantu memenuhi kebutuhan dalam keluarganya.

Menurut Nobuhiro (2007: 98), partisipasi perempuan di kehidupan sosial meningkat sebagai akibat dari pertumbuhan ekonomi yang pesat, dan juga bertambahnya jumlah *two-income couples* (suami dan istri bekerja). Akibatnya, waktu yang dihabiskan bersama anggota keluarga menurun. Dari hal ini terlihat jelas semakin berkurangnya waktu mereka (para orangtua) bersama keluarganya, terutama dalam hal memberi perhatian terhadap anak. Lalu bagaimana apabila peranan ayah benar-benar tidak ada dalam suatu keluarga? Hal itu pun sangat banyak terjadi di negeri Sakura, yang mana tingkat perceraianya terus meningkat. Nobuhiro (2007: 101) mengungkapkan bahwa, tingkat perceraian di Jepang meningkat dari tahun ke tahun karena adanya perubahan kesadaran dari orang-orang yang melakukan perceraian dalam melatarbelakanginya. Sebagai alasan perceraian dalam beberapa tahun terakhir ini yaitu disebabkan oleh “ketidakcocokan”, “penganiayaan fisik dan mental”, dan lain sebagainya. Sehingga dikarenakan tidak adanya peranan suami dalam keluarga tersebut timbulah istilah *single mother*.

Fenomena *single mother* di dunia semakin meningkat, termasuk di negara Jepang. Terbukti dari data “*Survei Nasional: Tingkat Kemiskinan di Jepang Melonjak*” yang diungkapkan Juli 2014, laporan koresponden Tribunnews.com, Richard Susilo dari Tokyo (Selasa, 4 November 2014, 15:56 WIB), mengumumkan bahwa di dalam rumah tangga, khususnya untuk ibu tunggal (*single mother*) bersama anaknya, angka kemiskinan menjadi 54,6%. Sedangkan tingkat kemiskinan untuk satu keluarga yang

lengkap (suami-istri) juga meningkat dengan angka kemiskinan menjadi 12,4%. Menurut ulasan survei tersebut karena banyaknya perceraian di Jepang. Tidak heran tingkat kemiskinan *single mother* di Jepang saat ini sangat tinggi yaitu 54,6%. Ayah yang seharusnya memberikan tunjangan kepada anak, ternyata saat ini 74% ayah karena sudah cerai, tidak lagi memberikan tunjangan pertumbuhan bagi kehidupan anaknya yang biasanya dirawat oleh sang ibu. Itulah sebabnya menjadi semakin miskin seorang *single mother*.

Dari hal di atas menjadikan banyaknya para ibu tunggal (*single mother*) harus membagi waktu mereka antara sebagai tulang punggung keluarga dengan sebagai ibu rumah tangga. Dari kegiatan yang super padat seperti itu akan menyebabkan kelelahan yang amat sangat berat, sehingga tidak jarang dari kelelahan tersebut akan membuat mereka stres, dan dari stres yang dialaminya tersebut pula bisa saja diluapkan dengan emosi, yang biasa menjadi imbasnya adalah orang terdekat, termasuk anak kandungnya sendiri. Dari situlah timbul yang dinamakan dengan kekerasan terhadap anak yang biasa disebut dengan istilah *jidougyakutai* (児童虐待).

Jidougyakutai merupakan salah satu masalah sosial di Jepang dulu (berawal dari 1990-an) hingga sekarang. Menurut Kazumi (2014: 109), suatu tindakan tersebut bisa disebut kedalam kategori *jidougyakutai* apabila masuk kedalam lima kategori berikut: (1) Penganiayaan fisik (*karadateki gyakutai*/体的虐待), (2) Pengabaian (*negurekuto*/ネグレクト),

(3) Penganiayaan secara psikologis (*shinriteki gyakutai*/心理的虐待), (4) Pelecehan seksual (*seiteki gyakutai*/性的虐待), dan (5) Pengabaian psikologis (*shinriteki negurekuto*/心理的ネグレクト).

Dari berbagai persoalan masalah kehidupan manusia yang timbul seperti yang dijelaskan diatas, untuk saat ini tidak jarang hal tersebut disajikan kedalam bentuk sastra, yakni salah satunya adalah dalam bentuk drama.

Menurut Jabrohim dkk. (2003: 70), karya sastra merupakan sebuah sistem yang mempunyai konvensi-konvensi sendiri. Dalam sastra ada jenis-jenis sastra (*genre*) dan ragam-ragam. Jenis sastra yang meliputi prosa dan puisi, prosa (fiksi) mempunyai ragam: cerpen, novel, dan roman (ragam utama). *Genre* puisi mempunyai ragam: puisi lirik, syair, pantun, soneta, balada dan sebagainya.

Suroso (2015: 9) menjelaskan bahwa drama sebagai salah satu *genre* sastra, memiliki kekhasan dibandingkan dengan *genre* lain yaitu puisi dan fiksi. Puisi dalam menyampaikan pesan melalui pemadatan makna dengan membatasi kata dan menyajikan kosakata pilihan yang imajinatif serta menghasilkan multimakna bagi pembacanya. Demikian pula fiksi baik cerpen maupun novel menyajikan narasi panjang untuk menggambarkan tokoh dan amanat yang akan disampaikannya. Sedangkan drama memiliki kekhasan dari sudut pemakaian bahasa dan penyampaian amanatnya. Pemaparan bahasa dalam karya sastra drama berupa pemakaian petunjuk lakuan yang menggambarkan suasana dan

penggunaan dialog para tokoh. Dari segi isi pesan, penulis drama mengisahkan kehidupan manusia dengan berbagai persoalannya.

Menurut Moulton, drama adalah “hidup yang dilukiskan dengan gerak” (*life presented in action*). Jika dalam fiksi menggerakkan imajinasi pembaca, maka dalam drama kita melihat kehidupan manusia yang diekspresikan secara langsung di hadapan kita. Drama, menurut Balthazar Verhagen adalah kesenian yang melukiskan sifat dan sikap manusia dengan gerak. Dengan demikian drama adalah konflik manusia dalam bentuk dialog yang diproyeksikan pada pentas dengan menggunakan dialog dan *action* di hadapan sejumlah penonton (*audience*). (Suroso, 2015:38)

Drama lahir sebagai bentuk karya atau hasil aktifitas pertunjukan lakon yang berangkat dari naskah. Menurut Harymawan dalam Suroso (2015: 10) menjelaskan bahwa, persoalan yang dihadapi dalam naskah drama adalah konflik manusia berupa lakuan yang tercermin dalam dialog dan petunjuk lakuan. Materi konflik yang di alami dari kehidupan, yaitu hubungan antar manusia, hubungan manusia dengan alam, dan hubungan manusia dengan Tuhan. Kisah perjalanan manusia dan berbagai peristiwanya merupakan materi dari konflik drama yang disorot sejak: lahir dan mati, kawin dan cerai, melakukan kejahatan dan hukuman, perang dan damai. Sedangkan temanya berupa keberanian dan kepengecutan, kesetiaan dan pengkhianatan, keserakahan dan murah hati. Emosinya berupa kemarahan, cinta, benci, ketakutan, dan kenikmatan.

Dasar dari materi naskah drama adalah konflik kehidupan dengan kisah awal, konflik, dan penyelesaian. Hukum drama menurut Ferdinand Brunetiere (Harymawan dalam Suroso, 2015: 11) berpokok pada kisah “protagonis” yang menginginkan sesuatu, dan “antagonis” yang menentang dipenuhinya keinginan itu.

Pesan yang disampaikan penulis naskah drama terhadap kehidupan bertujuan untuk memberi informasi, mendidik, memberi hiburan, sekaligus mengkritik persoalan yang terjadi di masyarakat (Suroso, 2015: 10).

Sesuai yang telah dijelaskan sebelumnya bahwa drama yang merupakan salah satu bagian dari karya sastra, pastinya memiliki unsur-unsur pembangun yang menjadikan karya tersebut nampak seperti nyata dan sungguh, sesuai dengan konflik kehidupan manusia yang diambil. Adapun unsur pembangun karya sastra dibagi menjadi dua, yaitu unsur intrinsik, dan ekstrinsik.

Unsur ekstrinsik adalah unsur-unsur yang berada diluar karya sastra itu, tetapi secara tidak langsung mempengaruhi bangunan atau sistem organisme karya sastra. Unsur-unsur ekstrinsik ini antara lain adalah keadaan subjektivitas individu pengarang yang mempunyai sikap, keyakinan, dan pandangan hidup yang semuanya akan mempengaruhi karya sastra yang ditulisnya. Sedangkan Unsur intrinsik adalah unsur-unsur yang membangun karya sastra itu sendiri. Unsur instrinsik sebuah karya sastra terdiri atas: tema, latar, amanat, alur, tokoh, sudut pandang, dan gaya bahasa. (Salda Yanti: 2015)

Menurut Waluyo dalam Suroso (2015: 11-12) menjelaskan bahwa struktur drama terdiri dari (1) penokohan dan perwatakan, (2) *plot* atau kerangka cerita, (3) dialog (percakapan), (4) *setting*/landasan/tempat kejadian, (5) tema/nada dasar cerita, (6) amanat, (7) petunjuk teknis, dan (8) drama sebagai interpretasi kehidupan.

Kisah kehidupan sosial masyarakat yang dituangkan dalam drama seperti ini termasuk kedalam kajian sosiologi sastra. Sosiologi sastra merupakan teori yang membahas tentang masalah sosial yang terjadi di masyarakat. Dalam penelitian ini, penulis menggunakan sosiologi sastra menurut Ian Watt yaitu sastra sebagai cerminan kehidupan masyarakat yang terjadi di suatu area atau daerah sesuai dengan fokus masalah manusia.

Istilah *Single Mother* dan tindakan *Jidougyakutai* juga terdapat dalam drama Jepang yang berjudul "*Mother*". Drama yang ditulis oleh Yuji Sakamono dan disutradarai oleh Nobuo Mizuta (NTV); Makoto Naganuma ini disiarkan di Nippon TV mulai 14 April 2010 sampai 23 Juni 2010. Di dalam drama tersebut terdapat tindakan *jidougyakutai* yang dilakukan oleh ibu kandungnya sebagai *single mother* dan kekasihnya terhadap anak kandungnya sendiri.

Drama "*Mother*" menceritakan tentang seorang anak kecil berumur 7 tahun bernama Michiki Rena yang sering menerima tindakan *gyakutai* dari Michiki Hitomi (ibu kandungnya sendiri) dan kekasih ibunya. Hal tersebut disadari oleh Suzuhara Nao, seorang guru pengganti di SD tempat

sekolah Rena. Nao merupakan seorang perempuan kaku yang sebenarnya tidak ingin menjadi guru SD dan tidak menyukai anak-anak. Namun, setelah melihat keadaan Rena yang tersiksa sedemikian rupa akibat ulah ibunya membuat insting keibuan pada diri Nao muncul. Tanpa rencana yang matang, Nao mengajak Rena untuk kabur bersamanya meninggalkan Hokkaido (tempat tinggal mereka). Sejak saat itu pula Nao memutuskan untuk menjadi ibu dari Rena (yang kemudian diberi nama baru “Tsugumi”).

Berdasarkan survei yang dilakukan oleh situs Yahoo! Japan bulan September 2010 terhadap pemirsa televisi di Jepang, drama “*Mother*” menduduki peringkat teratas dalam urutan drama yang dianggap paling memuaskan pemirsa. Total suara yang masuk bagi “*Mother*” dalam survei tersebut mencapai 22%. Oleh sebab itu, semakin menambah ketertarikan saya untuk menjadikan drama tersebut sebagai objek penelitian saya saat ini.

Dengan melihat adanya pengaruh antara semakin meningkatnya jumlah perceraian di Jepang, dengan tingkat kemiskinan *single mother* di Jepang yang sangat tinggi, serta semakin banyaknya pula tingkat kekerasan terhadap anak (*jidouyakutai*) di Jepang, yang mayoritas dilakukan oleh ibu kandungnya sendiri. Oleh karena itu penulis merasa tertarik untuk melakukan penelitian yang lebih lanjut tentang hal tersebut, maka dipilihlah judul “**Analisis Faktor-Faktor Penyebab Terjadinya**

Tindakan *Jidougyakutai* oleh Tokoh *Single Mother* dalam Drama *Mother*”.

B. Rumusan dan Fokus Masalah

1. Rumusan Masalah

Berdasarkan latar belakang diatas, maka penulis merumuskan masalah sebagai berikut:

- a. Faktor-faktor apa saja yang menyebabkan terjadinya tindakan *Jidougyakutai* yang dilakukan oleh tokoh *Single Mother* dalam drama *Mother* tersebut?
- b. Kategori *Jidougyakutai* apa saja yang terdapat dalam drama *Mother* tersebut?

2. Fokus Masalah

Untuk mempermudah penulis dalam menganalisis hasil penelitian, maka penelitian ini difokuskan pada percakapan antar tokoh (*verbal*) dan situasi (*nonverbal*) yang mengarah pada tindakan *Jidougyakutai* yang dilakukan oleh tokoh *Single Mother* yang bernama Michiki Hitomi terhadap anak kandungnya sendiri yang bernama Michiki Rena dalam drama *Mother*.

C. Tujuan dan Manfaat Penelitian

1. Tujuan Penelitian

Tujuan dari penelitian ini adalah sebagai berikut:

- a. Mendeskripsikan faktor-faktor apa saja yang dapat mempengaruhi terjadinya tindakan *Jidougyakutai* oleh tokoh *Single Mother* dalam drama *Mother*.
- b. Mengetahui termasuk kategori tindakan *Jidougyakutai* apa saja yang terdapat dalam drama tersebut, disesuaikan dengan konteks *verbal* dan *nonverbal* yang tergambar dalam drama *Mother*.

2. Manfaat Penelitian

a. Manfaat Teoretis

Manfaat teoretis dari penelitian ini adalah:

- 1) Menambah wawasan bagi para pelajar bahasa Jepang, khususnya mahasiswa jurusan Sastra Jepang di STBA JIA, mengenai salah satu masalah sosial yang terdapat di Jepang, yaitu *jidougyakutai* yang dilakukan oleh *single mother*.
- 2) Untuk memberi gambaran tentang bentuk-bentuk dari *jidougyakutai* apa saja yang dilakukan oleh seorang *single mother* tersebut.

b. Manfaat Praktis

Manfaat praktis dari penelitian ini adalah untuk menambah khasanah ilmu, memberikan informasi, serta memberikan wawasan baru, khususnya untuk diri saya sendiri selaku peneliti, dan umumnya kepada pembaca termasuk mahasiswa jurusan Sastra Jepang di STBA JIA, mengenai status seseorang yang menjadi

Single Mother dapat menjadi penyebab terjadinya tindakan *Jidougyakutai* dalam masyarakat Jepang modern ini.

D. Definisi Operasional

Untuk memahami penelitian ini, maka penting dengan adanya definisi operasional. Penggunaan definisi operasional yaitu digunakan agar memudahkan kita dalam memahami isi penelitian. Adapun definisi operasional dalam penelitian ini antara lain:

1. *Jidougyakutai* (児童虐待)

Menurut Kazumi (2014: 109-126) menjelaskan bahwa yang dimaksud dengan *Jidougyakutai* (児童虐待) yaitu adanya kekerasan fisik, kurungan, dan juga pelanggaran lain terhadap anak. Tergantung pada isinya, *jidougyakutai* diklasifikasikan menjadi lima kategori yaitu: (1) Penganiayaan fisik (*karadateki gyakutai/体的虐待*), (2) Pengabaian (*negurekuto/ネグレクト*), (3) Penganiayaan secara psikologis (*shinriteki negurekuto/心理的虐待*), (4) Pelecehan seksual (*seiteki negurekuto/性的虐待*), dan (5) Pengabaian psikologis (*shinriteki negurekuto/心理的ネグレクト*).

2. Masalah Sosial

Menurut Kornblum dan Julian (2012: 5), masalah sosial adalah kondisi ketika cukup banyak orang dalam masyarakat setuju bahwa ada kondisi yang mengancam kualitas hidup mereka dan nilai-nilai mereka yang paling dihargai, dan mereka juga setuju bahwa sesuatu harus dilakukan untuk memperbaiki kondisi itu.

3. *Single Mother*

Menurut Dwiyani (2009) menjelaskan bahwa *single parent (single mother or single father)* adalah bapak atau ibu yang mengasuh anak-anaknya sendirian tanpa didampingi oleh suami/istri atau pasangan hidup yang disebabkan oleh perceraian, kematian pasangan hidup, terpisah tempat tinggal, kehamilan diluar pernikahan dan memutuskan untuk mengadopsi anak dan diasuh sendiri tanpa proses pernikahan. (Fadhla Hasanah dan Ni'matuzahroh, 2017: 386)

4. Tokoh dan Penokohan

Menurut Abrams, tokoh cerita (*character*) adalah orang-orang yang ditampilkan dalam suatu karya naratif atau drama, yang oleh pembaca ditafsirkan memiliki kualitas moral yang diekspresikan dalam ucapan dan apa yang dilakukan dalam tindakan. Sedangkan penokohan atau karakter adalah pengembang watak yang meliputi pandangan pelaku, keyakinan, dan kebiasaan yang dimiliki para tokoh yang mempunyai tempat tersendiri dalam suatu karya sastra. (Salda Yanti: 2015)

E. Sistematika Penelitian

Dalam penelitian ini, penulis akan menguraikannya dalam lima bab. Hal ini bertujuan untuk menghasilkan karya tulis yang sistematis. Pada Bab I penulis akan menguraikan masalah yang menjadi latar belakang penulisan penelitian, rumusan dan fokus masalah yang akan diteliti supaya penelitian fokus dan terarah, tujuan dan manfaat penelitian untuk

memecahkan masalah dan memberikan kontribusi terhadap peneliti dan pembaca, definisi operasional untuk mengkaji teori-teori dari para ahli, dan sistematika penelitian yang mencakup susunan isi dari skripsi. Pada Bab II penulis akan menjelaskan tentang keadaan masalah sosial yang ada di Jepang (ekonomi, perceraian, *single mother*, *parenting stress*), fenomena *jidouyakutai* di Jepang, pola asuh yang diterapkan ibu di Jepang, teori sosiologi sastra, serta penelitian relevan untuk memperkuat penelitian. Pada Bab III penulis akan menjelaskan tentang metodologi penelitian, dengan menampilkan metode penelitian, prosedur penelitian, teknik pengumpulan data, teknik analisis data, dan sumber data. Pada Bab IV penulis akan memaparkan, menganalisis, menginterpretasikan data mengenai tindakan *jidouyakutai* yang dilakukan oleh tokoh *single mother* serta bentuk-bentuk *jidouyakutai* yang terjadi di dalam drama *mother*. Pada Bab V berisi tentang kesimpulan dari bab-bab sebelumnya. Dari kesimpulan tersebut, penulis akan mengemukakan saran-saran, khususnya untuk para pelajar bahasa Jepang.

BAB II

LANDASAN TEORETIS

Setiap penelitian memerlukan teori sebagai landasan untuk menyelesaikan suatu masalah. Oleh karena itu, perlu adanya kerangka teori yang berkesinambungan dan sesuai dengan masalah penelitian sehingga dapat menerangkan dan memberikan gambaran dari sudut mana penelitian ini akan di sorot. Untuk meneliti tentang faktor-faktor penyebab terjadinya tindakan *jidougyakutai* oleh tokoh *single mother* dalam drama “*Mother*”, penulis menganalisis dengan menggunakan pendekatan sosiologi sastra, serta teori tambahan dari Durkheim tentang fakta/gejala sosial. Dalam penelitian ini, penulis lebih banyak mengambil sumber-sumber yang berkaitan dengan masalah-masalah yang terjadi dalam keluarga, khususnya keluarga di Jepang. Hal itu bisa dilihat dalam objek penelitian yang penulis ambil yaitu drama “*Mother*”, yang mana dalam judul drama itu sendiri sangat terlihat jelas akan adanya unsur keluarga didalamnya. Oleh karena itu, pertama-tama penulis akan menjelaskan tentang keluarga, masalah keluarga Jepang (ekonomi keluarga, perceraian, *single mother*, *parenting stress*), kemudian dilanjutkan dengan penjelasan tentang *jidougyakutai*, pola asuh yang diterapkan oleh ibu terhadap anak di Jepang (*ryousai kenbou*, *kyouiku mama*, *san sai ji shinwa*), sosiologi sastra, dan penelitian yang relevan.

A. Keluarga

1. Definisi Keluarga

Apabila mendengar kata keluarga, kita cenderung menganggap keluarga sebagai tempat di mana kita menemukan kenyamanan, kasih sayang, dan keamanan, serta ada juga yang menganggap bahwa adanya hubungan keluarga yang bersahabat.

Menurut Plato, keluarga merupakan unit terkecil dari organisasi sosial (Doriza, 2015: 3). Sedangkan menurut Salvicion dan Ara Celis dalam Arifin (2015: 228) definisi keluarga adalah dua atau lebih individu yang tergabung karena hubungan darah, hubungan perkawinan atau pengangkatan yang hidup dalam suatu rumah tangga, berinteraksi satu sama lain, dan dalam perannya masing-masing menciptakan serta mempertahankan suatu kebudayaan. Dari kedua definisi tersebut dapat disimpulkan bahwa, keluarga adalah unit organisasi sosial terkecil yang hidup dalam suatu rumah tangga, yang didalamnya terdapat interaksi satu sama lain, dan setiap orangnya memiliki peranannya masing-masing.

Peranan-peranan penting yang dimiliki setiap individu yang ada dalam suatu keluarga tersebut, yaitu seperti halnya sosok ayah yang bertugas mencari nafkah, dan ibu mendidik anak serta mengerjakan pekerjaan rumah. Tugas dan peranan seperti ini merupakan sesuatu hal yang umum terjadi dan diterapkan dalam suatu keluarga di negara manapun, termasuk keluarga di Jepang.

2. Struktur Keluarga

Struktur keluarga merupakan tipe atau bentuk keluarga. Dalam jurnal “*Perubahan Peran Pengasuhan Anak di Jepang pada Era Shousika*”, Ghiamitasya (2012: 98) menjelaskan bahwa, struktur keluarga di Jepang telah mengalami banyak perubahan dalam beberapa dekade terakhir, dari yang berpusat pada aturan konfusianisme hingga kini yang lebih didasarkan oleh ideologi demokratis Barat. Pada periode Jomon (8000SM-200SM), suami-istri tinggal secara terpisah dan berpusat pada wanita, sehingga membentuk sistem keluarga maternal. Pada periode berikutnya, periode Yayoi (200SM-300M), orang-orang mulai terlibat dalam pertanian yang berpusat pada beras dan memperoleh kepemilikan atas beras dan tanah. Oleh karena itu, laki-laki dewasa, memperoleh kekuasaan di bidang ekonomi dan pekerjaan, yang menjadi posisi dominan di dalam masyarakat. Memasuki periode Heian (abad 8-12) , semakin banyak pasangan suami-istri yang tinggal bersama, sehingga sosok ayah semakin menonjol dan membentuk sistem keluarga patrilineal. Pada periode Edo (1600-1868), sistem keluarga tradisional (*ie*) tumbuh dan bertahan kuat dalam keluarga Jepang. Sebagian besar keluarga di Jepang membentuk sebuah keluarga besar (*daikazoku*). Namun setelah perang industrialisasi kian berkembang, bentuk keluarga mengalami perubahan secara bertahap dari *daikazoku* menjadi *shokazoku* (keluarga kecil) atau *kaku kazoku* (keluarga inti).

Nobuhiro (2007: 99) menjelaskan bahwa, sistem *ie* pada keluarga Jepang telah mendukung sistem keluarga Jepang sebelum Perang Dunia ke-II. Keluarga yang terdiri dari tiga generasi atau lebih pada era itu, telah menembus kehidupan sehari-hari, seperti pembagian kerja dalam keluarga, serta hak untuk berbicara ketika memutuskan hal-hal penting dalam keluarga. Dalam hal itu, fungsi bentuk keluarga "Laki-laki bekerja, perempuan melakukan pekerjaan rumah tangga dan membesarkan anak" pada saat itu terlaksana semana mestinya.

Tidak seperti masa sebelum Perang Dunia ke-II, sesuai dengan penjelasan sebelumnya di atas bahwa setelah perang, industrialisasi kian berkembang, bentuk keluarga mengalami perubahan secara bertahap dari *daikazoku* menjadi *shokazoku* (keluarga kecil) atau *kaku kazoku* (keluarga inti). Menurut Nimkoff dalam Kumagai (2015: 3), mendefinisikan keluarga inti sebagai unit keluarga terkecil yang terdiri dari ayah, ibu dan anak. Bersamaan dengan berkembangnya industrialisasi, pertumbuhan ekonomi di Jepang pun ikut meningkat.

3. Masalah Keluarga

Nobuhiro (2007: 100) menyatakan bahwa, sejak periode pertumbuhan ekonomi yang tinggi, karena perkembangan teknologi yang pesat dan peningkatan status sosial wanita, tempat kerja untuk wanita pun menyebar. Dalam hal ini sangat berpengaruh terhadap sistem keluarga inti di Jepang saat ini. Terutama berpengaruh terhadap keharmonisan dalam suatu keluarga. Menurut Kumagai & Masako (2016: 14)

“A woman who works outside the home tends to abuse her children more and experiences distress significantly more frequently than those who are not working outside the home.”

Seorang wanita yang bekerja di luar rumah cenderung lebih banyak menyalahgunakan anak-anaknya dan lebih sering mengalami penderitaan daripada mereka yang tidak bekerja di luar rumah.

Dari penjelasan tersebut, bahwa seorang perempuan yang telah berkeluarga kemudian bekerja, banyak yang mengalami stres dan kelelahan, sehingga pada akhirnya menimbulkan luapan emosi, dan yang menjadi imbasnya adalah orang terdekat yaitu anaknya sendiri.

Toshiya (2004: 36) menjelaskan bahwa saat ini banyak masalah yang mengganggu solidaritas keluarga, yaitu seperti penurunan angka kelahiran, menurunnya angka pernikahan dan meningkatnya tingkat perceraian, pelecehan anak-anak dan orang tua, kekerasan suami-istri, perselisihan ketergantungan dan warisan, dan lainnya tersebar di hampir seluruh keluarga.

Menurut Abu Ahmadi dalam Arifin (2015: 228-229) ada beberapa faktor yang sangat berpengaruh terhadap keluarga, yaitu: status sosial ekonomi keluarga, faktor keutuhan keluarga, sikap dan kebiasaan orang tua. Hal ini hampir mirip dengan penjelasan Kumagai & Masako (2016: 161) bahwa:

“Each family faces various problems, such as working mothers and work-life balance, raising children, care of elderly parents, financial problems, and single parent families, to name a few.”

Untuk beberapa nama dalam setiap keluarga menghadapi berbagai masalah, seperti ibu yang bekerja dan keseimbangan

kehidupan kerja, membesarkan anak, merawat orangtua lanjut usia, masalah keuangan, dan keluarga orang tua tunggal.

Dari kutipan diatas bahwa masalah yang terjadi dalam keluarga saat ini, terkhusus untuk keluarga di Jepang yaitu dari segi ekonomi keluarga dan orang tua tunggal. Dalam hal ini, akibat dari kebutuhan akan keuangan keluarga dan keharusan mengurus keluarga seperti anak oleh orang tua tunggal, pastinya akan menyebabkan mereka lelah akibat tanggung jawab mereka yang ganda, dan dampak dari lelah tersebut akan timbul stres, dari sinilah kemudian bisa muncul yang dinamakan dengan *parenting stress*.

a. Ekonomi Keluarga di Jepang

Ekonomi sebagai disiplin ilmiah (atau ilmu), termasuk ke dalam ilmu sosial yang mengkaji masalah utama, yakni kelangkaan, suatu kondisi yang disebabkan oleh kombinasi yang tidak seimbang antara keinginan yang tidak terbatas dan sumber daya yang terbatas (Doriza, 2015: 6).

Dalam buku yang berjudul “*Understanding Child Abuse and Neglect-Ninth Edition*” menjelaskan bahwa:

“An industrialized, impersonal climate has increased mobility, as wage earners follow the expansion or relocation of businesses in search of satisfying, better-paying, or continuing positions.” (Crosson, 2014: 21)

Dalam sebuah industri, iklim impersonal telah meningkatkan mobilitas sebagai penerima upah yang mengikuti ekspansi (pertumbuhan dunia usaha) atau relokasi/rencana bisnis, untuk mencari kepuasan gaji yang baik atau melanjutkan posisi.

Sehingga pada hal ini dapat menimbulkan penekanan pada gaya hidup yang lebih cepat, lebih kompetitif, dan lebih makmur.

Seperti yang kita ketahui bahwa Jepang merupakan salah satu negara maju yang berada di benua Asia. Salah satu pendukung dari majunya negara Jepang yaitu dari perindustrian Jepang yang semakin maju. Oleh karena hal itu berdampak pada ekonomi Jepang yang tinggi.

Dibalik faktor perindustrian di Jepang yang semakin berkembang dan maju, menyebabkan paham materialisme di Jepang semakin berkembang pula. Sebagai contoh saja untuk kasus *gyaru* yang pertama kali dikenal pada tahun 1980-an, gadis di kota-kota pada masa itu dipengaruhi oleh paham materialisme pada puncak pertumbuhan ekonomi Jepang (<https://id.wikipedia.org/wiki/Gyaru>).

Kemajuan ekonomi di Jepang merupakan suatu perubahan yang memerlukan proses dan tahapan-tahapan yang panjang. Majunya ekonomi Jepang yang dapat kita lihat sekarang, berpengaruh terhadap biaya hidup di Jepang yang tinggi, kemudian berimbas pada perekonomian keluarga yang ada di Jepang, dan pada akhirnya tidak menutup kemungkinan untuk orang biasa yang terkena dampaknya akan mengalami stres akibat ketidak mampuan ataupun kesulitan mereka akan memenuhi kebutuhan hidupnya. Dalam hal ini, yang mana keluarga sebagai unit terkecil pelaku ekonomi, maka stres yang

dimaksud disini adalah stres yang dialami oleh orang tua, yang biasa disebut dengan *parenting stress*.

Pertumbuhan ekonomi di Jepang saat ini disebabkan oleh adanya modernisasi dari Restorasi Meiji ke pra-Perang Dunia II, melaju ke rekonstruksi pasca-Perang Dunia II, yang diikuti pula oleh pertumbuhan ekonomi yang tinggi. Pemerintah Meiji saat itu, yang melihat keadaan invasi Asia terhadap kekuatan Barat, meningkatkan kebijakan ekonomi untuk mendorong industri agar dapat memantulkan tekanan besar dari kekuatan Barat. Akibatnya, pada tahun 1918, ia menjadi negara industri di mana komposisi industri menyumbang 57% dari rasio komposisi industri. Di bawah rezim masa perang sejak tahun 1930-an, negara Jepang menjadi struktur industri yang berpusat pada industri militer, tetapi ketika dikalahkan, Jepang menjadi negara yang sangat inflasi. Setelah Perang Dunia II, ekonomi Jepang bangkit kembali dengan laju yang belum pernah terjadi sebelumnya di dunia dari kehancuran dan kekalahan. Diperkirakan bahwa faktor-faktor yang memungkinkan rekonstruksi ini adalah bantuan ekonomi Amerika Serikat, permintaan khusus karena perang Korea, dan sebagainya. Tingkat produksi kembali ke tingkat sebelum perang pada tahun 1955, dan pada tahun 1956, *White Paper on the Economy* (経済白書)

dinyatakan "Tidak lagi setelah perang (もはや、戦後ではない)"¹. Bagian Jepang dari GDP (*Gross Domestic Product*/Produk Domestik Bruto) dunia secara keseluruhan telah meningkat dari >2% pada tahun 1955 menjadi sekitar 10% pada tahun 1980. Hal ini menjadi salah satu "kekuatan ekonomi" terkemuka di dunia. Sebagai hasil dari akumulasi surplus transaksi berjalan, aset eksternal bersih pada akhir tahun 2002 berjumlah 1,46 triliun dolar, sehingga menjadi negara kreditur terbesar di dunia. (Nobuhiro, 2007: 121-122)

Menurut Nobuhiro (2007: 122-123) bahwa, pesatnya perkembangan ekonomi telah membawa perubahan dalam struktur industri. Dalam 20 tahun sejak 1970 hingga 1990, industri primer menyumbang setengah dari penduduk yang bekerja di Jepang turun menjadi setengahnya, yaitu jatuh di bawah 10%, sementara proporsi industri sekunder hampir datar, dan proporsi industri tersier meningkat dari 50% menjadi 60%.

Dari sudut pandang ASEAN, Jepang selama ini telah menjadi pemasok yang penting dalam hal teknologi kapital, pengetahuan manajerial, dan bantuan pembangunan. Jepang telah menanamkan modal dalam jumlah cukup besar dalam sektor-sektor manufaktur dan jasa di ASEAN. (Hua Sing, 2001: 184).

¹Kata "tidak lagi setelah perang/もはや戦後ではない" sering digunakan sebagai kata yang melambangkan suasana era bahwa "era pembangunan kembali dari perang yang telah berakhir, dan akan mulai memasuki era baru". (Japan Center for Economic Research, <https://www.jcer.or.jp/column/komine2/index866.html>, diakses pada 1 Mei 2018, pukul 12:15)

Akibat pertumbuhan ekonomi di Jepang yang sangat tinggi, tidak hanya berdampak positif terhadap masyarakat didalamnya, tetapi dampak negatif-nya pun sangat jelas terlihat dan terjadi. Dampak yang bisa disebut negatif dalam hal ini yaitu bisa kita saksikan pada orang-orang yang telah berkeluarga dan memiliki anak.

Pelaku ekonomi yang merupakan unit terkecil dalam masyarakat adalah keluarga. Menurut Plato, keluarga merupakan unit terkecil dari organisasi sosial (Doriza, 2015: 3). Ekonomi yang terjadi dalam suatu keluarga disebut dengan ekonomi keluarga. Ekonomi keluarga merupakan salah satu unit kajian ekonomi pada unit paling kecil (keluarga) dari sistem ekonomi yang lebih besar, semisal perusahaan dan negara (Doriza, 2015: 1).

Dalam keluarga, setiap individu pastinya akan melewati beragam tahapan dalam kehidupan secara silih berganti. Periode waktu mulai dari seorang bayi lahir sampai seorang itu berkeluarga disebut generasi, biasanya satu generasi berjarak 25 tahun (Doriza, 2015: 4). Generasi tersebut bertahap dari keluarga inti hingga menjadi keluarga besar, yaitu adanya kakek-nenek hingga cucu dan cicit. Tahapan-tahapan yang muncul dari setiap generasi dalam keluarga tersebut disebut dengan siklus kehidupan keluarga. Menurut Doriza (2015: 5-6) setidaknya ada tujuh siklus kehidupan berkeluarga yang hanya berlaku dalam satu keluarga dalam kehidupan seseorang yang dimulai dengan pernikahan, yaitu: (1) membentuk keluarga atau tahapan pernikahan

baru, ketika dua individu memutuskan untuk menikah; (2) tahapan keluarga yang tumbuh, dimulai ketika bayi pertama lahir; (3) tahun-tahun kekacauan, ketika bayi tumbuh menjadi anak muda dan membutuhkan perlindungan dan pengawasan terus-menerus; (4) tahapan menguat, ketika anak-anak muda tumbuh menjadi orang dewasa; (5) tahapan meluncur, ketika anak-anak menikah dan meninggalkan rumah menuju rumah miliknya sendiri; (6) tahun-tahun terakhir atau tahap kehampaan, ketika orang tua sudah terpisah satu sama lain; dan (7) tahapan pensiun ketika anggota keluarga sudah tidak aktif lagi atau tidak lagi mendatangkan penghasilan.

Dari ke-tujuh tahapan di atas, pada tahapan ke-3 yang disebutkan di atas disebut dengan tahapan/tahun-tahun kekacauan, dan akan terasa lebih sulit lagi apabila dihadapkan pada seseorang yang berstatus *single parent* terutama *single mother*. Kesulitan itu terjadi akibat kurangnya waktu istirahat untuk ibu, ketika ibu yang merasa lelah akibat bekerja di luar, kemudian ketika kembali ke rumah, dihadapkan pada waktu untuk istirahat sedikit sulit untuk didapat akibat harus mengurus dan memperhatikan anak-anaknya.

Permasalahan berikutnya adalah banyaknya kendala perekonomian khususnya kemiskinan yang dihadapi oleh keluarga *single mother*. Sesuai dengan yang dijelaskan sebelumnya dalam bab satu, pada latar belakang masalah bahwa data angka kemiskinan untuk ibu tunggal (*single mother*) bersama anaknya menjadi 54,6%.

Sedangkan tingkat kemiskinan untuk satu keluarga yang lengkap (suami-istri) juga meningkat dengan angka kemiskinan menjadi 12,4%. Menurut ulasan survei tersebut karena banyaknya perceraian di Jepang. Tidak heran tingkat kemiskinan *single mother* di Jepang saat ini sangat tinggi yaitu 54,6%. Ayah yang seharusnya memberikan tunjangan kepada anak, ternyata saat ini 74% ayah karena sudah cerai, tidak lagi memberikan tunjangan pertumbuhan bagi kehidupan anaknya yang biasanya dirawat oleh sang ibu. Itulah sebabnya menjadi semakin miskin seorang *single mother*.

Menurut Yamaguchi (2012: 1) menjelaskan bahwa:

“母子世帯の貧困問題は、母親本人の問題に止まらず、その子供にもネガティブな影響を及ぼす可能性が高い。貧困であるゆえに、母親が育児放棄や児童虐待に走ったり、子供に十分な栄養や教育を提供できなかつたりすることが比較的容易に起きる。”

Boshi setai no hinkon mondai wa, hahaoya honnin no mondai ni tomarazu, sono kodomo ni mo negatibuna eikyō o oyobosu kanōsei ga takai. Hinkondearu yueni, hahaoya ga ikuji hōki ya jidō gyakutai ni hashittari, kodomo ni jūbunna eiyō ya kyōiku o teikyō dekinakattari suru koto ga hikakuteki yōi ni okiru.

Masalah kemiskinan rumah tangga ibu dan anak tidak terbatas pada masalah ibu sendiri, dan ada kemungkinan besar bahwa anak akan memiliki pengaruh negatif akan hal itu. Karena kemiskinan, relatif mudah bagi ibu untuk meninggalkan pengasuhan anak, melakukan pelecehan anak, atau gagal memberikan nutrisi dan pendidikan yang memadai untuk anak-anak.

Akibat dari hal ini bahwa dalam permasalahan ekonomi keluarga yang dijelaskan di atas, khususnya untuk keluarga *single mother*, dapat menjadi salah satu penyebab terjadinya tindakan *jidouyakutai* terhadap anak.

Menurut Yamaguchi (2012: 5) suatu keluarga *single mother* dapat disebut bisa mandiri secara ekonomi apabila:

“最も一般的に利用されている基準は、万円ラインである。子供の人数を加味しながらも、概ね年収 300 万円以上の母子世帯を経済的自立層と定義する。”

Mottomo ippanteki ni riyōsareteiru kijun wa, man-en rain dearu. Kodomo no ninzū o kamishinagara mo, ōmune nenshū 300 man-en ijō no boshi setai o keizaiteki jiritsusō to teigisuru.

Standar yang paling umum digunakan adalah garis sepuluh ribu yen. Sambil mempertimbangkan jumlah anak-anak, kami mendefinisikan rumah tangga ibu-anak dengan gaji tahunan lebih dari 3 juta yen sebagai lapisan yang mandiri secara ekonomi.

Apabila telah memasuki kriteria tersebut, keluarga *single mother* akan dirasa mampu dalam segi finansial dan dalam hal tindakan *jidouyakutai*-pun akan sedikit berkurang akibat berkurangnya tingkat resiko stres pada ibu dalam hal tekanan ekonomi dalam keluarga di Jepang.

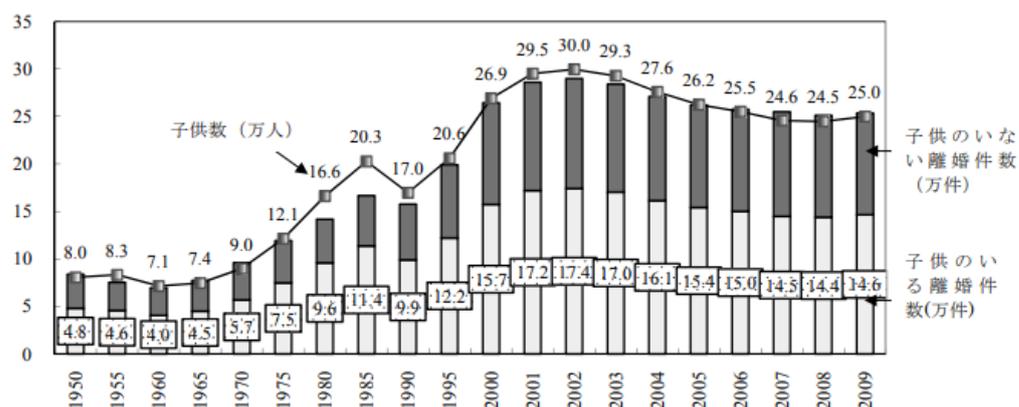
b. Perceraian di Jepang

Nobuhiro (2007: 101) mengungkapkan bahwa, tingkat perceraian di Jepang meningkat dari tahun ke tahun karena adanya

perubahan kesadaran dari orang-orang yang melakukan perceraian dalam melatar belakangnya. Sebagai alasan perceraian dalam beberapa tahun terakhir ini yaitu disebabkan oleh “ketidakcocokan”, “penganiayaan fisik dan mental”, dan lain sebagainya.

Apakah perceraian di Jepang benar-benar mengalami peningkatan? Menurut Yamaguchi (2012: 117) menyatakan bahwa, hal tersebut tidak terjadi pada saat ini, tetapi itu adalah fakta bahwa jumlah perceraian di Jepang telah meningkat tajam sejak tahun 1960-an hingga awal 2000-an. Seperti yang ditunjukkan pada gambar di bawah ini, jumlah perceraian di Jepang hampir secara konsisten meningkat sejak tahun 1960, tetapi sementara menurun pada paruh kedua tahun 1980-an, tetapi telah mulai meningkat lagi sejak tahun 1990. Di antara mereka, jumlah "perceraian dengan anak-anak" terhitung sekitar 60% dari total perceraian. "Jumlah perceraian dengan anak-anak" telah meningkat secara signifikan dari 99.000 pada tahun 1990 menjadi 174.000 pada tahun 2002. Sejak tahun 2002, jumlah perceraian dengan orang tua yang memiliki anak-anak menunjukkan jumlah sedikit tenang (tidak mengalami kelonjakan yang signifikan), tetapi pada tahun 2009 jumlahnya tetap tidak berubah pada tingkat tinggi dari tahun sebelumnya (2008) yaitu 146.000 per tahun. Seiring dengan itu, jumlah anak yang dipengaruhi oleh perceraian orang tua juga meningkat pesat sejak 1960-an. Jumlah anak-anak yang terlibat dalam perceraian telah mencapai sekitar 70.000 orang pada tahun 1960, melebihi 200.000

orang pada tahun 1985, 300.000 orang per tahun pada puncak tahun 2002. Pada 2009, 250.000 anak per tahun terlibat dalam perceraian orangtua. Ketika membagi angka ini dengan populasi anak-anak di bawah usia 20 tahun dalam sensus pada 2005, rasio jumlah anak-anak yang orangtuanya bercerai adalah 11,0 ‰ (populasi 1000 ribu pasang). Perhitungan ini menunjukkan bahwa akibat dari perceraian orangtua dalam setiap tahunnya, satu dari 100 orang anak kini hidup bersama orangtua tunggal.



(Gambar 2.1. : Tingkat perceraian dengan perbandingan ada atau tidaknya tanggungan anak)

Menurut Crosson (2014: 21):

“The current divorce rate, once the highest level ever, has now leveled out, but recently the single-parent family represents a large percentage of the parenting population. One in four families is headed by a single mother.”

Tingkat perceraian saat ini, sekali tingkat tertinggi yang pernah ada, sekarang telah dirata-ratakan, tetapi baru-baru ini keluarga dengan orang tua tunggal mewakili persentase besar dari

populasi orang tua. Satu dari empat keluarga dikepalai oleh seorang ibu tunggal.

Menurut Akiko (2009: 58) menyatakan bahwa:

“離婚率の上昇や少子化に伴い、家族構成の多様化、家族機能の変化等が現代の子育て環境に生じている。日本においては2003年現在のひとり親世帯数は122万5,400であり、5年前の調査に比べて28.3%増加している。米国では1990-2000年の約10年間にひとり親家族が970万から1.200万に増加し、特にシングルマザー家族での経済事情が深刻であり、女性を筆頭とする家族 (*female-headed family*) が最も貧困な層に属している。また豪州では1986年から例年の約10年間に養育の必要な子どもをもつひとり親家族は15%から19%へ増加し、そのうち87%が *female-headed family* であった。”

Rikon ritsu no jōshō ya shōshika ni tomonai, kazoku kōsei no tayōka, kazoku kinō no henka nado ga gendai no kosodate kankyō ni shōjiteiru. Nihon ni oite wa 2003-nen genzai no hitori oya setaisū wa 122 man 5,400 deari, 5-nen mae no chōsa ni kurabete 28.3 pāsento zō kashiteiru. Beikoku de wa 1990 - 2000-nen no yaku 10-nenkan ni hitori oya kazoku ga 970 man kara 1.200 man ni zōka shi, tokuni shingurumaza ichi kazoku de no keizai jijō ga shinkoku de ari, josei o hittō to suru kazoku (female - headed family) ga mottomo hinkomana sō ni zokushiteiru. Mata Gōshūde wa 1986-nen kara reinen no yaku 10-nenkan ni yōiku no hitsuyōna kodomo o motsu hitori oya kazoku wa 15-pāsento kara 19-pāsento e zōkashi, sonōchi 87-pāsento ga female - headed family deatta.

Dengan meningkatnya tingkat perceraian dan penurunan angka kelahiran, diversifikasi komposisi keluarga, perubahan fungsi keluarga, dll. Hal ini terjadi di lingkungan pendidikan anak modern. Di Jepang pada tahun 2003, jumlah rumah tangga orang tua tunggal adalah 1.255.400. Peningkatan sebesar 28,3% dibandingkan dengan survei lima tahun lalu. Di Amerika Serikat, jumlah keluarga orang tua meningkat dari 9,7 juta menjadi 12 juta pada dekade 1990-2000, terutama keadaan ekonomi ibu dan keluarga tunggal yang dianggap serius, keluarga yang dikepalai perempuan, memiliki lapisan yang paling miskin. Di Australia, sejak 1986, jumlah keluarga orang tua tunggal dengan anak-anak yang membutuhkan pengasuhan selama sekitar 10 tahun telah meningkat dari 15% menjadi 19%, 87% di antaranya adalah keluarga yang dikepalai perempuan.

Dari kutipan di atas, terlihat jelas bahwa dari perceraian yang terus bertambah dan meningkat, mengakibatkan jumlah rumah tangga orang tua tunggal di Jepang pun terus mengalami peningkatan, terutama untuk keluarga yang dikepalai oleh *single mother*.

c. *Single Mother*

Status sebagai *single parent* kadang mendatangkan berbagai penilaian masyarakat. Masyarakat akan mudah menjatuhkan nilai negatif kepada *single parent* manakala mereka melakukan kesalahan atau kekeliruan saat berinteraksi dengan sosial masyarakat. Meski sebenarnya tidak diharapkan, peran sebagai *single parent* adalah suatu kenyataan yang tidak dapat dihindarkan. Menurut Ghani dan Aziz (2013) dalam jurnal *Work Family Conflict pada Single Parent* (Hasanah dan Ni'matuzahroh, 2017: 382), *single parent* bukanlah hal yang baru dalam masyarakat kita. Tantangan yang dihadapi oleh *single parent* sebagai kepala keluarga, mereka juga harus memikul tanggung jawab ganda, di mana mereka tidak hanya pencari nafkah, tetapi mereka juga manajer dan pendidik anak-anak mereka. Di antara tantangan utama yang harus dihadapi oleh *single parent* yaitu masalah lain seperti keuangan, stres emosional, masalah psikologis dan fisik, tantangan dalam memberikan anak-anak mereka pendidikan, perawatan dan cinta, dan juga stigma sosial yang negatif terhadap mereka.

Menurut Fabes dan Martin (2003), Skolnick dan Skolnick (2010) dalam Crosson (2014: 21) menjelaskan bahwa, baru-baru ini

keluarga orang tua tunggal mewakili persentase besar dari populasi orang tua, yaitu satu dari empat keluarga dipimpin oleh seorang ibu tunggal.

Adapun masalah yang dihadapi oleh *single parent* akibat dari perceraian, menurut Hurlock (2004) dalam Hasanah dan Ni'matuzahroh (2017: 386-387) adalah sebagai berikut:

- 1) Masalah ekonomi: setelah bercerai, *single parent* akan mengalami kurangnya pendapatan keluarga. Seorang *single parent* memulai bekerja pada usia madya, biasanya mereka tidak dapat memperoleh pendapatan yang cukup untuk memenuhi kebutuhan hidup keluarganya.
- 2) Masalah praktis: *single parent* mencoba untuk menjalankan hidup rumah tangga sendirian, setelah terbiasa dibantu oleh pasangan. Akan tetapi setelah bercerai semua pekerjaan dilakukan seorang diri.
- 3) Masalah psikologis: *single parent* cenderung merasa tidak menentu dan identitasnya kabur setelah terjadi perceraian. Kondisi *single parent* sebelum perceraian identitasnya tergantung dengan suami atau istrinya.
- 4) Masalah pengasuhan anak: perceraian membuat masalah dalam hak asuh anak. Tanggung jawab untuk merawat anak perlu dibagi dua, maka masing-masing orang tua dan anak akan menghadapi

masalah dalam penyesuaian diri dengan kehidupan baru. Perceraian akan membuat anak menjadi bingung, depresi dan murung.

- 5) Masalah keluarga: apabila masih mempunyai anak yang masih tinggal serumah, maka *single parent* harus memainkan peran ganda yaitu sebagai ayah dan ibu, dan harus menghadapi berbagai masalah yang timbul dalam keluarga tanpa pasangan selain itu juga harus menghadapi masalah yang berhubungan anggota keluarga dari pihak suami ataupun istri.
- 6) Sulitnya memenuhi figur ayah dan ibu bagi anak: figur seorang ayah dan ibu ini harus tetap terpenuhi agar pertumbuhan fisik dan psikis anak berjalan dengan baik. Perceraian anak memberi dampak luka panjang dalam kehidupan anak. Maka dari itu pria dan wanita harus bisa menjaga pertemanan dan menjaga tali silaturahmi yang baik dengan mantan suami atau istri. Dengan demikian anak akan tetap memiliki figur orang tua yang utuh, meski kedua orangtuanya telah bercerai.

d. *Parenting Stress*

Stres biasanya timbul akibat kelelahan dan pikiran yang berat, terjadi akibat adanya sesuatu kondisi yang diluar dugaan. Menurut Crosson (2014: 21) penekanan pada gaya hidup yang lebih cepat, lebih kompetitif, dan lebih makmur akan menimbulkan stres. Oleh karena itu, dibawah tekanan ekonomi yang tinggi, keluarga harus melakukan penyesuaian demi terpenuhinya segala kebutuhan mereka. Dewasa ini

kebanyakan dari keluarga di Jepang berdiri dengan yang disebut *nuclear family* (keluarga inti yang terdiri dari ayah, ibu, dan anak-anak), menggantikan keluarga besar (orang tua dan anak-anak yang tinggal bersama kakek-nenek atau saudara kandung dewasa) yang sekarang semakin menurun. Tingkat perceraian di Jepang-pun kini semakin meningkat. Menurut Fabes dan Martin (2003), Skolnick dan Skolnick (2010) dalam Crosson (2014: 21) menjelaskan bahwa, baru-baru ini keluarga orang tua tunggal mewakili persentase besar dari populasi orang tua, yaitu satu dari empat keluarga dipimpin oleh seorang ibu tunggal.

Akibat dari terbentuknya keluarga inti yang dikepalai oleh ibu tunggal (*single mother*), berdampak pada semakin banyaknya tindakan kelalaian yang dilakukan mereka terhadap anak-anaknya, sebagai akibat dari stres yang dialaminya dalam memenuhi kebutuhan keluarga yang harus di tanggung sendiri tanpa ada keluarga/famili yang membantu.

Menurut Crosson (2014: 73), tentang tujuan awal atau alasan seorang *single mother* melalaikan anak-anaknya yaitu:

“Studies undertaken with neglectful parents describe them as seemingly indifferent to their children, disciplining them (if at all) more out of their own need for quiet or convenience than out of a concern for what the child is learning and having a poor capacity to problem solve or set goals for the future.”

Studi yang dilakukan tentang orang tua yang lalai terhadap anak-anak mereka yang menggambarkan mereka nampak acuh tak acuh, mendisiplinkan mereka (jika memang ada), dan lebih

banyak dari kebutuhan mereka sendiri untuk ketenangan atau kenyamanan daripada karena kepedulian terhadap apa yang sedang dipelajari anak, dan karena anak yang memiliki kapasitas yang buruk untuk memecahkan masalah atau menetapkan tujuan untuk masa depan.

Dari hal di atas terlihat bahwa selain untuk mendisiplinkan anak, orang tua *single mother* yang berakhir melakukan tindakan *jidougyakutai*, yaitu dikarenakan menginginkan kenyamanan dan ketenangan untuk pribadinya, yang mana hasrat itu timbul akibat dari stres yang dialaminya. Keinginan keadaan nyaman dan tenang ini bertujuan untuk memulihkan stres tersebut.

Stres itu timbul dari akibat peran ganda para *single mother*, yang harus menyeimbangkan waktu mereka antara sebagai tulang punggung keluarga dengan sebagai ibu rumah tangga. Ketidakseimbangan pemenuhan kedua peran tersebut dapat mendorong munculnya konflik pekerjaan-keluarga (*work-family conflict*).

Menurut Frone (2000) dalam Hasanah dan Ni'matuzahroh (2017: 383), *work family conflict* dapat didefinisikan sebagai bentuk konflik peran dimana tuntutan peran dari pekerjaan dan keluarga secara mutual tidak dapat disejajarkan dalam beberapa hal. Hal ini biasanya terjadi pada saat seseorang berusaha memenuhi tuntutan peran dalam pekerjaan dan usaha tersebut dipengaruhi oleh kemampuan orang yang bersangkutan untuk memenuhi tuntutan keluarganya, atau sebaliknya, dimana pemenuhan tuntutan peran dalam keluarga dipengaruhi oleh kemampuan orang tersebut dalam memenuhi tuntutan pekerjaannya.

Menurut Greenhaus dan Beutell, *work family conflict* diidentifikasi ke dalam tiga dimensi, yaitu sebagai berikut: (Hasanah dan Ni'matuzahroh (2017: 384)

- 1) Konflik berdasar waktu (*time based conflict*): Waktu yang dibutuhkan untuk menjalankan salah satu tuntutan (keluarga atau pekerjaan) dapat mengurangi waktu untuk menjalankan tuntutan yang lainnya (pekerjaan atau keluarga). Bentuk konflik ini secara positif berkaitan dengan: jumlah jam kerja, lembur, tingkat kehadiran, ketidakteraturan shift, dan kontrol jadwal kerja.
- 2) Konflik berdasar tegangan (*strain based conflict*): Terjadi pada saat tekanan dari salah satu peran mempengaruhi kinerja peran yang lainnya. Dimana gejala tekanan, seperti: ketegangan, kecemasan, kelelahan, karakter peran kerja, kehadiran anak baru, dan ketersediaan dukungan sosial dari anggota keluarga.
- 3) Konflik berdasar perilaku (*behavior based conflict*): Pola-pola khusus perilaku yang berkaitan dengan satu peran mempunyai kemungkinan mengalami ketidakcocokan dengan pengharapan dari peran yang lain. Dengan kata lain perilaku tertentu yang diperlukan dalam satu peran mungkin saja tidak cocok untuk peran lain. Jika individu tidak mampu untuk menyesuaikan perilaku untuk memenuhi pengharapan dari peran-peran yang berbeda, individu tersebut mempunyai kecenderungan yang lebih besar untuk mengalami konflik antar peran

Selain konflik batin antara bekerja dan keluarga, Klapperet al. (1994) dalam Hasanah dan Ni'matuzahroh (2017: 387) menambahkan bahwa kepergian salah satu orang tua baik ayah atau ibu akan membawa masalah baru bagi keluarga tersebut, yaitu:

- 1) Berubahnya cara pandang anak terhadap orangtua.
- 2) Hilangnya ikatan yang telah terjalin antara anak dan orangtua sehingga menyebabkan perlakuan yang berbeda terhadap pola asuh anak.
- 3) Meninggalkan rasa bersalah orangtua terhadap kelangsungan keluarga terutama masa depan anak-anak.
- 4) Ketidakseimbangan dan ketegangan antara orangtua-anak.
- 5) Hilangnya dukungan sosial maupun instrumental untuk tempat *sharing* atau meminta bantuan.

Dari masalah-masalah tersebut, terlihat jelas akan sebab timbulnya *parenting stress* yang telah dijelaskan sebelumnya di atas.

Di Jepang, akibat timbulnya *parenting stress*, selain orang tua yang melakukan tindakan *jidougyakutai*, ada pula yang berakhir dengan melakukan tindakan *oyako shinju*/親子心中 (bunuh diri bersama anak). Menurut Usui (2000: 179) dalam jurnalnya tentang “*Creating a Feminist Transnational Drama: Oyako-Shinju (Parent-Child Suicide) in Velina Hasu Houston’s Kokoro (True Heart)*” menerangkan bahwa:

“Oyako-shinju is also based on the Japanese psychology that the children belong to their parents so that they will have a hard time as orphans if they are left alone.”

Oyako shinju juga didasarkan pada psikologi Jepang bahwa anak-anak adalah milik orang tua mereka sehingga mereka akan mengalami kesulitan sebagai anak yatim jika mereka dibiarkan sendirian

Sebagai alasan untuk *oyako shinju* secara konsisten sama sebelum dan sesudah Perang Dunia-II yaitu: (Usui, 2000: 195)

- a. Di Jepang sebelum perang: kesulitan keuangan (kemiskinan ekstrim), krisis keluarga, penyakit keluarga, dan
- b. Di Jepang pasca-perang: penyakit, depresi yang berasal dari persalinan dan perawatan anak, dan kesulitan keuangan (yang disebabkan oleh perjudian dan pinjaman).

Dari kedua kutipan di atas dijelaskan bahwa alasan dilakukannya *oyako shinju* adalah dari stres akibat kesulitan ekonomi yang terjadi di Jepang. Dalam hal itu orang tua yang mengalami stres tersebut ingin mengakhiri masa hidupnya dengan bunuh diri. Supaya anaknya tidak menjadi anak yatim-piatu dan menderita sendirian, maka dari itu orang tua tersebut mengajak atau membawa anaknya untuk bunuh diri bersama-sama, yaitu dengan melakukan *oyako shinju*.

B. *Jidougyakutai* (児童虐待)

Di negara-negara berbahasa Inggris, kata-kata seperti *child abuse* (pelecehan anak), *child maltreatment* (penganiayaan anak), dan *cruelty to children* (kekejaman terhadap anak-anak) telah digunakan untuk menggambarkan kekerasan verbal, fisik, dan seksual terhadap anak-anak. Dalam masyarakat Jepang dan sistem hukum, kata "*jidougyakutai*" (*jidou* = anak-anak, *gyakutai* = pelecehan) telah digunakan untuk menggambarkan pelecehan anak selama bertahun-tahun. *Jidou*, biasanya mengacu pada anak-anak usia sekolah, bukan bayi dan anak-anak prasekolah. Selain itu, karena *jidou* sering digunakan dengan kata-kata seperti *yougo shisetsu* (kelompok perawatan rumah), kedengarannya seperti kita hanya mengacu pada anak-anak yang dirawat di lingkungan kelembagaan. Dalam beberapa tahun terakhir, kata "*kodomo gyakutai*" (*kodomo* = anak-anak dari segala usia) telah menggantikan "*jidougyakutai*", dengan asumsi bahwa pelecehan terhadap anak-anak dapat terjadi pada usia berapa pun, dari masa kanak-kanak hingga remaja, dan dalam lingkungan non-institusional seperti keluarga. Perlu dicatat, bagaimanapun, bahwa kata "*jidougyakutai*" masih digunakan di sebagian besar dokumen pemerintah dan oleh masyarakat umum. (Kumagai & Masako, 2016: 50)

Menurut Iwama (1998), Kumagai (1981), dan Yoshimi (2012) dalam Kumagai & Masako (2016: 57) menjelaskan bahwa:

“In Japan, child abuse has existed for a long time as the practices of “kogoroshi” (killing child), “mabiki” (killing child to reduce the family’s economic burden), and “kosute” (abandoning child) can be traced back in the Kojiki and Nihon Shoki, published in Nara

period. It also continued throughout Meiji, Taisho, and Showa periods, as shown in extensive documentations.”

Di Jepang, pelecehan anak telah ada sejak lama sebagai praktik “*kogoroshi*” (membunuh anak), “*mabiki*” (membunuh anak untuk mengurangi beban ekonomi keluarga), dan “*kosute*” (menelantarkan anak) dapat ditelusuri kembali *Kojiki* dan *Nihon Shoki*, diterbitkan pada periode Nara. Hal ini juga berlanjut selama periode Meiji, Taisho, dan Showa, seperti yang ditunjukkan dalam dokumentasi ekstensif.

Sumber lain menjelaskan bahwa kekerasan pada anak (*jidougyakutai*) sebagai penyebab faktor risiko tinggi terhadap gangguan perkembangan anak telah ada sejak tahun 1990-an, tetapi pada saat itu terdapat kontroversi yang menunjukkan hubungan antara keduanya. Gangguan perkembangan pada anak saat itu dipahami sebagai gangguan otak bawaan, sementara *jidougyakutai* merupakan masalah lingkungan. Pada saat itu relevansi antara keduanya menjadi penting karena menunjukkan bahwa gangguan perkembangan kongenital (bawaan) adalah risiko untuk menginduksi terjadinya *jidougyakutai*. Menurut Asai dkk. (2002); Shiroishi (2004); Constant (2005) dalam “Literatur Penelitian tentang Pelecehan Anak (Laporan ke-6); Analisis Literatur Berfokus pada Hubungan antara *Jidougyakutai* dan Gangguan Perkembangan” (*jidougyakutai ni kansuru bunken kenkyū (dai roku hou) kodomo gyakutai to hattatsu shōgai no kanren ni shōten o ateta bunken no bunseki/児童虐待に関する文献研究 (第6報) 子ども虐待と発達障害の関連に焦点をあてた文献の分析*) oleh Taka (2010: 2), menjelaskan bahwa dari paruh kedua 1990-an hingga pertengahan tahun 2000-an, hasil diskusi menunjukkan bahwa faktor-faktor yang berisiko terjadinya *jidougyakutai* dari gangguan perkembangan semakin menonjol.

Selain dari faktor anak, terdapat pula faktor yang timbul dari orangtua, yang biasa disebut dengan faktor *parenting stress*. Menurut Hanada et al. (2007) dalam Kumagai & Masako (2016: 49) menyatakan bahwa tindakan *jidouyakutai* hanya akan terjadi pada seseorang yang merawat anak yatim (orang tua tunggal) dan pada keluarga yang miskin. *Jidouyakutai* yang dilakukan oleh orang tua menjadi masalah serius di Jepang saat ini. Yang paling menonjol adalah *jidouyakutai* yang dilakukan oleh ibu kandung. Seperti yang dijelaskan oleh Nabekura dalam “*The Research on The Mothers who Abused Her own Child*” (https://www.soka.ac.jp/files/ja/20170512_155456.pdf) bahwa:

今日、子育てをする母親の多くは、精神的ストレスを抱えているといわれている。

Kyō, kosodate o suru hahaoya no ōku wa, seishinteki sutoresu o kakaeteiru to iwareteiru.

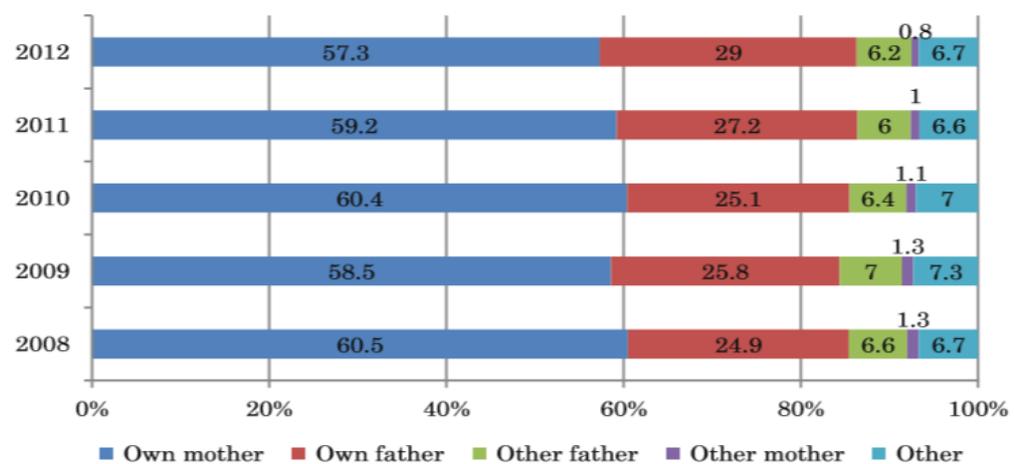
Sekarang, bisa dikatakan bahwa banyak ibu yang membesarkan anaknya menderita tekanan mental.

Berdasarkan laporan yang didapat dari *Asahi Shinbun Digital*, yang ditulis oleh Nishimura Keishi (西村圭史) pada 17 Agustus 2017 pukul 13:03 mengumumkan bahwa, jumlah pelecehan anak pada tahun fiskal 2016 oleh Pusat Bimbingan Anak Nasional (*Jidousoudanjou*/児童相談所) adalah 122.578 kasus, meningkat 18,7 % (19.292 kasus) dari tahun sebelumnya. Sejak pengambilan data statistik dari tahun 1990, kasus di tahun 2006 merupakan rekor tertinggi selama 26 tahun terakhir. Jumlah kasus *jidouyakutai*, dikompilasi dari pelaporan dan konsultasi dari warga dan

polisi, dapat disimpulkan bahwa anak yang menerima perlakuan *jidougyakutai* itu adalah anak dibawah umur 18 tahun. Menurut jenis pelecehan, *front DV* dengan penghinaan dan ancaman termasuk kedalam “pelecehan psikologis” merupakan yang paling sering terjadi pada 61.387 kasus, terhitung 51,5% dari jumlah tersebut, meningkat lebih dari 14 ribu dari tahun sebelumnya. Memukul dan menendang termasuk "pelecehan fisik" meningkat sebanyak 30.227 kasus, “diabaikan (pengabaian anak)" seperti tidak memberi makan, 25.842 kasus, dan "pelecehan seksual" berjumlah 1.622 kasus lebih banyak dari tahun sebelumnya. Menurut prefektur, Osaka memiliki jumlah terbesar 17.743 kasus. Di Tokyo 12.494 kasus dan di Kanagawa 12.194 kasus. (<http://www.asahi.com/articles/ASK8J2VP0K8JUTFL001.html>, diakses pada 15 Oktober 2017).

Dalam “*The Research on The Mothers who Abused Her own Child*” Nabekura-pun menjelaskan bahwa pelaku *jidougyakutai* untuk ibu kandung mencapai 20.864 kasus (62,4%) yang merupakan jumlah terbesar, diikuti ayah kadung 6.969 kasus (20,9%), pelaku lain (selain orang tua) 2.946 kasus (8,8%), ayah tiri 2.130 kasus (6,4%), dan ibu tiri 499 kasus (1,5%). Melihat dari struktur usia anak yang di *jidougyakutai* yaitu, usia 6 - 11 tahun (tahap sekolah dasar) mencapai 12.483 kasus (37,4%) merupakan tahapan usia yang paling sering terjadinya tindakan *jidougyakutai*, pada usia 0 - <3 tahun mencapai 6.479 kasus (19,4%), dan usia 3 – 6 tahun (sebelum usia pra-sekolah) 8.776 kasus (26,3%). (2017: 246)

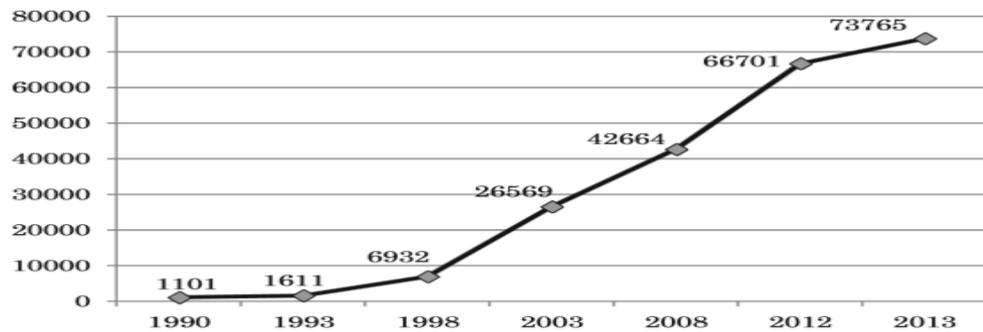
Berikut gambar perubahan proporsi (%) kasus konsultasi kekerasan anak oleh penyalahguna: 2008–2012 (Sumber: *Shutaru Gyakutaisha no Suii, Jidou Sodanjo* (Perubahan jumlah kasus konsultasi kekerasan terhadap anak oleh pelaku di pusat bimbingan anak) Departemen Kesehatan, Buruh dan Kesejahteraan 2014b: 4 (gambar 2.2): (Kumagai & Masako, 2016: 64)



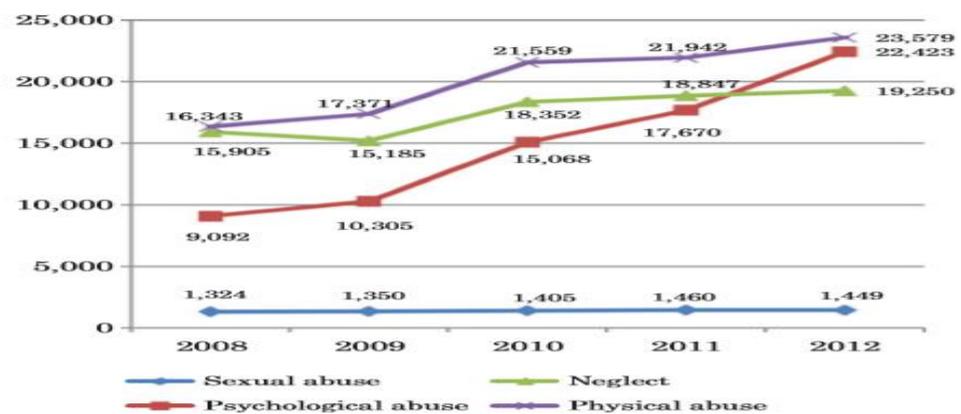
(Gambar 2.2.: Persentase pelaku tindakan *jidougyakutai*)

Perubahan dalam jumlah penerima konsultasi tentang kekerasan terhadap anak di *Child Guidance Centre*: 1990–2013 (Sumber: *Jidousoudanjo de no Jidougyakutai Soudan Taiou Kensuu* (Jumlah kasus konsultasi kekerasan anak di pusat bimbingan anak) Kementerian Kesehatan, Tenaga Kerja dan Kesejahteraan 2014a (gambar 2.3), dan perubahan dalam jumlah kasus konsultasi berdasarkan tahun dan bentuk-bentuk kekerasan anak: 2008–2012 (Sumber: *Jidousoudanjo de no Gyakutai Soudan no Naiyoubetsu Kensuu no Suii* (Perubahan jumlah kasus konsultasi kekerasan anak berdasarkan tahun dan jenis di pusat bimbingan anak) Kementerian

Kesehatan, Ketenagakerjaan dan Kesejahteraan 2014b:3 (gambar 2.4) adalah sebagai berikut: (Kumagai & Masako, 2016: 63)



(Gambar 2.3.: Grafik jumlah tindakan *jidougyakutai* di Jepang)



(Gambar 2.4.: Grafik jumlah tindakan *jidougyakutai* sesuai bentuknya)

Berdasarkan dari kedua gambar di atas terlihat jelas bahwa jumlah dari kasus tindakan *jidougyakutai* di Jepang dari tahun ke tahun semakin meningkat. Dan berdasarkan jenisnya, apabila dirata-ratakan, yang menjadi kasus utama dalam *jidougyakutai* adalah *physical abuse* (kekerasan fisik), kemudian diikuti oleh *neglect* (pengabaian), *psychological abuse* (penganiayaan secara

psikologis), dan ditingkat paling bawah adalah *sexual abuse* (pelecehan seksual).

Menurut Nabekura (2017: 247), faktor-faktor yang menjadi pemicu terjadinya tindakan *jidougyakutai* dari sisi orang tua adalah sebagai berikut:

1. Masalah dengan kemampuan membesarkan anak (ketidakmatangan kemampuan membesarkan anak, kecemasan merawat anak) (*yōiku nōryoku no mondai (yōikryo no mijuku, ikuji fuan/養育能力の問題 (養育力の未熟、育児不安)*)
2. Tidak ada asisten pengasuhan anak (*ikuji no enjyosha fuzai/育児の援助者不在*)
3. Perpecahan antara pasangan dan konflik dalam keluarga (*fūfu no fuwa ya kateinai no kattō/夫婦の不和や家庭内の葛藤*)
4. Status pekerjaan yang tidak stabil (*fuanteina shūrō jyōtai/不安定な就労状態*)
5. Masalah ekonomi (*keizaiteki konkyū/経済的困窮*)
6. Kehamilan, pernikahan, persalinan pada usia muda (*jakunen de no ninshin, kekkon, shussan/若年での妊娠、結婚、出産*)
7. Masalah mental dan fisik (bias kepribadian dan gangguan kejiwaan (*shinshin no mondai (seikaku no katayori ya seishinshikkan)/心身の問題 (性格の偏りや精神疾患)*)
8. Pengalaman ibu yang disalahgunakan (*hahaoya jishin no hi gyakutai taiken/母親自身の被虐待体験*)

9. Isolasi sosial dari kerabat, lingkungan, teman, dll (*shinseki, kinrin, yūjin nado kara no shakaiteki koritsu ga agerareru*/親戚、近隣、友人などからの社会的孤立が挙げられる).

Sebagai faktor dari sisi anak adalah sebagai berikut:

1. Kelahiran yang tidak di inginkan (*nozomarenai shusshō*/望まない出生)
2. Kelahiran anak kembar (*tataiji shussan*/多胎児出産)
3. Pengalaman pemisahan antara ibu dan anak karena kelainan kongenital (kelainan kromosom, kelainan kongenital seperti malformasi, berat lahir bayi rendah) (*sententekina ijoyō (senshokutai ijoyō, kikei nado no sentensei ijoyō, teishusshōtai jyūji) ni yoru, boshikan nob bunri taiken*/先天的な異常 (染色体異常、奇形などの先天性異常、低出生体重児) による、母子間の分離体験)
4. Kesulitan mendidik karena gangguan perkembangan dan sejenisnya setelah lahir (gangguan perkembangan, penyakit, masalah perilaku) (*seigo ni hasshōshita shōgai nado ni yoru sodatenikusa (hattatsu shōgai, byōki, mondai kōdō) de aru*/生後に発症した障害等による育てにくさ (発達障害、病気、問題行動) である).

Jadi dalam terjadinya tindakan *jidougyakutai* yang pertama harus di evaluasi adalah kondisi mental ibu. Hal yang harus di evaluasi dari sikap mental ibu adalah apakah ibu tersebut mampu memiliki hubungan keterikatan dengan anak-anaknya atau tidak? Sesuai dengan pendapat Kazumi (2014: 127) bahwa:

“母親の愛着関係が成立していれば、虐待は起きない。なぜかという
と、母親はこどもの痛み、苦しみ、辛さを我がことのように感じ
てしまうからだ。”

*Hahaoya no aichaku kankei ga seiritsushiteireba, gyakutai wa okinai.
Naze ka to iu to, hahaoya wa kodomo no itami, kurushimi, tsurasu o
waga koto no you ni kanjite shimau kara da.*

Jika hubungan kedekatan ibu dan anak dibangun, tindakan *jidougyakutai* tidak akan terjadi. Alasannya adalah para ibu akan merasakan sakitnya, susahnyanya, dan deritanya anak seolah-olah mereka sendiri yang merasakan hal tersebut.

Dalam bukunya, Kazumi (2014: 109) menjelaskan bahwa, menurut undang-undang tentang pencegahan pelecehan anak dll. Tahun 2000, *jidougyakutai* diklasifikasikan menjadi empat kategori yaitu sebagai berikut:

1. Penganiayaan fisik (*karadateki gyakutai*/身体的虐待)

Menurut Kazumi (2014: 110), yang dimaksud penganiayaan fisik adalah sebagai berikut:

“身体的虐待は、叩く、殴る、蹴る、投げる、振り回す、突きとす、窒息させる、タバコの火を押し付ける、熱湯をかける、押し入れに閉じ込める、長時間家の外に締め出す、家から出さない、長時間正座させる、立たせる、などである。身体的虐待には一時の暴発とは異なる継続性がある。数ヶ月、数年の継続性である。”

Karadateki gyakutai wa, tataku, naguru, keru, nageru, furimawasu, tsuki to su, chissoku sa seru, tabako no hi o oshitsukeru, nettō o kakeru, oshiire ni tojikomeru, chōjikan-ka no soto ni shimedasu, -ka kara dasanai, chōjikan seiza sa seru, tataseru, nadodearu. Karadateki gyakutai ni wa ichiji no bōhatsu to wa kotonaru keizoku-sei ga aru. Sūkagetsu, sunen no keizoku-seidearu.

Penganiayaan fisik adalah memukul, meninju, menendang, melempar, mengayun, menikam, mencekik, menyundutkan api rokok, menuangkan air panas, mengurungnya di lemari, menguncinya di luar rumah dalam waktu yang lama, melarangnya keluar rumah, menyuruhnya duduk lama, membiarkannya berdiri, dll. Penganiayaan fisik memiliki kontinuitas yang berbeda dari ledakan emosi sementara. Hal ini terus berkesinambungan sampai berbulan-bulan dan bertahun-tahun.

2. Pengabaian (*negurekuto*/ネグレクト)

Menurut Kazumi (2014: 113), yang dimaksud dengan pengabaian adalah sebagai berikut:

“ネグレクト（養育放棄）とは、子どもであれば当然してもらえないはずの養育を親が与えていないことを言う。”

Negurekuto (yōiku hōki) to wa, kodomo de areba tōzen shite moraeru hazu no yōiku o oya ga ataete inai koto o iu.

Pengabaian (pengabaian perawatan) yaitu dapat dikatakan bahwa orang tua tidak melakukan perawatan yang seharusnya anak dapatkan.

Berdasarkan pada isi perlakuan dari pengabaian itu sendiri berbeda setiap tahapan usia anak, Kazumi (2014: 114-115) mengelompokkannya kedalam tiga bagian, yaitu sebagai berikut:

a. Ketika masih bayi (*nyūjiki de areba* 乳児期であれば)

- 1) Berat badan tidak bertambah dikarenakan tidak menerima asupan susu (*miruku o moraenai node taijū ga fuenai*/ミルクをもらえないので体重が増えない)

- 2) Kulit bayi lecet/rusak karena popok yang tidak diganti (*omutsu o kaete moraenai node hifu ga tadareteiru*/オムツを替えてもらえないので皮膚がただれている)
 - 3) Tidak mendapatkan makanan bayi (*rinyuūshoku o moraenai*/離乳食をもらえないまま)
 - 4) Menyusui dengan yang tidak mengeluarkan/terdapat ASI (Air Susu Ibu) (*denai oppai o sutteiru*/出ないおっぱいを吸っている)
 - 5) Membiarkan bayi meskipun demam disertai dengan diare (*geri o shite hatsunetsushiteiru noni hōtteokareru*/下痢をして発熱しているのに放っておかれる)
- b. Ketika memasuki usia sekolah (*gaku dōki ni naruto*/学童期になると)
- 1) Karena tidak mendapatkan makan di rumah, maka hidup hanya dengan makan siang di sekolah satu kali dalam sehari (*ie de wa gohan moraenai node, ichi nichi issoku no kyūshoku dake de ikiteir*/家ではご飯をもらえないので、一日一食の給食だけで生きている)
 - 2) Selalu mengenakan pakaian yang sama, serta membiarkan tetap mengenakan pakaian tipis meskipun di tengah musim dingin (*itsumo onaji fuku o kiteite, mafuyu ni nattemo usugi no mama de iru*/いつも同じ服を着ていて、真冬になっても薄着のまま)
- c. Ketika memasuki pubertas (*shishunki ni chikaku naruto*/思春期に近くなる)

Karena tidak menerima biaya sekolah dari orangtua, ada siswa/anak yang bisa lulus dikarenakan ia melakukan kerja paruh waktu yang dimulai dari sore hari (sepulangnnya sekolah) (*kōkō no gakuhi o dashite moraenakatta node, yūgata kara baito o shite sotsugyōshita seito ga ita*/高校の学費を出してもらえなかったのも、夕方からバイトをして卒業した生徒がいた)

3. Penganiayaan secara psikologis (*shinriteki gyakutai*/心理的虐待)

Menurut Kazumi (2014: 115-116), yang dimaksud dengan penganiayaan secara psikologis adalah sebagai berikut:

親が子を無視したり、著しく拒絶的な態度をとり続けて子どもを心理的に追い詰める。著しい言葉や脅かしを繰り返し、子どもの心理的状态に重大なストレスを与えることである。また、兄弟と著しく差別的な扱いをすることや、子どもの目の前で夫婦間の暴力を見せるなども心理的な虐待にあたる。継続的な心理虐待は心に大きな傷を蓄積していくが、目に見えない傷なので、普通の人には想像もつかない。専門家であっても見逃してしまうことがある。

Oya ga ko o mushi shitari, ichijirushiku kyojetsutekina taido o tori tsudzukete kodomo o shinriteki ni oitsumeru. Ichijirushii kotoba ya odokashi o kurikaeshi, kodomo no shinriteki jōtai ni jūdaina sutoresu o ataeru kotodearu. Mata, kyōdai to ichijirushiku sabetsutekina atsukai o suru koto ya, kodomo no me no mae de fūfukan no bōryoku o miseru nado mo shinritekina gyakutai ni ataru. Keizokutekina shinri gyakutai wa kokoro ni ōkina kizu o chikuseki shite ikuga, me ni mienai kizu nanode, futsū no hito ni wa sōzō mo tsukanai. Senmonka de attemo minogashite shimau koto ga aru.

Orang tua yang mengabaikan anak-anak, terus mengambil sikap yang sangat menolak yang memburu psikologis anak tersebut. Mengulangi kata-kata dan ancaman yang luar biasa, serta memberikan tekanan serius pada kondisi psikologis anak. Selain itu, memperlakukan tindakan yang sangat diskriminatif terhadap saudara lain, dan menunjukkan kekerasan terhadap pasangan dalam perkawinan di depan anak juga merupakan penganiayaan secara psikologis. Penganiayaan secara psikologis yang berkelanjutan dapat menambah luka besar dalam hati dan pikiran anak, tetapi karena itu adalah luka yang tak terlihat, maka orang biasa tidak dapat mengetahuinya. Bahkan para ahli sekalipun mungkin melewatkannya.

Kazumi (2014: 116) juga menerangkan bahwa salah satu tindakan penganiayaan secara psikologis adalah *verbal abuse* (*bōryoku no kotoba/ 暴力の言葉*). Kumagai & Masako (2016: 39) menjelaskan bahwa yang dimaksud *verbal abuse* yaitu terjadi ketika seseorang menggunakan bahasa, baik lisan maupun tulisan, untuk menyakiti seseorang. Yang termasuk kedalam *verbal abuse* adalah sebagai berikut:

- a. Mengingat kesalahan masa lalu seseorang (*recalling a person's past mistakes*)
- b. Mengekspresikan harapan negatif (*expressing negative expectations*)
- c. Mengungkapkan ketidakpercayaan (*expressing distrust*)
- d. Mengancam kekerasan terhadap seseorang atau anggota keluarganya (*threatening violence against a person or her or his family members*)
- e. Berteriak (*yelling*)
- f. Bohong (*lying*)
- g. Nama panggilan (*name-calling*)
- h. Menghina dan bersumpah (*insulting and swearing*)
- i. Menahan informasi penting (*withholding important information*)
- j. Memerintah sesuatu yang tidak masuk akal (*unreasonably ordering around*)
- k. Berbicara tidak baik tentang kematian pada seseorang (*talking unkindly about death to a person*)

1. Memberi tahu orang lain bahwa dia tidak berharga atau tidak berarti selain masalah (*telling a person she or he is worthless or nothing but trouble*)

4. Pelecehan seksual (*seiteki gyakutai*/性的虐待)

Menurut Kazumi (2014: 119), yang dimaksud dengan pelecehan seksual adalah sebagai berikut:

性的虐待は程度や継続性の問題ではなく、「ある」ということだけで一線を越えた重度虐待（重症度四以上）に当たる。

Seiteki gyakutai wa teido ya keizoku-ei no mondai de wa naku, "aru" to iu koto dake de issen o koeta jūdo gyakutai (jūshōdo shi ijō) ni ataru.

Pelecehan seksual bukan masalah tingkatan maupun kontinuitas, melainkan hal tersebut setara dengan kekerasan berat (tingkat keparahan level 4 atau lebih) pada garis berseberangan yang telah menjadikannya “ada”.

Berikut adalah contoh-contoh tindakan *jidougyakutai*, berdasarkan kategori tindakan *jidougyakutai* dalam undang-undang tentang pencegahan pelecehan anak dll. Tahun 2000 di Jepang:

Kazumi (2014: 110-119)		SOS Renraku-kai (2015: 5)	
Penganiayaan fisik (身体的虐待)			
Memukul/mengetuk, memukul/menghajar/menghantam, menendang, melempar	叩く、殴る、蹴る、投げる <i>Tataku, naguru, keru, nageru</i>	Memukul/menghajar/menghantam, menendang	殴る・蹴る <i>Naguru, keru</i>
Mengayun	振り回す <i>Furi mawasu</i>	Mengguncangnya dengan keras	激しく揺さぶる <i>Hageshiku yusaburu</i>
Menusukkan,	突きとす	Membuat luka	たばこなどに

menikam, menembus	<i>Tsuki tosu</i>	bakar yang disebabkan oleh rokok	よるやけどなどの外傷を負わせる <i>Tabako nado ni yoru yakedo nado gaishō o owaseru</i>
Mencekik/membuatnya sulit bernapas	窒息させる <i>Chissokusaseru</i>	Sengaja membakar seperti menyiraminya dengan air panas	熱湯をかけるなど故意にやけどを負わせる <i>Nettō o kakeru nado koi ni yakedo o owaseru</i>
Menyundut dengan api rokok	タバコの火を押し付ける <i>Tabako no hi o oshitsukeru</i>	Menenggelamkan	溺れさせる <i>Oboresaseru</i>
Menyiraminya dengan air panas	熱湯をかける <i>Nettō o kakeru</i>	Mencekik	首を絞める <i>Kubi o shimeru</i>
Mengurungnya di lemari	押し入れに閉じ込める <i>Oshi ire ni tojikomeru</i>	Menguncinya di luar.	戸外に閉め出す <i>Kogai ni shime dasu</i>
Menguncinya diluar rumah dalam waktu yang lama	長時間家の外に締め出す <i>Chōjikan ie no soto ni shime dasu</i>	Dengan sengaja membuat anak sakit	意図的に子どもを病気にさせる <i>Itoteki ni kodomo o byōki ni saseru</i>
Melarangnya keluar rumah	家から出さない <i>Ie kara dasanai</i>		
Menyuruh duduk dalam waktu yang lama	長時間正座させる <i>Chōjikan seizasaseru</i>		
Menyuruhnya terus berdiri	立たせる <i>Tataseru</i>		
Pengabaian (ネグレクト)			

Meninggalkan anak tanpa memberi makan, sehingga menghambat pertumbuhan normal (tinggi/berat) si anak	食事を与えず放置して子ども通常成長（身長・体重）を阻害したり <i>Shokuji o ataezu hōchishite kodomo no tsūjyō no seichō (shinchō, taujyū) o sogaishitari</i>	Tidak memberinya makan	食事を与えない <i>Shokuji o ataenai</i>
Meninggalkannya sendiri di rumah dalam waktu yang lama	長い間、家の中に一人にさせておいたり <i>Nagai kan, ie no naka ni hitori ni sasete oitari</i>	Membiarkan orang yang hidup serumah degannya melakukan kekerasan terhadap anaknya	同居人が虐待していても放置する <i>Dōkyo hito ga gyakutai shiteitemo hōchisuru</i>
Mengurungnya di gudang	物置に閉じ込めたり <i>Mono oki ni tojikometari</i>	Meninggalkan bayi di mobil atau di rumah	乳幼児を自動車や家に残したまま外出する <i>Nyūyōji o jidōsha ya ie ni nokoshita mama gaishutsusuru</i>
Meninggalkan bayi dalam mobil	乳幼児を車の中に放置したり <i>Nyūyōji o kuruma no naka ni hōchishitari</i>	Mengabaikannya, dan meninggalkannya	子どもを遺棄したり、置き去りにする <i>Kodomo o ikishitari, okizari ni suru</i>
Tidak membawanya ke rumah sakit, meskipun anak sakit	病気なのに病院に連れて行かなかったり <i>Byōkinanoni byōin ni tsurete ikanakattari</i>	Membiarkannya sangat kotor/tidak bersih	ひどく不潔にする <i>Hidoku fuketsu ni suru</i>

		Tidak membawanya ke rumah sakit, meskipun anak sakit parah	重い病気になっても病院に連れていかない <i>Omoi byōki ni natte mo byōin ni tsurete ikanai</i>
		Bertentangan dengan keinginan anak, seperti tidak bisa pergi ke sekolah, dll	子どもの意思に反して、学校等に登校させない <i>Kodomo no ishi ni hanshite, gakkō tō ni tōkōsasenai</i>
		Tidak berupaya mendukung anak untuk bersekolah	登校を促す努力をしない <i>Tōkō o unagasu doryoku o shinai</i>
Penganiayaan secara psikologis (心理的虐待)			
<i>Verbal Abuse</i>	言葉の暴力 <i>Kotoba no bōryoku</i>	Kekerasan terhadap pasangan yang dilakukan di depan anak-anak	子どもの目の前で配偶者等に暴力をふるう <i>Kodomo no me no mae de haigūsha nado ni bōryoku o furū</i>
		Ancaman berupa lisan	言葉による脅し <i>Kotoba ni yoru odoshi</i>
		Mengabaikan atau menunjukkan sikap menolak	無視したり、拒否的な態度を示す <i>Mushi shi tari, kyohitekina taido o</i>

			<i>shimesu</i>
		Perlakuan diskriminatif antara saudara kandung	きょうだい間で差別的な扱いをする <i>Kyōdaikan de sabetstekina atsukai o suru</i>
		Perilaku yang menyakiti harga diri anak-anak	子どもの自尊心を傷つけるような言動 <i>Kodomo no jisonshin o kizutsukeru yōna gendō</i>
Pelecehan seksual (性的虐待)			
Orang tua memaksa anak-anak mereka melakukan tindakan seksual	親が子どもに性的行為を強要したり <i>Oya ga kodomo ni seiteki kōi o kyōyōshitari</i>	Perilaku seksual pada anak-anak	子どもへの性的行為 <i>Kodomo e no seiteki kōi</i>
Menyentuh dan melihat tubuh dengan minat seksual.	性的な関心で体を触る、見る <i>Seitekina kanshin de karada o sawaru, miru.</i>	Menunjukkan alat kelamin	性器や性的行為を見せる <i>Seiki ya seiteki kōi o miseru</i>
Mebiarkan orang tua dan atau kenalan orang tua bertindak tidak senonoh terhadap anak-anak mereka.	親や親の知人が子どもにわいせつな行為をする、させる <i>Oya ya oya no chijin ga kodomo ni waisetsuna kōi o suru, saseru</i>	Menjadikannya sebagai subjek pornografi	ポルノグラフィーの被写体とする <i>Porunogurafi no hishatai to suru</i>
Menunjukkan alat kelamin dan hubungan seksual	性器や性交を見せたり <i>Seiki ya seikō o misetari</i>	Tindakan seksual seperti menyentuh alat kelamin anak atau menyuruh	子どもの性器を触る、または、子どもに性器を触ら

		anak menyentuh alat kelamin miliknya	せるなどの性的行為 <i>Kodomo no seiki o sawaru, matawa, kodomo ni seiki o sawaraseru nado no seiteki kōi.</i>
Menjadikan anak sebagai subjek pornografi	子どもをポルノグラフィーの被写体などにする <i>Kodomo o porunogurafi no hishatai nado ni suru</i>		

Keempat kategori di atas banyak digunakan di antara mereka yang melakukan kegiatan pencegahan pelecehan anak. Selain itu Kazumi (2014: 121) menambahkannya menjadi lima kategori yaitu:

5. Pengabaian psikologis (*shinriteki negurekuto*/心理的ネグレクト):
Contohnya, terjadi penganiayaan fisik, dari latar belakang itu, orang tua acuh tak acuh terhadap rasa sakit fisik dan mental anak tersebut, adanya pengabaian psikologis sehingga tidak bisa membaca perasaan anak.

C. Pola Asuh Anak di Jepang

Dalam keluarga, yang paling berperan penuh terhadap pengasuhan anak adalah seorang ibu. Pada keluarga di Jepang tidak ada yang disebut dengan *babysitter* (pengasuh bayi), dikarenakan faktor sifat orang Jepang yang terkenal akan kemandiriannya, termasuk dalam hal merawat dan

membesarkan anak-anak mereka. Menurut Reiko, dalam Ghiamitasya (2012: 98-99) menjelaskan bahwa karakteristik utama dari pengasuhan anak di Jepang antara lain, (1) besarnya peran ibu, (2) ayah tidak terlalu banyak terlibat dalam pengasuhan anak, (3) kurangnya dukungan dari kerabat dalam pengasuhan anak, (4) rendahnya penggunaan *babysitter*, pembantu, atau pekerja yang membantu urusan rumah tangga, (5) dalam keluarga yang kedua orang tuanya bekerja, fasilitas seperti *hoikuen (day care)* memiliki peran hingga batas-batas tertentu. Dengan kata lain, pengasuhan anak di Jepang kurang mendapat dukungan dari sang ayah maupun kerabat lainnya. Ibu menjadi satu-satunya orang yang bertanggung jawab atas pengasuhan anak. Sebelum Perang Dunia ke-II masyarakat Jepang hidup dalam bentuk keluarga besar (*daikazoku/ie*), namun bentuk keluarga ini di Jepang semakin mengalami penurunan disebabkan dari sistem perekonomian Jepang yang semakin maju, dan perindustrian Jepang yang semakin banyak, sehingga sebagian besar keluarga Jepang sekarang hidup di perkotaan dalam bentuk keluarga inti/*nuclear family* (terdiri dari ayah, ibu, anak) sebagai akibat untuk mengondisikan tempat dimana mereka bekerja. Sesuai dengan pernyataan Tobing, 2006:74, dalam jurnal “*Perubahan Peran Ayah Dalam Pengasuhan Anak di Jepang Pada Era Shousika*” oleh Ghiamitasya, bahwa:

“Sebagian besar keluarga di Jepang membentuk sebuah keluarga besar (*daikazoku*). Namun setelah perang, industrialisasi kian berkembang, bentuk keluarga mengalami perubahan secara bertahap dari *daikazoku* menjadi *shokazoku* (keluarga kecil) atau *kaku kazoku* (keluarga nuklir)”

Dari terbentuknya keluarga inti inilah yang menyebabkan tidak ada orang yang membantu perannya seorang ibu dalam hal pengasuhan anak. Maka dari itu tidak heran kalau seorang ibu di Jepang dalam melakukan tugasnya di rumah merasakan stres akibat kelelahan.

Sejak terjadinya industrialisasi inilah fungsi keluarga telah di definisikan oleh banyak sosiolog, yaitu diantaranya:

“マードックは家族機能を4つに分類し、性的機能、生殖機能、教育機能、経済機能をあげた。また、パーソンズは子どもの社会化と成人のパーソナリティの安定化という2機能を説いた。オグバーンは経済、地位付与、教育、保護、宗教、娯楽、愛情という7機能があるとした。以上の家族社会学における主要な家族機能において「教育」機能の指摘が共通して見受けられる。オグバーンが家族機能縮小説1で述べたように、近代産業社会において家族機能が縮小し、愛情機能のみが残るとした考え方は現代社会において当てはまるといえよう。”

Mādokku wa kazoku kinō o 4tsu ni bunrui shi, seiteki kinō, seishoku kinō, kyōiku kinō, keizai kinō o ageta. Mata, pāsonzu wa kodomo no shakai-ka to seijin no pāsonariti no anteika to iu 2 kinō o toita. Ogubān wa keizai, chii fuyo, kyōiku, hogo, shūkyō, goraku, aijō to iu 7 kinō ga aru to shita.

Murdoch mengklasifikasikan fungsi keluarga menjadi empat, yaitu meningkatkan fungsi seksual, fungsi reproduksi, fungsi **pendidikan**, dan fungsi ekonomi. Selain itu, Parsons mengatakan bahwa hanya ada dua fungsi keluarga, yaitu sosialisasi anak-anak dan stabilisasi kepribadian orang dewasa. Ogbarn mengatakan ada tujuh fungsi keluarga, yaitu ekonomi, pemberian status, **pendidikan**, perlindungan, agama, hiburan, cinta. (https://www.soka.ac.jp/files/ja/20170525_130936.pdf)

Pada fungsi keluarga utama dalam penjelasan sosiologi keluarga di atas, indikasi fungsi "pendidikan" biasanya terlihat. Pendidikan yang dimaksud disini adalah pendidikan yang diberikan oleh ibu dalam keluarga terhadap anaknya. Lebih spesifikasinya lagi pendidikan ini bisa disebut dengan pola asuh yang di terapkan ibu dalam menciptakan pribadi anak yang disiplin, mandiri, baik, sopan, dan pintar. Mengapa pendidikan dalam keluarga bisa

diklasifikasikan dalam bentuk pola asuh? Berikut penjelasan pengertian dari pola asuh itu sendiri, yaitu:

“Menurut Elizabeth B. Hurlock, pola asuh orangtua adalah cara orangtua dalam *mendidik* anak. Sedangkan menurut Chabib Thoha, pola asuh orangtua berarti cara yang dilakukan orangtua dalam *mendidik* anaknya sebagai bentuk tanggung jawabnya kepada anak. Menurut Kohn, seperti dikutip Chabib Thoha, pola asuh orangtua adalah bagaimana cara *mendidik* orangtua terhadap anak, baik secara langsung maupun tidak langsung.”
<https://www.wawasanpendidikan.com/2014/10/pengertian-pola-asuh-anak-dalam.html>)

Konsep dari pola asuh yang diterapkan dan dijadikan pedoman oleh para ibu di Jepang dalam mendidik anak-anaknya tersebut diantaranya yang paling populer (sering kita dengar) adalah istilah konsep *ryousai kenbo*, *kyouiku mama*, dan *san sai ji shinwa*.

1. *Ryousai Kenbo* (良妻賢母)

Saat ini, ketika mendengarkan kata *ryousai kenbo*, ada citra norma wanita yang cukup tua, dan nampak seperti sudah tidak ada lagi dalam masyarakat Jepang saat ini. Istilah ini menunjukkan seorang ibu Jepang yang mendedikasikan seluruh waktunya untuk mengurus keluarganya, terutama dalam mendidik anak.

Istilah *ryousai kenbo* mulai muncul pada akhir abad ke-19 jaman Meiji, pada saat itu Jepang sedang berusaha mengejar keterbelakangannya dari bangsa barat dengan yang menjadi permasalahan utama adalah tentang kesetaraan pendidikan antara pria dan wanita. *Ryousai kenbo* mulai berkembang pesat setelah Perang Dunia ke-I, dan sebelum Perang Dunia ke-II istilah *ryousai kenbo* telah dianggap sebagai salah satu prinsip

utama pendidikan anak perempuan. Pada masa itu *ryousai kenbo* bukanlah norma Konfusian lama, melainkan norma baru. Di bawah gagasan kebangsaan mengakui bahwa perempuan yang memperoleh pengetahuan dan pendidikan pada akhirnya sangat diperlukan untuk bangsa, untuk mencetak generasi mendatang yang lebih baik. (Hayashibo, 2004: 3)

Sebenarnya, seluruh aspek dan spirit *ryousai kenbo* itu terdapat dalam jiwa setiap perempuan. Menurut Hayashibo (2004: 3), dalam penelitiannya yang berjudul “*Ryousai Kenbo to Jyousei Kyoiku ni Tsuite*”, definisi dari *ryousai kenbo* itu sendiri adalah:

“「良妻賢母」の意味は、文字の通り「良妻」は夫にとって良い妻、「賢母」は子どもにとって賢い母。”

“*Ryousai kenbo*” no imi wa, moji no tōri “*ryōsai*” wa otto ni totte yoi tsuma, “*kenbo*” wa ko tomo ni totte kashikoi haha.

Pengertian "*ryousai kenbo*", apabila diambil dari segi kata "*ryousai*" adalah istri yang baik untuk suaminya, "*kenbo*" adalah ibu yang bijaksana bagi anak-anaknya.

Jadi arti dari *ryousai kenbo* adalah seorang istri yang baik dan ibu yang bijaksana.

Setelah kita mengetahui pengertian dari *ryousai kenbo*, pasti akan timbul pertanyaan tentang “ibu seperti apa yang termasuk kedalam bentuk *ryousai* dan *kenbo* itu?”. Menurut artikel tentang “7 Cara untuk Menjadi Istri yang Baik dan Ibu yang Bijaksana (*Ryōsaikenbo ni naru hōhō 7tsu/良妻賢母になる方法 7 つ*)” (<https://blair.jp/160302-ryousai-kenbo>), bahwa yang harus di lakukan adalah sebagai berikut:

a. Bayangkan tentang menjadi *ryousai kenbou* yang ideal

Pertama-tama yang harus di tanamkan dan di ketahui adalah skema dari *ryousai kenbo* itu sendiri, yaitu:

- 1) Wanita yang cantik dan cerdas (*akarukute hatsuratsushita josei* 明るくてはつらつした女性)
- 2) Mampu mengerjakan pekerjaan rumah (*kaji ga bannō* 家事が万能)
- 3) Penuh perhatian (*kikubari ga komayaka*/気配りが細やか)
- 4) Bisa memberikan masukan/pertimbangan kepada pasangan (*aite o omoi yaru yue ni kibishiku suru koto mo dekiru*/相手を思いやるゆえに厳しくすることもできる).

b. Jadilah koki terbaik (*ryōri jōzu ni naru*/料理上手になる)

c. Menghargai waktu diri sendiri (*Jibun no jikan o taisetsu ni suru*/自分の時間を大切にする)

d. Menyampaikan rasa syukur/terimakasih dengan baik (*kansha no kimochi o kichin to tsutaeru*/感謝の気持ちをきちんと伝える)

e. Jika sosok ibu absen dalam keluarga, kehidupan keluarga bisa tetap berlanjut (*jibun ga inakute mo mawaru katei ni suru*/自分がいなくても回る家庭にする)

f. Mencoba menanamkan rasa percaya terhadap pasangan (*aite o shinjiru yōni suru*/相手を信じるようにする)

g. Selalu ceria (*yoku warau*/よく笑う).

2. *Kyouiku Mama*

Keluarga memegang peranan penting dalam membentuk karakter seorang anak. Peran orangtua di Jepang sangat tinggi didalam mendidik anak-anaknya menjadi anak yang berkarakter. Sopan santun, kedisiplinan, keteraturan, sudah diajarkan sejak dini. Sistem pendidikan karakter tersebut dilakukan dengan memberi contoh langsung kepada anak-anaknya.

Kyoiku mama merupakan salah satu bentuk nyata dari peran perempuan dalam mendidik karakter anak-anak dalam keluarga Jepang. *Kyoiku mama* artinya pendidikan ibu, dimana seorang ibu diberikan tanggung jawab sepenuhnya untuk mendidik dan mengajar anaknya dalam hal pendidikan karakter dan etika. *Kyoiku mama* mulai berkembang di Jepang pada paruh kedua abad ke-20. Perempuan Jepang berpendapat semakin sukses mereka mendidik anak-anaknya menjadi orang yang berhasil di masyarakat, maka akan semakin tinggi juga penghargaan yang akan diberikan masyarakat kepada mereka. Keberhasilan seorang ibu di mata masyarakat dilihat dari keberhasilan anak-anaknya, baik sebagai warga, pemimpin maupun pekerja. Dengan sistem budaya seperti itu, maka para ibu di Jepang berlomba-lomba mendidik dan mengajar anak mereka agar menjadi orang yang sukses dan berguna bagi masyarakat dan bangsa. Mengingat *kyoiku mama* mampu membina kehidupan keluarga yang relatif stabil, maka sekolah tidak perlu terlalu berkonsentrasi pada masalah pendidikan karakter seperti kedisiplinan dan yang lainnya, karena pada dasarnya pendidikan karakter seperti itu sudah diajarkan baik secara

langsung maupun secara tidak langsung oleh orangtua siswa terutama oleh kaum ibu dalam keluarga masing-masing. Dengan demikian para guru di sekolah punya ketenangan dan waktu yang cukup untuk mengajarkan pengetahuan umum tanpa harus terpecah konsentrasinya untuk mengajarkan karakter. (Mulyadi, 2014: 75-76)

Untuk hal mendidik anak, pastinya memerlukan dukungan dari orang sekitar, terutama suami dalam keluarga Jepang saat ini yang mana terbentuk dalam keluarga inti (suami, istri, dan anak). Namun dukungan itu tidak akan sampai untuk keluarga orangtua tunggal dalam membesarkan anak-anaknya.

Menurut Hiroko dkk. (2016: 18-19), menjelaskan bahwa banyaknya kecemasan yang di alami seorang ibu tunggal dalam mendidik anaknya, dimana dia sebelumnya belum memiliki pengalaman untuk hal kontak dan perawatan anak, tidak adanya sosok ibu di kehidupannya dulu, sehingga tidak dapat memahami keinginan anak. Sehingga dalam hal tidak adanya dukungan untuk ibu tunggal, menjadikan mereka merasakan rasa terisolasi di lingkungan mereka.

Menurut Children Future Fondation (2010) dalam Hiroko dkk. (2016: 18) menyatakan bahwa:

“「人間関係が希薄になると、母親が孤立してしまい、直接・間接的な支援を受けられず、悪循環に陥る。育児への無関心や知識不足、母親が一人で育児をする孤立感、生活苦が子どもの虐待へ向かう」という。”

“Ningen kankei ga kihaku ni naru to, hahaoya ga koritsushiteshimai, chokusetsu kansetsutekina shien o ukerarezu, akujunkan ni ochīru. Ikuji e no mukanshin ya chishiki fusoku, hahaoya ga hitori de ikuji o suru koritsukan, seikatsuku ga kodomo no gyakutai e mukau” to iu.

Ketika hubungan menjadi lemah, ibu menjadi terisolasi, dan mereka tidak dapat menerima dukungan baik langsung maupun tidak langsung, sehingga mereka jatuh ke dalam lingkaran neraka. Ketidak pedulian terhadap pengasuhan anak dan kurangnya pengetahuan, dalam kondisi isolasi di mana ibu sendiri mengambil pengasuhan anak, sehingga gaya hidup seperti ini mengarah pada kekerasan anak-anak "

Oleh karena itu dukungan sangat penting sekali, terutama untuk ibu tunggal yang mana memiliki hubungan antara kemiskinan dan kecemasan orangtua dalam membesarkan anak-anaknya.

3. *San Sai Ji Shinwa*

Menurut Reiko, dalam Ghiamitasya (2012: 99) menjelaskan bahwa, kepercayaan akan mitos “3 tahun” (*san sai ji shinwa*) yang masih mengakar di dalam pengasuhan anak di Jepang mengatakan bahwa, anak di usia sampai 3 tahun jika tidak berada di bawah pengasuhan tangan sang ibu, maka akan memberikan dampak negatif pada proses pertumbuhannya. Masami Ohinata (2010) dalam Ghiamitasya (2012: 99) mengatakan bahwa mitos 3 tahun merupakan sebuah konsep dimana pengasuhan anak hingga usia tiga tahun harus dibebankan kepada sang ibu. Dalam hal ini terdapat 3 unsur di dalamnya, antara lain:

- a. Anggapan bahwa pertumbuhan anak hingga usia 3 tahun merupakan masa yang sangat penting.
- b. Karena dianggap sebagai masa terpenting, maka sudah seharusnya pengasuhan anak dibebankan kepada ibu, dimana ia memiliki kemampuan alami dalam hal pengasuhan.
- c. Jika pengasuhan anak hingga usia 3 tahun atau kira-kira hingga sebelum masuk sekolah tidak dilakukan oleh sang ibu dengan alasan bekerja, dikatakan dapat mengganggu pertumbuhan fisik maupun psikis anak.

Adanya kepercayaan yang kuat akan mitos “3 tahun” menjadikan sosok ibu sebagai peran utama bagi setiap wanita yang telah berkeluarga. Interaksi antara ibu dan anak cenderung lebih intensif bila dibandingkan dengan interaksi antar ayah dan anak. Namun, adanya pembagian pekerjaan berdasarkan gender (*seibetsu yakuwari bungyou*) di dalam keluarga Jepang memberikan peran masing-masing kepada ayah dan ibu dalam pengasuhan anak. Hal ini menyebabkan berbedanya interaksi yang dilakukan oleh ayah dengan anak serta ibu dengan anak. (Ghiamitasya, 2012: 99)

Menjadi ibu sepanjang hari tidak lagi menawarkan tantangan. Terutama bagi wanita-wanita yang berada di daerah urban dan sub-urban dimana di wilayah ini rumah yang mereka miliki terlalu kecil untuk melakukan berbagai macam aktifitas. Bagi wanita yang bermalasan tidak ada artinya, sehingga wanita bekerja di luar rumah. Ibu-ibu yang

bekerja di luar tidak lagi mengurus anaknya secara penuh. Pada saat anak berusia 0-2 tahun, waktu ibu masih banyak untuk mengurus anak-anaknya. Hal ini terjadi karena ibu yang bekerja mendapatkan cuti mengasuh anak selama 1 tahun dan adanya mitos mengasuh anak yang dilakukan oleh ibu sampai anak berusia 3 tahun. Untuk ibu yang memiliki anak berusia 3 tahun ke atas waktu yang dimiliki untuk mengurus anak mulai berkurang. Oleh karena itu, ibu mulai bekerja kembali setelah mengambi cuti atau anak-anak sudah mulai memasuki *youchien* (taman anak-anak). (Ledi yana, 2012: 100)

D. Sosiologi Sastra

Sosiologi sastra adalah ilmu yang memanfaatkan faktor sosial sebagai pembangun sastra (Suwardi, 2011: 8). Menurut Jabrohim dkk. (2003: 158), yang dimaksud dengan sosiologi sastra adalah pendekatan terhadap sastra yang mempertimbangkan segi-segi kemasyarakatan.

Analisis sosiologi dapat dibicarakan melalui dua cara, yaitu: a) secara ekstrinsik, melalui aspek luar objek dan b) secara intrinsik, melalui aspek dalam. Sebuah naskah yang disalin dalam berbagai bentuk menunjukkan bahwa naskah yang dimaksudkan menarik minat. Bentuk bangunan tertentu menunjukkan kecenderungan masyarakat pada periode tertentu. Naskah, bangunan, dan benda-benda budaya lain dalam hubungan ini berfungsi sebagai dokumen sosial. Secara intrinsik, baik naskah maupun bangunan dapat dibicarakan melalui struktur objek, cerita dalam naskah atau struktur bangunan dalam bangunan tertentu. (Ratna, 2010: 370-371)

Keberadaan karya sastra tidak terlepas dari adanya hubungan timbal balik antara pengarang, masyarakat, dan pembaca. Hubungan tersebut menjadi dasar pembagian sosiologi sastra oleh Rene Wellek dan Austin Warren, serta Ian Watt. Dalam bukunya *Theory of Literature*, Rene Wellek dan Austin Warren (1994), menawarkan adanya tiga jenis sosiologi sastra, yaitu sosiologi pengarang, sosiologi karya sastra, sosiologi pembaca, dan pengaruh sosial karya sastra. Pembagian jenis sosiologi sastra tersebut, hampir mirip dengan apa yang dilakukan oleh Ian Watt dalam esainya "*Literature and Society*". Ian Watt, membedakan antara sosiologi sastra yang mengkaji konteks sosial pengarang, sastra sebagai cermin masyarakat, dan fungsi sosial sastra. (Wiyatmi, 2014: 25)

Menurut Ian Watt, konteks sosial pengarang, antara lain mengkaji posisi sosial sastrawan dalam masyarakat dan kaitannya dengan pembaca. Sosiologi sastra yang mengkaji sastra sebagai cermin masyarakat mengkaji sejauh mana sastra dapat dianggap sebagai mencerminkan keadaan masyarakat. Fungsi sosial sastra mengkaji sampai berapa jauh nilai sastra berkaitan dengan nilai sosial. (Wiyatmi, 2014: 26)

Oleh Watt dalam Wiyatmi (2014: 45), menjelaskan bahwa, sosiologi karya sastra mengkaji sastra sebagai cermin masyarakat. Apa yang tersirat dalam karya sastra dianggap mencerminkan atau menggambarkan kembali realitas yang terdapat dalam masyarakat.

Realitas yang terdapat dalam masyarakat tersebut merupakan suatu fakta sosial yang disajikan dalam bentuk karya sastra. Menurut Faruk dalam

Wiyatmi (2014: 128) menjelaskan bahwa fakta sosial adalah fakta (sesuatu hal) yang mempunyai peran dalam sejarah. Pengertian lain oleh Razak (2017: 25) bahwa yang dimaksud dengan fakta sosial adalah penggambaran dan perbuatan-perbuatan, tapi fakta-fakta ini bukan fakta psikis, karena fakta psikis hanya ada dalam individu sedangkan fakta sosial berada pada di luar individu secara terpisah, sekalipun hal itu tidak dapat dilepaskan dari individu secara bersama-sama, tetapi Durkheim merumuskannya sebagai otonom yaitu sebagai realitas yang merupakan jenis tersendiri.

Durkheim adalah tokoh sosiologi klasik yang mempopulerkan gejala sosial sebagai objek kajian sosiologi. Durkheim menyebutnya sebagai fakta sosial. Gejala sosial adalah fenomena yang menandai (*symptom*) munculnya permasalahan sosial di masyarakat. Perlu dicatat, sebagai tanda suatu permasalahan, gejala sosial berbeda dengan permasalahan sosial itu sendiri. Namun bukan berarti keduanya tidak berkaitan. Keduanya justru berhubungan erat (<http://sosiologis.com/gejala-sosial>, diakses 2 Mei 2018, pukul 04:24). Sebagai contoh, dalam kasus *jidougyakutai* yang dilakukan oleh *single mother* yang sedang penulis teliti, *jidougyakutai* merupakan permasalahan sosial. Gejala sosialnya adalah adanya ketimpangan ekonomi yang tajam akibat statusnya sebagai *single mother* dalam memenuhi kebutuhannya dan anaknya. *Single mother* tertekan secara ekonomi, tekanan tersebut menjadi penyebab stres, dan dari luapan/pelampiasan stres tersebut bisa menimbulkan tindakan *jidougyakutai*.

Kaitannya fakta sosial dengan gejala sosial bisa kita lihat dari pengertian sosiologi itu sendiri, yaitu menurut Pitirim Sorokin dalam Wiyatmi (2014: 6-7) yang menjelaskan bahwa, sosiologi adalah ilmu yang mempelajari hubungan dan pengaruh timbal balik antara aneka macam gejala sosial (misalnya gejala ekonomi, gejala keluarga, dan gejala moral), sosiologi adalah ilmu yang mempelajari hubungan dan pengaruh timbal balik antara gejala sosial dengan gejala nonsosial, dan yang terakhir, sosiologi adalah ilmu yang mempelajari ciri-ciri umum semua jenis gejala-gejala sosial lain.

Berdasarkan dari penjelasan di atas, teori sosiologi sastra oleh Ian Watt dengan teori Durkheim memiliki keterkaitan maksud dan tujuan yang sama, yaitu ingin menampilkan suatu realitas dan fakta sosial yang ada pada jaman dulu dan sekarang, serta dijadikan sebagai objek dari kajian sosiologi, namun pada hal ini ditampilkan dalam bentuk karya sastra yaitu salah satunya dalam drama.

E. Penelitian Relevan

1. Kecenderungan *Jidougyakutai* (Tindak Kekerasan Terhadap Anak) yang Dilakukan oleh Ibu Kandung. (Yulia (0795087027). 2001. Universitas Indonesia: Fakultas Sastra)

Jidougyakutai merupakan salah satu masalah sosial yang ada di Jepang. Perekonomian Jepang yang maju pesat setelah Perang Dunia-II, dengan sistem kerja dalam perusahaan mendahulukan kepentingan perusahaan dibanding kepentingan lainnya, sehingga bermasalah kepada pekerja-pekerja yang telah menikah, terutama pria. Tugas seorang istri di

jepang yaitu mengurus anak, membersihkan rumah, dan mengurus suami. Dari kondisi seperti ini, seorang istri bisa stres dikarenakan tidak adanya yang menyelangi pekerjaannya, dan selanjutnya bisa berakhir pada tindakan *jidougyakutai*. Faktor-faktor lain yang dapat memicu terjadinya penganiayaan terhadap anak adalah perubahan jumlah anggota keluarga dalam masyarakat Jepang. Terutama di kota-kota besar. Dari keluarga besar menjadi keluarga inti (*Kaku Kazoku*) yaitu ayah, ibu, dan satu anak. Pada saat mereka berumah tangga dan mempunyai anaknya sendiri, maka mereka tidak mempunyai pengetahuan atau pengalaman tentang tata cara mengasuh anak dan hanya berpedoman dengan buku tata cara pengasuhan anak. Kasus-kasus penganiayaan terhadap anak ini, disebabkan oleh istri yang berasal dari anak tunggal dimana ia tidak mengerti bagaimana mengurus anak.

Seorang suami di Jepang yang sepenuhnya menyerahkan pengasuhan anak kepada seorang istri, tidaklah baik dan mereka dapat dianggap membantu terjadinya penganiayaan terhadap anak. Dengan pola kehidupan di kota, dimana hampir tidak ada orang yang bisa dimintai tolong untuk bergantian mengasuh anaknya, dapat menyebabkan stres pada istri, ataupun dapat menyebabkan hal-hal lain yang akhirnya menjurus pada penganiayaan anak.

2. Kajian Tunjangan Membesarkan Anak untuk *Single Mother* yang Bercerai di Jepang (Mutiara Aulia (1006714941). 2014. Universitas Indonesia: Fakultas Ilmu Pengetahuan Budaya)

Tunjangan membesarkan anak (*Jidou Fuyou Teate*) merupakan salah satu bentuk tunjangan kesejahteraan sosial keluarga yang dirancang pemerintah Jepang untuk membantu para *single mother* yang biasanya disebabkan karena bercerai ataupun yang tidak ingin menikah tetapi sudah mempunyai anak. Tunjangan ini pertama kali diperkenalkan oleh pemerintah Jepang pada tahun 1962. Tunjangan membesarkan anak dibentuk oleh pemerintah Jepang karena adanya rendahnya pendapatan yang dialami oleh *single mother* di Jepang (Akaishi, 2011).

Berdasarkan data biro statistik Kementrian Dalam Negeri dan Komunikasi (*Soumu-shou*), pada tahun 2004 rata-rata pendapatan rumah tangga *single mother* (terdiri dari ibu, dan anak yang belum menikah berumur dibawah 18 tahun) adalah 217.676 Yen per bulan. Berbeda dengan pendapatan rumah tangga yang biasa (yang terdiri suami-istri dan dua anak dengan pendapatan yang masuk hanya dari kepala rumah tangga) adalah 452.098 Yen per bulan. Berarti perbedaan antara pendapatan rumah tangga *single mother* dan pendapatan rumah tangga yang biasa mencapai 48,1%.

Menurut Aya Ezawa, rendahnya pendapatan rumah tangga *single mother* juga menggambarkan bahwa terjadi kesenjangan pendapatan rata-rata antara laki-laki dan perempuan. Pada tahun 2002, kesenjangan rata-

rata pendapatan wanita yang bekerja mencapai 64,9% dibawah pendapatan laki-laki. Karena hal tersebut, pendapatan rumah tangga *single mother* dengan rumah tangga yang berpasangan terjadi kesenjangan akibat rendahnya pendapatan *single mother*, kebanyakan dari mereka mengalami kesulitan untuk memenuhi kebutuhan hidup selayaknya kebanyakan keluarga yang utuh di Jepang. Untuk menerima tunjangan ini, para *single mother* harus sudah bekerja minimal selama 5 tahun.

Dari ke-dua penelitian relevan yang telah dijelaskan diatas, perbedaannya dengan yang akan penulis analisis dalam skripsi ini adalah pada tindakan *jidouyakutai* yang dilakukan oleh status seorang ibu yang menjadi *single mother* di Jepang saat ini, yang dimediasi dalam drama Jepang “*Mother*”. Sesuai dengan penjelasan diatas bahwa tingkat perceraian di Jepang yang setiap tahunnya terus meningkat mengakibatkan timbulnya para *single families*, yang mana yang paling diperhatikan adalah rumah tangga *single mother*, dikarenakan terjadinya kesenjangan rata-rata pendapatan antara laki-laki dan perempuan. Yang berdampak pada kondisi ekonomi para *single mother*. Sesuai dengan penjelasan sebelumnya pula, bahwa tindakan *jidouyakutai* yang mayoritas dilakukan oleh ibu kandung dikarenakan tidak adanya yang membantu si ibu mengurus keluarga dan anaknya, yang dikarenakan status keluarga di Jepang saat ini yaitu keluarga inti (*nuclear family*), yang terdiri dari ayah, ibu, dan satu atau dua anak, sehingga si ibu merasa lelah, stres dan berakhir pada tindakan *jidouyakutai*. Dalam keluarga inti saja bisa terjadi tindakan *jidouyakutai* yang dalam tanda kutip masih terdapat sosok ayah, dan bagaimana apabila hanya ada sosok ibu saja dalam

keluarga? Ketidak adaan sosok ayah tersebut menjadikan *single mother* dibebankan pada *double job* seorang ibu, yaitu selain mengurus anak dan rumah, disamping itu juga mereka harus bekerja demi kelangsungan hidupnya dan anak-anaknya. Hal inilah yang menjadi alasan penulis untuk meneliti hal tersebut. Karena semakin meningkatnya tingkat perceraian di Jepang, semakin banyak para *single mother*, dan semakin besar pula kesempatan terjadinya *jidouyakutai*.

BAB III

METODOLOGI PENELITIAN

A. Metode Penelitian

Metode penelitian terdiri atas dua kata: metode dan penelitian. Metode berasal dari bahasa Yunani yaitu *methodos* yang berarti cara atau jalan untuk mencapai sasaran atau tujuan dalam pemecahan suatu permasalahan. Kata yang mengikutinya adalah penelitian yang berarti suatu usaha untuk mencapai sesuatu dengan metode tertentu, dengan cara hati-hati, sistematis dan sempurna terhadap permasalahan yang sedang dihadapi. Jadi, metode penelitian adalah suatu cara atau prosedur untuk memperoleh pemecahan terhadap permasalahan yang sedang dihadapi. (Sudaryono, 2017: 69)

1. Waktu dan Tempat Penelitian

Metode penelitian yang penulis ambil dalam penelitian ini adalah metode penelitian kualitatif. Penelitian kualitatif biasa disebut dengan penelitian literatur. Oleh karena hal itu, sesuai dengan jenis penelitiannya, tempat yang pas untuk melakukan penelitian literatur adalah tempat yang menyediakan banyak buku yaitu salah satunya adalah di perpustakaan. Waktu yang dibutuhkan penulis dalam melakukan penelitian ini adalah dari bulan Februari – Juli 2018.

Adapun tempat penelitiannya yaitu dilaksanakan di perpustakaan STBA JIA dan perpustakaan Universitas Indonesia.

2. Jenis Penelitian

Metode dalam penelitian selalunya dibicarakan dalam klaster tersendiri, seperti metode deskripsi, metode eksperimen dan sebagainya. Sebagai sebuah cara atau ilmu tentang cara, metode dalam penelitian mejadi sebuah pilihan cara kerja yang akan dilakukan/diterapkan oleh setiap peneliti. (Ibrahim, 2015: 57)

Untuk dapat mencapai apa yang menjadi tujuan dalam penelitian, metode yang digunakan dalam penelitian ini adalah metode deskriptif. Menurut Ibrahim (2015: 57), metode deskripsi artinya cara kerja penelitian yang dilakukan untuk maksud melukiskan, atau menggambarkan, atau menjelaskan suatu keadaan (yang diteliti) seperti apa adanya, sesuai dengan situasi dan kondisi ketika penelitian dilakukan. Sebagai salah satu cara kerja dalam suatu penelitian, metode deskripsi dilakukan untuk menjelaskan selengkap mungkin realitas objek yang diteliti.

Dalam penelitian ini, metode tersebut dimaksudkan untuk mendeskripsikan dan menganalisis tentang faktor-faktor penyebab terjadinya tindakan *jidougyakutai* oleh tokoh *single mother* melalui drama “*Mother*” karya Yuji Sakamono yang disutradarai oleh Nobuo Mizuta (NTV) dan Makoto Naganuma Matsuyuki pada tahun 2010.

B. Prosedur Penelitian

Seperti yang telah dibahas sebelumnya, penelitian adalah suatu usaha untuk mencapai sesuatu dengan metode tertentu, dengan cara hati-hati, sistematis dan sempurna terhadap permasalahan yang sedang dihadapi. Oleh karena itu, untuk dapat mencapai tujuan dalam penelitian ini, penulis melakukan proses penelitian dengan langkah-langkah sebagai berikut:

1. Tahapan Persiapan

Dalam tahapan ini, kegiatan penelitian yang dilakukan oleh penulis yaitu diawali dengan pemilihan judul penelitian yang akan diteliti, penyusunan latar belakang masalah, perumusan masalah dan menentukan fokus masalah, penetapan serta memaparkan tujuan dan manfaat dari penelitian yang penulis ambil, kemudian metode penelitian, teknik pengumpulan data, proses penelitian, objek penelitian dan sumber data. Lalu mendiskusikan kepada pembimbing tentang tahap perencanaan yang telah dilaksanakan.

2. Tahapan Implementasi

Berikut ini merupakan beberapa tahapan pengolahan data yang dilakukan penulis setelah menyelesaikan tahap awal yang telah dijelaskan diatas.

a. Persiapan teori

Mengumpulkan data tentang *jidougyakutai*, serta menerjemahkan teori-teori bahasa Jepang dan Inggris yang didapat sebagai bahan referensi bab dua.

b. Menonton drama *Mother*

Dikarenakan objek dalam penelitian ini adalah drama Jepang yang berjudul *Mother*, maka dari itu untuk menentukan adanya tindakan *jidougyakutai* dalam drama ini, penulis mencoba menonton drama *Mother* secara berulang-ulang.

c. Menentukan dan mengelompokkan data

Setelah menonton film tersebut penulis menentukan dan mengelompokkan data-data dengan menggunakan analisis sosiologi sastra (a) secara ekstrinsik, melalui aspek luar objek dan b) secara intrinsik, melalui aspek dalam. Kemudian memisahkannya sesuai rumusan awal penelitian.

d. Menganalisis data

Setelah mengelompokkan data, penulis melakukan analisis terhadap data tersebut apakah sesuai dengan konsep masalah *jidougyakutai*.

e. Menarik kesimpulan

Langkah terakhir setelah seluruh data telah dianalisis adalah menyusun kesimpulan sementara dengan melakukan beberapa perbaikan melalui saran apabila masih ada kesalahan dalam hasil akhir penelitian.

3. Tahapan Laporan

Pada tahapan pelaporan merupakan tahapan terakhir dari pelaksanaan penelitian dan penulisan skripsi. Penulis menarik kesimpulan secara menyeluruh dari hasil yang telah dianalisis, dan melakukan perbaikan-perbaikan sesuai dengan saran pembimbing.

C. Teknik Pengumpulan Data

Untuk dapat memperoleh data yang lengkap, akurat dan relevan dengan masalah yang sedang diteliti, maka penulis melakukan pengumpulan data dengan teknik studi kajian pustaka. Kajian pustaka menurut Ratna (2010: 276), memiliki tiga pengertian yang berbeda:

1. Pengertian pertama: kajian pustaka adalah seluruh bahan bacaan yang mungkin pernah dibaca dan dianalisis, baik yang sudah dipublikasikan maupun semata-mata sebagai koleksi pribadi.
2. Pengertian kedua: kajian pustaka sering dikaitkan dengan kerangka teori atau landasan teori, yaitu teori-teori yang digunakan untuk menganalisis objek penelitian. Oleh sebab itu, sebagian peneliti menggabungkan kajian pustaka dengan kerangka teori.

3. Pengertian ketiga: kajian pustaka adalah bahan-bahan bacaan yang secara khusus berkaitan dengan objek penelitian yang sedang dikaji.

Menurut Ibrahim (2015: 37), kajian kepustakaan secara sederhana dapat dipahami sebagai kegiatan melakukan kajian dan analisis terhadap bahan-bahan yang bersumber dari kepustakaan (buku, laporan hasil penelitian, laporan hasil pengabdian, catatan manuskrip dan sebagainya).

Dari beberapa pengertian tentang kajian pustaka tersebut dapat disimpulkan bahwa, kajian pustaka adalah kegiatan menganalisis dan mengkaji data/teori yang bersumber dari kepustakaan (mengumpulkan referensi melalui buku, jurnal, penelitian terdahulu, *website* dan sumber lain) yang kemudian dikaitkan dengan objek penelitian.

Data yang dikumpulkan tersebut harus dapat memecahkan permasalahan yang telah dirumuskan, yaitu dalam penelitian ini data tersebut harus berhubungan dan sesuai dengan masalah-masalah sosial atau kebudayaan yang dialami oleh *single mother* yang dapat menjadi pemicu terjadinya tindakan *jidougyakutai* di Jepang.

D. Teknik Analisis Data

Setiap penelitian pasti memerlukan adanya analisis data. Karena hal ini merupakan kegiatan yang sangat penting dalam penelitian. Adapun dalam penelitian ini penulis menggunakan metode analisis isi (*content analysis*). Menurut Ibrahim (2015: 115), yang dimaksud dengan analisis isi adalah satu pendekatan dan metode dalam penelitian kualitatif yang menjadikan teks (tulisan maupun wacana) sebagai objek kajian atau satuan

yang dianalisis (*unit of analysis*), dalam rangka menemukan makna atau isi pesan yang disampaikan.

Analisis isi dalam penelitian ini menggunakan objek analisis wacana yang ditampilkan dalam bentuk drama. Menurut Hamad (2005), dalam kenyataan, wujud dari bentuk wacana dapat dilihat dalam beragam buah karya si pembuat wacana:

1. *Text* (wacana dalam wujud tulisan/grafis) antara lain dalam wujud berita, *features*, artikel opini, cerpen, novel, dsb.
2. *Talks* (wacana dalam wujud ucapan) antara lain dalam wujud rekaman wawancara, obrolan, pidato, dsb.
3. *Act* (wacana dalam wujud tindakan) antara lain dalam wujud lakon drama, tarian, film, *defile*, demonstrasi, dsb.
4. *Artifact* (wacana dalam wujud jejak) antara lain dalam wujud bangunan, lanskap, *fashion*, puing, dsb.

Keberadaan berbagai macam bentuk wacana dapat kita temukan dalam media cetak (seperti novel), media audio (seperti pidato), media visual (seperti lukisan), media audiovisual (seperti film), di alam (seperti lanskap dan bangunan), atau *discourse* yang dimediasikan (seperti drama yang difilmkan).

Dalam penelitian ini, penulis menggunakan analisis isi wacana dengan media audiovisual drama Jepang “*Mother*” karya Yuji Sakamono yang disutradarai oleh Nobuo Mizuta (NTV) dan Makoto Naganuma Matsuyuki pada tahun 2010.

E. Sumber Data

Sumber data dalam penelitian ini, penulis kelompokkan menjadi dua kelompok sumber data, yaitu sumber data primer dan sekunder. Sesuai dengan pengertiannya, menurut KBBI bahwa yang dimaksud primer adalah yang pertama; yang terutama; yang pokok, sedangkan sekunder adalah berkenaan dengan yang kedua atau tingkatan kedua atau tidak utama. Jadi yang dimaksud sumber data primer dan sekunder disini yaitu, sumber data primer adalah sumber data pokok yang digunakan untuk penelitian, sedangkan sumber data sekunder adalah sumber data pembantu, pelengkap, atau penunjang dari pada sumber data pokok.

Adapun sumber data primer yang dipakai dalam penelitian **“Analisis Faktor-Faktor Penyebab Terjadinya Tindakan *Jidougyakutai* oleh Tokoh *Single Mother* dalam Drama *Mother*”** ini adalah drama Jepang *“Mother”*, karya Yuji Sakamono yang disutradarai oleh Nobuo Mizuta (NTV) dan Makoto Naganuma Matsuyuki pada tahun 2010. Sumber data sekunder dalam penelitian ini adalah sumber-sumber pendukung seperti buku, *e-book*, jurnal, dan artikel dari internet yang difokuskan pada hal tindakan *jidougyakutai* yang dapat menunjang penelitian ini.

BAB IV

ANALISIS DATA

Dalam melakukan suatu penelitian, perlu adanya analisis terhadap data-data yang telah diperoleh demi mendapatkan hasil penelitian yang diharapkan. Melalui bab ini, penulis memaparkan analisis tentang faktor-faktor terjadinya tindakan *jidouyakutai* oleh tokoh *single mother* dalam drama “*Mother*”, dengan menggunakan teori sosiologi sastra oleh Ian Watt yaitu sastra sebagai cermin keadaan masyarakat, serta teori tambahan dari Durkheim yaitu tentang gejala dan fakta sosial.

Sebelum penulis menganalisis tentang faktor-faktor terjadinya tindakan *jidouyakutai* oleh tokoh *single mother* dalam drama “*Mother*”, penulis terlebih dahulu akan menjelaskan secara garis besar sinopsis cerita dari drama “*Mother*” untuk memudahkan dalam menganalisis penelitian.

A. Sinopsis Drama “*Mother*”

1. Sinopsis Drama “*Mother*”



(Gambar 4.1.: Poster serial drama "*Mother*")

Drama "*Mother*" karya Yuji Sakamono yang disutradarai oleh Nobuo Mizuta (NTV) dan Makoto Naganuma Matsuyuki, disiarkan Nippon TV mulai 14 April 2010 sampai 23 Juni 2010.

Selain mengambil tema yang unik, hal menarik lainnya dalam drama ini adalah adanya artis cilik Ashida Mana yang ketika itu masih berusia 5 tahun, namun dapat memerankan dengan sangat apik sekali sebagai Michiki Rena, yang diceritakan berumur 7 tahun dalam drama tersebut.

Cerita pada drama ini diawali pada musim dingin tahun 2010, yaitu dengan masuknya Nao ke salah satu Sekolah Dasar di Muroran (SD Maruyama), dimana Rena belajar. Nao pada saat itu diceritakan sebagai guru pengganti kelas 2, menggantikan wali kelas Tamada yang sedang sakit. Oleh karena itu, Nao menjadi wali kelas Rena selama semester 3.

Pada pelajaran pertama, Nao diminta untuk memberikan pengajaran dengan menyuruh murid-muridnya membuat surat untuk *Ducky* (bebek peliharaan belakang sekolah) yang mati. Disitulah pertama kalinya Nao bertemu dengan Michiki Rena.

Rena merupakan seorang anak kecil berumur 7 tahun. Ia sering menerima tindakan *gyakutai* oleh Michiki Hitomi (ibu kandungnya sendiri) dan kekasihnya (Uragami Masato). Hal tersebut disadari oleh Nao. Nao merupakan seorang perempuan kaku yang sebenarnya tidak ingin menjadi guru SD dan tidak menyukai anak-anak. Namun, setelah melihat

keadaan Rena yang tersiksa sedemikian rupa akibat ulah ibunya, membuat insting keibuan pada diri Nao muncul. Tanpa rencana yang matang, Nao mengajak Rena untuk kabur bersamanya meninggalkan Muroan, Hokkaido (tempat tinggal mereka), menuju Tokyo. Sejak saat itu pula Nao memutuskan untuk menjadi ibu dari Rena (yang kemudian diberi nama baru “Tsugumi”).

Sepeninggal Rena, yang oleh media diketahui meninggal tenggelam di laut Muroan. Hitomi tidak begitu terlihat sedih. Namun yang ia lakukan hanya banyak minum di bar milik kekasihnya, untuk menghilangkan rasa takut akan terkuaknya kasus *jidougyakutai* yang Hitomi dan kekasihnya lakukan terhadap Rena.

Hari demi hari pencarian mayat Rena dilakukan di laut Muroan, namun tidak mendapatkan hasil. Sampai pada akhirnya tiba dilakukannya pemakaman untuk Rena, yang segala kelengkapannya dipersiapkan oleh Uragami. Di hari setelah upacara pemakaman Rena selesai, di rumahnya Hitomi mengambil barang bukti berupa buku *diary* Rena yang terbungkus plastik, dalam kardus yang didapat dari kepolisian. Kemudian Hitomi membuka dan membaca-baca buku kesukaan Rena tersebut, sampai pada lembar tulisan Rena yang terakhir, yaitu tertulis “burung bermigrasi”. Dari situ Hitomi dengan secara tiba-tiba langsung berfikir tentang sosok Nao, guru Rena yang sebelumnya berprofesi sebagai peneliti burung bermigrasi di Universitas Muroan. Hitomi curiga Rena diculik oleh Nao,

dan kecurigaan tersebut terjawab pada saat Hitomi menelpon keluarga Suzuhara dan yang mengangkat telepon tersebut adalah Rena.

Setelah mendengar suara Rena di telepon. Hitomi dengan segera pergi ke Tokyo, dengan tujuan ingin menjemput Rena. Di Tokyo ia dibantu oleh Shunsuke seorang reporter yang sedang menyelidiki kasus Rena. Namun keinginan Hitomi menjemput Rena tersebut tidak membuahkan hasil, dikarenakan ucapan Rena yang pada saat itu berkata bahwa dia sudah tidak sayang lagi ibu Hitomi, yang ia sayang adalah ibu Rena yang sekarang yaitu Nao. Kemudian Rena menyampaikan bahwa Rena yang Hitomi cari sudah mati, yang ada sekarang adalah Suzuhara Tsugumi. Dari ucapan Rena tersebut, Hitomi menjadi sangat sedih dan kemudian kembali meninggalkan Muroan.

Sesampainya di Muroan, Hitomi melaporkan tentang kasus penculikan Rena oleh Nao ke polisi. Lalu Nao pun di tangkap oleh pihak kepolisian di Tokyo. Tidak lama setelah itu pula Urugami ditangkap oleh kepolisian di Muroan akibat tindakan kasus *jidougyakutai*-nya. Kemudian disusul pula dengan penangkapan Hitomi, yang tertuduh kasus *jidougyakutai* berupa pengabaian anak.

2. Tokoh-tokoh dalam Drama “Mother”

Adapun tokoh-tokoh yang ada dalam drama “*Mother*” adalah sebagai berikut: ([https://id.wikipedia.org/wiki/Mother_\(serial_televisi\)](https://id.wikipedia.org/wiki/Mother_(serial_televisi)))

Yasuko Matsuyuki sebagai Nao

Suzuhara



Koji Yamamoto sebagai

Shunsuke Fujiyoshi



Yuko Tanaka sebagai Hana

Mochizuki



Atsuko Takahata sebagai Toko

Suzuhara



Mana Ashida sebagai Reina

Michiki



Machiko Ono sebagai

Hitomi Michiki



Go Ayano sebagai Masato

Uragami



Miwako Ichikawa sebagai

Tamami Yuzukawa



Kana Kurashina sebagai Kaho

Suzuhara



Yosuke Kawamura sebagai

Kohei Kimata



Wakana Sakai sebagai Mei

Suzuhara



Takuma Otoo sebagai Keigo

Kayama



Minoru Tanaka sebagai Kensuke

Fujiyoshi



Sesuai dengan judulnya yaitu “*Mother*”, dalam drama ini hampir tidak menceritakan dan menampilkan sosok ayah. Drama ini menceritakan tentang sosok ibu yang digambarkan oleh beberapa tokoh *single mother* dengan kondisi dan situasi mereka yang berbeda-beda, yaitu:

1. Tokoh Michiki Hitomi, merupakan ibu kandung dari Michiki Rena. Dia menjadi seorang *single mother* dikarenakan suaminya meninggal pada saat usia Rena 2 tahun. Untuk membesarkan Rena, ia berkali-kali melakukan *baito*, dan pekerjaan terakhir yang ia lakukan adalah sebagai kasir di salah satu *konbini* yang ada di Muroran.
2. Suzuhara Nao adalah seorang guru pengganti di SD tempat Rena sekolah. Dia bertekad untuk menjadi ibu dari Rena setelah mengetahui Rena sering menerima tindakan *gyakutai* oleh ibu kandungnya. Dalam drama tersebut, Rena dibawa kabur oleh Nao, dan kemudian berusaha menjadi sosok *single mother* untuk Rena.
3. Mochizuki Hana adalah ibu kandung dari Nao. Ia menjadi seorang *single mother* akibat membunuh suaminya sendiri dengan cara membakar rumahnya, hal itu ia lakukan untuk membalas dendam akibat mereka berdua yang sering terlibat pertengkaran. Hana terpaksa harus menelantarkan Nao, ketika Nao masih berumur 5 tahun, dikarenakan Hana yang menjadi buronan akibat perbuatannya tersebut dan kemudian dipenjara selama 10 tahun.
4. Suzuhara Toko, merupakan ibu angkat Suzuhara Nao. Ia merupakan seorang *single mother* yang membesarkan ketiga putrinya seorang diri. Toko adalah sosok *single mother* sukses, yang merupakan seorang *shachou* di suatu perusahaan ternama.
5. Suzuhara Mei adalah adik tiri Nao. Dalam drama ini Mei memutuskan untuk melahirkan anaknya diluar nikah dan menjadi sosok *single*

mother. Namun, kemudian hal itu tidak terjadi, dikarenakan di hari anak Mei lahir, Mei kemudian di lamar kembali oleh kekasihnya.

Dalam penelitian ini, penulis akan menganalisis salah satu tokoh *single mother* yang ada dalam drama “*Mother*” tersebut, yaitu tokoh Michiki Hitomi.

B. Paparan Data

Objek penelitian yang digunakan dalam penelitian ini adalah drama. Oleh karena itu, data yang penulis analisis adalah adegan-adegan yang didukung oleh percakapan antartokoh (verbal) dan situasi (nonverbal) yang mengarah pada tindakan *jidougyakutai*.

Drama “*Mother*” memiliki 11 episode, dengan durasi setiap episodenya yang sedikit bervariasi, yaitu:

Epi- sode	Tanggal Siaran	Sub Judul Episode	Durasi
1	14 April 2010	児童虐待からの脱出 渡り鳥になった 二人 <i>Jidōgyakutai kara no dasshutsu wataridori ni natta futari</i> Dua orang yang menjadi burung imigran melarikan diri dari tindakan <i>jidougyakutai</i>	01:11:18

2	21 April 2010	居場所のない二人 <i>Ibasho no nai futari</i> Dua orang tanpa tujuan	00:46:19
3	28 April 2010	母の手のぬくもり <i>Haha no te no nukumori</i> Kehangatan tangan ibu	00:46:19
4	5 Mei 2010	学校へ行かせたい <i>Gakkō e ikasetai</i> Aku ingin menyekolahkanya	00:46:19
5	12 Mei 2010	二人の“母親” <i>Futari no “hahaoya”</i> Dua “Ibu”	00:46:19
6	19 Mei 2010	さよならお母さん <i>Sayonara okāsan</i> Selamat tinggal ibu	00:46:19
7	26 Mei 2010	あの子を返して! <i>Ano ko o kaeshite!</i> Kembalikan anak itu!	00:46:19
8	2 Juni 2010	断ち切れない絆 <i>Tachikirenai kizuna</i> Ikatan tak terputus	00:46:19
9	9 Juni 2010	引き裂かれる二人	00:46:19

		<i>Hikisakareru futari</i> Keduanya terpisah	
10	16 Juni 2010	ひと目会いたい <i>Hitome aitai</i> Aku ingin melihatmu lagi sekali saja	00:46:04
11	23 Juni 2010	ずっと愛してる <i>Zutto aishiteru</i> Aku akan selalu mencintaimu	00:57:34

Pada penelitian ini, penulis hanya menganalisis 12 data yang terdiri dari 32 adegan yang diambil dari episode 1, 2 dan 8, yaitu berupa adegan-adegan yang berkaitan dengan rumusan masalah yang diteliti. Tidak dimasukkan semua adegan dalam drama ini, agar analisis yang ada sesuai dengan fokus penelitian.

Analisis tentang faktor-faktor terjadinya tindakan *jidougyakutai* oleh tokoh *single mother* dalam drama “*Mother*”, beserta kategori *jidougyakutai* yang terdapat dalam drama “*Mohter*” tersebut terlihat sebagai berikut:

1. Faktor penyebab tindakan *jidougyakutai* oleh tokoh *single mother* yang berasal dari struktur keluarga, beserta bentuk kategori *jidougyakutai*, terlihat pada data 1.
2. Faktor penyebab tindakan *jidougyakutai* oleh tokoh *single mother* yang diakibatkan oleh ekonomi keluarga, beserta bentuk kategori *jidougyakutai*, terlihat pada data 2 (2.1, 2.2, 2.3, dan 2.4).

3. Faktor penyebab tindakan *jidougyakutai* oleh tokoh *single mother* yang berasal dari status *single mother*, beserta bentuk kategori *jidougyakutai*, terlihat pada data 3, 4, 5, dan 6.
4. Faktor penyebab tindakan *jidougyakutai* oleh tokoh *single mother* yang berasal dari *parenting stress*, beserta bentuk kategori *jidougyakutai*, terlihat pada data 7, 8, dan 9.
5. Faktor penyebab tindakan *jidougyakutai* oleh tokoh *single mother* yang berasal dari pola asuh ibu, beserta bentuk kategori *jidougyakutai*, terlihat pada data 10, 11, dan 12.

C. Analisis Data

1. Data 1



Adegan 1



Adegan 2



Adegan 3



Adegan 4



Adegan 5

Adegan 1-3 : Episode 8 (Durasi 00:03:52 – 00:04:32)

Adegan 4 : Episode 8 (Durasi 00:04:49 – 00:05:47)

Adegan 5 : Episode 8 (Durasi 00:06:25 – 00:07:28)

Pada data pertama ini diceritakan Hitomi telah hidup sebagai seorang *single mother*. Kehidupan seorang *single mother* dihadapkan pada peran ganda yang harus ditanggungnya seorang diri. Terlihat pada adegan satu, dua, dan tiga yang mana sepulangnya bekerja Hitomi harus mengurus kebutuhan Rena, dan mengerjakan pekerjaan rumah. Pada adegan pertama terlihat Hitomi yang sedang menyuapi Rena, mencuci pakaian (adegan kedua), dan membereskan mainan Rena (adegan ketiga). Dari aktivitas yang dilakukan oleh Hitomi tersebut, pastinya membutuhkan tenaga banyak, serta sudah pasti tubuh akan merasakan kelelahan apabila tidak diimbangi dengan istirahat yang cukup.

Dalam drama ini Hitomi sedang menghadapi siklus kehidupan yang ke-3, yaitu tahun-tahun kekacauan, yakni ketika bayi tumbuh menjadi anak muda dan membutuhkan perlindungan dan pengawasan terus-menerus.

Tahapan ini akan lebih sulit apabila dihadapkan pada seorang *single mother*. Kesulitan itu terjadi akibat kurangnya waktu istirahat untuk *single mother*, ketika ia yang merasa lelah akibat bekerja di luar, kemudian saat kembali ke rumah, dihadapkan pada waktu istirahat yang sedikit sulit untuk didapat akibat harus merawat dan memperhatikan anaknya. Pada akhirnya, dari situasi seperti itu *single mother* akan lebih mudah emosi.

Kesulitan serta emosi yang dimaksud disini nampak pada adegan keempat, yaitu ketika Rena melakukan penolakan terhadap Hitomi yang sedang menyuapinya. Rena tidak mau memakan lobak putih, namun Hitomi tetap memaksa Rena. Pada akhirnya Rena mendorong tangan Hitomi hingga garpu yang ada ditangannya terhempas jatuh. Akibatnya Hitomi marah, dan kemudian dengan suara lantang membentak “Rena!”.

Kemudian pada adegan kelima diceritakan Hitomi yang sedang mencuci piring, terlihat sangat kesal karena Rena yang terus merengek memanggil-manggil Hitomi yang sedang mengerjakan pekerjaan rumah. Untuk panggilan Rena yang pertama, Hitomi sedang melipat pakaian yang menumpuk dilantai, namun Hitomi mencoba menghampiri Rena dan membuatnya *donat stick* supaya Rena tidak menangis lagi. Namun setelah itu, Rena kembali memanggil-manggil Hitomi. Pada akhirnya Hitomi kesal dan hanya berteriak ditempat “*Nani! (Apa!)*”.

Dalam adegan ini terjadi tindakan *jidougyakutai*, berupa penganiayaan secara psikologis (*shinriteki gyakutai/心理的虐待*) yaitu *verbal*

abuse (*kotoba no bōryoku*/言葉の暴力), terlihat pada saat Hitomi mengatakan “Rena!” dan “Nani!”. Kedua hal tersebut termasuk kedalam *verbal abuse*, dikarenakan Hitomi berteriak (*yelling*) dan mengungkapkan harapan secara negatif (*expressing negative expectations*) pada saat mengatakannya.

2. Data 2



Adegan 1

Adegan 2

Adegan 1 : Episode 8 (Durasi 00:01:26)

Adegan 2 : Episode 8 (Durasi 00:02:59 – 00:03:44)

Adegan pertama di atas memiliki makna majunya ekonomi Jepang dari segi perindustriannya. Akibat dari majunya perekonomian di Jepang, mengharuskan masyarakat yang ada didalamnya bekerja keras untuk memenuhi kebutuhan hidupnya sehari-hari. Kerja keras yang dimaksud disini terlihat pada dialog adegan kedua di atas, yaitu sebagai berikut:

Katsuko : あら！ またやったの？ まあ、かわいそうにもっと安全な仕事
はないの？

Ara! Mata yatta no? Ma~a, kawaiō ni motto anzenna shigoto wa nai no?

Ah. Kau melakukannya lagi? Anak malang. Memangnya tidak ada pekerjaan yang lebih aman?

Hitomi : 給料いいんだもん。

Kyūryō īnda mon.

Gajinya bagus.

Katsuko : 切り詰めれば、子供1人何とかなるじゃないか。

Kiritsumereba, kodomo hitori nantokanarujanai ka.

Kalau kamu mencoba untuk berhemat, kamu tetap bisa membesarkan anakmu seorang diri.

Hitomi : 怜南はちゃんと父親のいるレベルで育てたいの。

Reina wa chanto chichi oya no iru reberu de sodatetai no.

Saya ingin membesarkan Rena sama seperti anak yang memiliki ayah.

Dari cuplikan dialog drama di atas, untuk pernyataan Hitomi yang mengatakan “*kyūryō īnda mon/給料いいんだもん/gajinya bagus*” mengandung arti bahwa dalam perindustrian, Hitomi yang diposisikan sebagai penerima upah yang mengikuti ekspansi (pertumbuhan dunia usaha)

yaitu mencari kepuasan gaji yang baik demi memenuhi kebutuhan hidupnya dan anaknya (Rena). Kemudian pernyataan Katsuko yang memberi saran kepada Hitomi di atas mengandung arti bahwa keterbatasan kondisi keuangan Hitomi yang mengharuskan Hitomi untuk bisa menekan anggaran/berhemat demi terpenuhinya kebutuhan hidupnya dan Rena.

Keterbatasan ekonomi ini menunjukkan masalah kemiskinan yang dihadapi ibu tunggal dalam membesarkan anaknya. Sesuai dengan jawaban Hitomi di atas, bahwa saat itu Hitomi telah menjadi seorang *single mother*. Di Jepang data angka kemiskinan untuk ibu tunggal (*single mother*) bersama anaknya mencapai 54,6%. Hal ini terjadi karena banyaknya perceraian di Jepang. Ayah yang seharusnya memberikan tunjangan kepada anak, ternyata saat ini 74% ayah karena sudah cerai, tidak lagi memberikan tunjangan pertumbuhan bagi kehidupan anaknya yang biasanya dirawat oleh sang ibu. Itulah sebabnya menjadi semakin miskin seorang *single mother*. Begitu pula dalam drama ini, Hitomi yang merupakan seorang *single mother* yang diakibatkan oleh suaminya yang telah meninggal, tidak menerima bantuan dari siapapun untuk bisa memenuhi kebutuhan hidupnya dan Rena.

Karena kemiskinan suatu keluarga, khususnya keluarga *single mother*, akan relatif mudah bagi ibu untuk meninggalkan pengasuhan anak, melakukan pelecehan anak, atau gagal memberikan nutrisi dan pendidikan yang memadai untuk anak-anak. (Yamaguchi)

Perilaku tersebut merupakan suatu tindakan *jidougyakutai* yang dilakukan oleh ibu terhadap anaknya. Adapun tindakan *jidgouyakutai* tersebut terlihat dalam adegan drama sebagai berikut:

a. Data 2.1



Adegan 1

Adegan 2

Adegan 1 : Episode 1 (Durasi 00:18:21)

Adegan 2 : Episode 2 (Durasi 00:16:17 – 00:17:05)

Akibat kemiskinan suatu keluarga *single mother* yang pertama adalah meninggalkan pengasuhan anak. Gambar adegan satu di atas terjadi pada malam hari. Saat itu Rena masih berkeliaran di luar, meskipun waktu telah menunjukkan pukul 8 malam, dengan keadaan diluar yang sangat dingin dikarenakan bersalju. Adegan ini menegaskan bahwa Hitomi telah meninggalkan pengasuhan terhadap anaknya, yang mana ia telah melakukan tindakan *jidougyakutai* berupa pengabaian (*negurekuto*/ネグレクト), yaitu menyuruh Rena pergi keluar rumah hingga malam hari sekalipun, tanpa ada rasa khawatir, dengan hanya membekalinya uang 500 yen untuk Rena membeli makanan sendiri.

Rasa tidak ada kekhawatiran akan keadaan Rena tersebut, dapat dilihat dari pernyataan yang diutarakan oleh Rena pada adegan kedua, yaitu;

「間違ってる 今の人。間違ってるよ。怜南ちゃんのパママは祈ってない。怜南ちゃんのパ帰りを祈ってないよ。」

“Machigatteru ima no hito. Machigatteru yo. Reina-chan no mama wa inottenai. Reina-chan no kaeri o inottenaiyo”.

“Orang yang di TV itu salah. Dia salah kan bu? Mamanya Rena tidak pernah berdo’a. Mamanya Rena tidak pernah berdo’a agar Rena pulang.”

Dari ucapan Rena tersebut semakin jelas bahwa ketika Rena sedang berkeliaran di luar rumah, Hitomi tidak pernah mencarinya untuk mengajaknya pulang. Tindakan Hitomi yang selalu memberikan uang kepada Rena tersebut juga merupakan tindakan pengabaian (*negurekuto/ネグレクト*) yang selalu ia lakukan sepulangnya bekerja, karena dari situlah Hitomi meninggalkan pola asuhnya terhadap Rena ketika ia ada di rumah. Alasan lain hal tersebut dilakukan oleh Hitomi yaitu supaya Rena tidak berada dekat dengan Uragami (kekasih Hitomi) yang selalu ada di rumahnya, dikarenakan Uragami selalu menyiksa Rena.

b. Data 2.2

Masih dari dampak kemiskinan keluarga *single mother*. Pengabaian lainnya yang termasuk dalam peninggalan pola asuh oleh Hitomi yaitu nampak pada adegan 1 dan 2 di bawah:



Adegan 1

Adegan 2



Adegan 3

Adegan 1 dan 2 : Episode 1 (Durasi 00:31:34 – 00:31:46)

Adegan 3 : Episode 1 (Durasi 00:34:43 – 00:41:02)

Dari adegan pertama terlihat Rena yang sedang membuka lemari pendingin (kulkas) di rumahnya. Didalamnya nampak hanya terdapat selai dan beberapa minuman saja. Kemudian Rena membungkukkan badannya untuk melihat bagian bawah dalam kulkas tersebut, terlihat

pada adegan kedua Rena mengambil toples makanan yang nampak sudah kosong, namun didalamnya masih terdapat sedikit sisa-sisa makanan. Lalu makanan sisa tersebut ia tumpahkan ke telapak tangan kirinya, kemudian ia menjilati telapak tangan kirinya tersebut. Pada adegan ini terlihat jelas bahwa Rena telah diabaikan oleh Hitomi yaitu dengan tidak memberinya makan (*shokuji o ataenai/食事を与えない*).

Terjadinya tindakan *jidougyakutai* pengabaian (*negurekuto/ネグレクト*) yaitu tidak memberi makan (*shokuji o ataenai/食事を与えない*) tersebut nampak lebih jelas lagi pada adegan ketiga di atas, yaitu terjadi pada malam hari ketika Nao kembali menemukan Rena yang sedang berjalan-jalan di luar rumah. Kemudian Nao membawa Rena ke apartemennya. Di apartemen, Rena terus menatap makanan yang ada di atas meja, kemudian berkata:

Rena : これ すずにあけてもいい？すず お腹すいてるの。

Kore suzu ni agete mo ī? Suzu onaka suiteru no.

Ini, boleh aku kasih ke Suzu? Dia sedang kelaparan.

Nao : すず？ああ... どうぞ。

Suzu? A~a... Dōzo.

Suzu? Ah...Silahkan.

(Rena mengambil satu bungkus makanan ringan yang ada dalam keranjang makanan di atas meja tersebut, dan membelahnya menjadi dua bagian, 1 bagian diberikan kepada Suzu (hamster milik Rena), 1 bagiannya lagi dimakan oleh Rena).

怜南 : 残ったから食べよかったな....

Nokotta kara tabeyokattana....

Karena masih ada sisa, lebih baik aku makan saja ya...?

Lalu dengan lahapnya Rena memakan makanan tersebut. Nao terlihat tidak tega melihat keadaan Rena seperti itu, kemudian Nao membuat makan malam untuknya. Pada adegan ini menegaskan bahwa Hitomi telah membiarkan anaknya (Rena) kelaparan.

c. Data 2.3

Bentuk lain dari selain meninggalkan pengasuhan anak dan melakukan pelecehan anak yang disebabkan oleh dampak kemiskinan seorang *single mother*, bentuk kegagalan memberikan nutrisi anak tergambar pula dalam drama ini.



Adegan 1

Episode 1: Durasi 00:24:15

Untuk kegagalan pemberian nutrisi yang merupakan masih bagian dari dampak tindakan *jidougyakutai* pengabaian (*negurekuto*/ネグレクト) tidak memberi makan (*shokuji o ataenai*/食事を与えない) tersebut terdapat pada adegan di atas. Adegan pertama ini terjadi di ruang perawatan/*hoken* (保険) SD Maruyama. Saat itu Rena ditemukan tidak sadarkan diri di toilet. Pernyataan Miura sensei tentang kondisi Rena, menandakan terjadinya kegagalan pemberian nutrisi oleh ibu Rena (Hitomi), serta terjadinya tindakan *jidougyakutai* pada Rena, yaitu sebagai berikut:

「栄養失調かもしれないって。身長や身重 発育の面でも平均を随分 下回ってます。体中に いくつか あざや傷があった そうです。」

“*Eiyōshitchō kamoshirenai tte. Shinchō ya miomo hatsuiku no men demo heikin o zuibun shitamawatteremasu. Karadajūni ikutsu ka aza ya kizu ga atta sōdesu.*”

“Sepertinya dia kekurangan gizi. Catatan berat, tinggi, dan gerak tubuhnya dibawah rata-rata. Terlihat ada beberapa bekas luka lebam dan cakaran diseluruh tubuhnya.”

Pernyataan Miura sensei di atas yaitu menegaskan dampak dari tindakan pengabaian Hitomi yang sering meninggalkan anak tanpa memberi makan, sehingga menghambat pertumbuhan normal (tinggi/berat) si anak (*shokuji o ataezu hōchishite kodomo no tsūjō no seichō (shinchō taijū) o sogai shitari/食事を与えず放置して子どもの通常の成長 (身長・体重) を阻害したり*).

d. Data 2.4

Perlakuan yang lebih parah lagi, sebagai akibat dari miskinnya seorang *single mother* dalam tindakan meninggalkan pengasuhan anak, yaitu pada keinginan melepaskan beban tanggung jawab merawat dan membesarkan anaknya dengan cara meninggalkan atau membuangnya di suatu tempat. Hitomi pun telah mencoba melakukan hal tersebut.



Adegan 1



Adegan 2

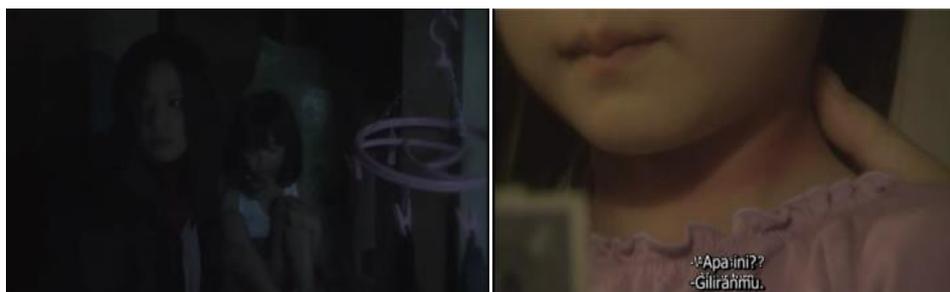
Episode 8: 00:16:07 – 00:17:44

Ketika itu Hitomi mengajak Rena bermain ke pantai. Pada adegan pertama terlihat Hitomi hanya menatap Rena yang sedang asyik mencari kulit kerang dari kejauhan. Kemudian Hitomi beranjak pergi meninggalkan Rena di pantai tersebut. Namun hal itu gagal dilakukannya, dikarenakan Rena yang dengan cepat berlari menyusul Hitomi yang hendak pergi menaiki sepedanya.

Di Jepang, hal yang dilakukan Hitomi di atas, telah ada sejak lama yaitu sebagai praktik “*kogoroshi*” (membunuh anak), “*mabiki*” (membunuh anak untuk mengurangi beban ekonomi keluarga), dan “*kosute*” (menelantarkan anak). Tindakan ini dilakukan oleh orang tua khususnya *single mother* yaitu untuk mengurangi beban hidupnya.

3. Data 3

Akibat dari perceraian, akan ada peluang untuk orang lain masuk ke kehidupan keluarga *single parent*, khususnya *single mother*. Yang dimaksud dengan orang lain tersebut, bisa jadi seorang kekasih baru dari *single mother*, dll. Dari hal ini pula, akibat tidak adanya ikatan darah dengan anak dari *single mother* tersebut, tidak menutup kemungkinan terjadinya tindakan *jidougyakutai* pada anak yang dilakukan oleh orang lain ini.



Adegan 1

Adegan 2



Adegan 3

Adegan 4

Adegan 1 : Episode 8 (00:23:50 – 00:24:59)

Adegan 2 : Episode 8 (00:27:05 – 00:27:55)

Adegan 3 : Episode 1 (00:21:21 – 00:22:19)

Adegan 4 : Episode 1 (00:33:19 – 00:34:23)

Pada adegan satu, dua, dan tiga merupakan gambaran dari tindakan *jidougyakutai* yang dilakukan oleh orang lain. Dalam drama ini, pelaku tindakan *jidougyakutai* tersebut adalah kekasih dari Hitomi yang bernama Uragami. Dalam adegan di atas Uragami melakukan tindakan *jidougyakutai* berupa kekerasan fisik (*karadateki gyakutai*/身体的虐待) terhadap Rena. Pada adegan pertama ia mengurung Rena dalam lemari (*oshiire ni tojikomeru*/押し入れに閉じ込める) dengan Rena yang hanya mengenakan baju dan celana dalam saja. Adegan kedua Uragami melakukan tindakan mencekik/membuat Rena sulit bernapas (*chissoku saseru*/窒息させる) menggunakan selendang (*mafurā*/マフラー) milik Rena, hingga Rena pingsan. Pada adegan yang

ketiga, Uragami membuat beberapa titik luka bakar pada tangan Rena yaitu menyundutnya dengan api rokok (*tabako no hi o oshitsukeru/タバコの火を押し付ける*). Serta pada adegan keempat, Uragami melakukan tindakan *jidougyakutai* yang sama seperti tindakan *jidougyakutai* pada adegan kedua yaitu membuat Rena sulit bernapas (*chissoku saseru/窒息させる*). Namun pada adegan keempat ini Uragami melakukannya dengan cara membungkus dan memasukan Rena kedalam kantong plastik hitam besar.

Dari keempat tindakan *jidougyakutai* yang telah disebutkan di atas merupakan tindakan kekerasan yang dilakukan oleh orang lain dalam keluarga *single mother*. Tindakan tersebut juga bisa menjadi tindakan *jidougyakutai* dari sisi *single mother*, apabila *single mother* tersebut hanya membiarkan anaknya disiksa begitu saja oleh pelaku yang merupakan orang lain tersebut. Begitu juga dalam drama ini Hitomi melakukan hal yang serupa, yaitu melakukan salah satu tindakan pengabaian berupa membiarkan orang lain yang hidup serumah dengannya melakukan kekerasan terhadap anaknya (*dōkyo hito ga gyakutai shiteitemo hōchisuru/同居人が虐待していても放置する*). Hal itu terlihat pada percakapan pada adegan 1, ketika Hitomi menemukan Rena yang sedang dikurung di dalam lemari;

Hitomi : どうしてこんなところにいるの？ねえ！？

Dōshite konna tokoro ni iru no? Nē! ?

Kenapa dia bisa berada di sini? Hei!

Uragami : 何か問題があんのか？

Nani ka mondai ga an no ka?

Memangnya ada masalah?

Hitomi : 何もいってないよ。ちょっと聞いただけね？

Nanimo ittenaiyo. Chotto kiita dake ne?

Tidak ada. Aku hanya tanya saja.

Dalam dialog di atas, pada kalimat yang digaris bawah, Hitomi terlihat takut ditinggalkan oleh kekasihnya, sehingga pada tindakan yang kekasihnya lakukan terhadap Rena, ia tidak berlanjut mempermasalahkannya lagi, dan pada akhirnya Hitomi mengabaikan keadaan Rena.

4. Data 4

Bentuk keluarga inti dan hilangnya sosok suami dalam keluarga *single mother* menyebabkan tidak adanya dukungan untuk ibu tunggal yang menjadikan mereka merasakan rasa terisolasi di lingkungan mereka. Akibatnya, hilangnya dukungan sosial maupun instrumental untuk tempat sharing atau meminta bantuan.



Adegan 1



Adegan 2

Adegan 3

Adegan 1 : Episode 8 (Durasi 00:04:49 – 00:05:47)

Adegan 2 : Episode 8 (Durasi 00:04:33 – 00:04:48)

Adegan 3 : Episode 8 (Durasi 00:12:58 – 00:15:14)

Tidak adanya dukungan sosial terhadap seorang *single mother* terlihat dalam adegan 1 di atas, yaitu pada pernyataan Hitomi sebagai berikut:

「でもママ 怜南のことうらやましいな。ママのことは誰も褒めてくれないから。」

“*Demo mama Reina no koto urayamashī na. Mama no koto wa dare mo homete kurenai kara.*”

“Tapi mama merasa iri pada Rena. Karena siapapun tidak ada yang memuji mama.”

Yang dimaksud dengan “*Mama no koto wa dare mo homete kurenai kara*” di atas merupakan salah satu bentuk pernyataan yang menegaskan bahwa

seorang *single mother* tersebut memang benar tidak mendapatkan dukungan dari siapapun, termasuk dari teman-temannya.

Kehamilan, pernikahan, persalinan pada usia muda (*jakunen de no ninshin, kekkon, shussan*/若年での妊娠、結婚、出産) merupakan salah satu faktor terjadinya tindakan *jidougyakutai* dari segi orangtua. Dalam drama ini, Hitomi yang diceritakan masih berusia 29 tahun, yang telah memiliki anak berumur 7 tahun, harus hidup dengan status *single mother*. Terlihat bahwa Hitomi telah menikah pada usia muda, kemudian dihadapkan pada status barunya yang diluar harapan seorang ibu, yaitu menjadi seorang *single mother*, menjadikannya harus mengatur waktunya sebaik mungkin akibat dari peran ganda yang menjadi tanggung-jawabnya sendiri. Oleh karena itu, isolasi sosial dari kerabat, lingkungan, teman, dll (*shinseki, kinrin, yūjin nado kara no shakaiteki koritsu ga agerareru*/親戚、近隣、友人などからの社会的孤立が挙げられる) sangat memungkinkan sekali terjadi pada keluarga *single mother*. Terjadinya isolasi sosial seorang *single mother* tersebut terlihat pada percakapan dalam adegan kedua, yaitu:

Teman Hitomi : 仁美!

Hitomi!

Hitomi!

Hitomi : ん?

N?

Ya?

Temam Hitomi : ねえ 今度の同級会 来れる？

Ne~e kondo no dōkyūkai koreru?

Kamu bisa datang tidak ke acara reuni kali ini?

Hitomi : ああ... 子供いるしね。また今度にする。

A~a... Kodomo irushi ne. Mata kondo ni suru.

Ah...Aku punya anak kecil. Mungkin lain kali saja.

Temam Hitomi : 仁美が来たら みんな喜ぶのに～。

Hitomi ga kitara minna yorokobu no ni ~.

Padahal kalau kamu hadir, semuanya pasti senang.

Hitomi : ごめんね。

Gomen ne.

Maaf ya.

Temam Hitomi : じゃあ また今度ね。

Jā mata kondo ne.

Baiklah, mungkin lain kali saja.

Hitomi : うん バイバイ。

Un baibai.

Iya, daa.

Temam Hitomi : バイバイ。

Baibai.

Daa.

Pada dialog di atas, diceritakan Hitomi yang baru pulang bekerja bertemu dengan teman-temannya. Mereka mengajak Hitomi untuk bisa menghadiri reuni. Namun Hitomi menolaknya dikarenakan memiliki anak yang masih kecil. Penolakan tersebut merupakan salah satu bentuk isolasi yang dilakukan *single mother* terhadap teman-temannya.

Adegan ketiga, Hitomi menerima ajakan teman-temannya, namun dengan permintaan izin bahwa untuk bisa pergi bersama-sama ke lokasi reuni, dia akan sedikit datang terlambat ke tempat pertemuan awal. Dalam adegan ini Hitomi mencoba tidak melakukan isolasi sosial terhadap teman-temannya. Namun hal itu gagal dilakukannya, Hitomi ditinggalkan oleh teman-temannya karena ia sudah sangat terlambat sekali, disebabkan karena Hitomi yang harus mengurus Rena terlebih dahulu. Hitomi yang telah berdandan serta mengenakan gaun, kemudian mengganti pakaiannya kembali dan beranjak ke dapur untuk merapihkan piring-piring kotor yang berada di meja makan. Hitomi terlihat murung akibat tidak bisa menghadiri reuni dengan teman-

temannya. Akibatnya Hitomi nampak kesal terhadap Rena, hal itu terlihat pada adegan tersebut:

Rena : ママ 頑張って！ママ 頑張っ...。

Mama ganbatte! Mama ganba~....

Mama, semangat. Mama, sema...

Hitomi : うるさい！

Urusai!

Berisik!

Pada dialog di atas Hitomi menyampaikan perasaan kekecewaannya terhadap Rena, bahwa karenanya Hitomi tidak bisa berkumpul dan bersenang-senang bersama teman-temannya. Kekesalan Hitomi tersebut akhirnya menimbulkan tindakan *gyakutai* terhadap Rena yaitu bersamaan dengan Hitomi yang mengatakan “*urusai/うるさい!*”, Hitomi mendorong Rena hingga jatuh ke lantai.

5. Data 5

Tidak adanya dukungan untuk ibu tunggal, menjadikan mereka merasakan rasa terisolasi di lingkungan mereka. Pada drama ini, Hitomi sangat membutuhkan dukungan sosial dari orang lain. Terlihat dalam adegan satu pada data 4 sebelumnya yang menegaskan keinginan Hitomi akan

dukungan sosial tersebut. Tetapi setelah mendapatkannya, Hitomi malah mengabaikan pengasuhan anaknya.



Adegan 1

Episode 8 : Durasi 00:19:14 – 00:19:46

Diceritakan pada adegan di atas bahwa pada musim panas tahun 2008, Hitomi telah memiliki kekasih baru yang bernama Uragami. Karenanya, Hitomi mulai melakukan tindakan pengabaian terhadap Rena. Hitomi meninggalkan Rena seorang diri di rumah dalam waktu yang cukup lama (*nagai ai, uchi no naka ni hitori ni sasete oitari/長い間、家の中に一人にさせておいたり*). Hal itu terjadi pada saat liburan musim panas. Rena ditinggalkan di rumah seorang diri selama seminggu, sedangkan Hitomi dan Uragami pergi berlibur ke pantai. Hitomi melakukannya karena ia tidak ingin kehilangan kebahagiaannya bersama Uragami.

6. Data 6

Pengalaman ibu yang disalahgunakan (*hahaoya jishin no hi gyakutai taiken/母親自身の被虐待体験*), seperti kurangnya dukungan yang didapatkan seorang *single mother* dari orang lain yang kemudian hal tersebut

dilakukannya juga ke anak kandungnya sendiri, merupakan salah satu faktor terjadinya tindakan *jidougyakutai*.



Adegan 1



Adegan 2



Adegan 3

Adegan 1 : Episode 1 (Durasi 00:09:50 – 00:10:08)

Adegan 2 : Episode 1 (Durasi 00:26:54 – 00:28:33)

Adegan 3 : Episode 8 (Durasi 00:25:00 – 00:25:48)

Pada Adegan 1, terlihat barang-barang Rena yang dibuang oleh ibunya tanpa meminta izin terlebih dahulu kepada Rena. Ketika Rena bertanya kepada ibunya mengapa barang-barangnya dibuang? Hitomi lalu menjawab, bahwa Rena sudah tidak membutuhkan lagi barang-barang itu. Dari adegan ini, terlihat salah satu dari tindakan *jidougyakutai* yaitu penganiayaan secara psikologis (*shinriteki gyakutai*/心理的虐待), yang berupa

mengabaikan atau menunjukkan sikap menolak (*mushi o shitari*/無視をした
り). Sikap acuh tak acuh Hitomi terhadap Rena, yang mana Hitomi hanya
menoleh dan tidak berkata apa-apa lagi kemudian pergi saat Rena meng-
iyakan bahwa ia sudah tidak membutuhkan barang-barang itu. Pada kondisi
di atas, Hitomi tidak memperdulikan perasaan Rena, apakah Rena masih
menginginkan barang-barang tersebut atau tidak. Akhirnya setelah Hitomi
pergi, Rena membawa kembali beberapa barang kesayangannya tersebut,
yaitu boneka kelinci dan buku *doubutsu* ke dalam rumah. Namun dikemudian
harinya, boneka dan buku yang dibawa Rena tersebut dibuang kembali oleh
Hitomi.

Adegan kedua, terjadi ketika Miura Sensei dan Nao mengunjungi
sekaligus menjenguk Rena ke rumahnya dikarenakan Rena yang sudah
beberapa hari tidak masuk sekolah. Terkejutnya mereka saat melihat Rena
yang mata kirinya diperban, seakan telah terjadi sesuatu terhadap Rena. Rena
yang baru pulang berbelanja bersama Hitomi, kemudian dihampiri oleh
Miura ,dan terjadilah percakapan diantara Miura sensei dengan Hitomi;

Miura : 円山小学校の三浦です。怜南さんが登校されないなので、どうした
のかなと思ひまして。

*Maruyama shōgakkō no Miura desu. Reina-san ga tōkōsa
renainode, dōshita no ka na to omoimashite.*

Saya Miura dari SD Maruyama. Karena Rena tidak masuk sekolah
lagi, saya jadi kepikiran, kenapa ya dia?

Hitomi : 風邪だと連絡したはずです。

Kazeda to renraku shita hazu desu.

Saya sudah mengabari bahwa dia sedang flu.

Miura : ええ ただ...。目 どうしたの?..... ごめんね 痛かった?
た?

Ee tada.... Me dōshita no?..... Gommenne itakatta?

Iya, memang benar, tapi... Kenapa matamu? Maaf ya, sakit tidak?

Hitomi : 先生に説明して下さい。

Sensei ni setsumei shite kudasai.

Jelaskan kepada ibu guru.

Rena : うん。ボールが ぶつかりました。

Un. Bōru ga butskarimashita.

Baik. Mata saya terkena bola.

Hitomi : 公園でね。かわいそうにね。よしよし。

Kōen de ne. Kawaisō ni ne. Yoshi yoshi.

Di taman kan ya. Kasihan. Cup-cup-cup.

Miura : 怜南ちゃん他にもケガがあるんです。

Reina-chan hokani mo kega ga aru ndesu.

Rena juga masih memiliki luka yang lain.

Hitomi : 知ってます。よく転ぶんです この子。

Shittemasu. Yoku korobu ndesu kono ko.

Saya juga tahu. Anak ini sering jatuh.

Miura : あの 失礼ですが... ご同居なさってる男性の方がいると伺いました。その方 怜南ちゃんとは...

Ano shitsurei desu ga... Godōkyo nasatteru dansei no kata ga iru to ukagaimashita. Sono hō Reina-chan to wa....

Maaf saya mau bertanya... Saya lihat anda tinggal bersama seorang pria. Apakah orang itu baik pada Rena...?

Hitomi : 何んですか。

Nan desu ka

Apa maksud anda?

Rena : ママ 肉まん冷めちゃうよ？

Mama nikuman samechau yo?

Mama, *nikuman* (bakpao isi daging)-nya nanti dingin.

(Rena mengalihkan pembicaraan Miura Sensei. Kemudian Hitomi dan Rena pergi masuk ke dalam rumahnya, meninggalkan Miura Sensei dan Nao.)

Miura : ホッとしないてくださいね。あれはお芝居です。虐待されてる子供は何があっても親をかぼうものなんです。

Hotto shinaide kudasai ne. Are wa o shibai desu. Gyakutaisareteru kodomo wa nani ga atte mo oya o kabō mono nandesu.

Jangan puas dulu ya. Semua itu sandiwara saja. Anak kecil yang teraniaya, tetap akan membela orang tuanya apapun yang terjadi.

Nao : ホッとなんて別に...。

Hotto nante betsuni....

Siapa yang puas....

Pada dialog adegan dua di atas, terlihat Hitomi kembali melakukan penganiayaan secara psikologis (*shinriteki gyakutai/心理的虐待*) terhadap Rena, yaitu berupa mengabaikan atau menunjukkan sikap menolak (*mushi o shitari/無視をしたり*). Hal itu ditegaskan pada kalimat yang digaris bawahi di atas, nampak Hitomi tidak memberikan dukungan psikologis terhadap kondisi Rena, malah sebaliknya, ia menghindari kebenaran akan sebab dari luka-luka yang ada pada tubuh Rena, untuk melindungi Uragami (kekasihnya) yang mana selalu melakukan tindakan kekerasan terhadap Rena.

Selain dari penganiayaan secara psikologis (*shinriteki gyakutai*/心理的虐待), Hitomi pun telah melakukan tindakan yang lebih menyakitkan hati Rena, yaitu berupa pengabaian psikologis (*shinriteki negurekuto*/心理的ネグレクト). Hal itu dapat dilihat pada adegan ketiga, ketika Hitomi mengantarkan Rena ke Rumah Sakit untuk memeriksakan jari tangannya yang terluka.

Hitomi : 突き指だと思っんです。

Tsukiyubi da to omoundesu

Saya rasa jarinya keseleo.

Dokter : どんな状況でなりましたか。

Donna jōkyō de narimashitaka.

Kenapa bisa begini?

Hitomi : あの...

Ano...

Um....

Rena : 滑る台。

Suberudai.

Tergelincir.

Dokter :ん? 落っこっちゃった?

N? Okkocchatta?

kau jatuh?

Rena : (Mengangguk)

Dokter :もう少し待っててね。

Mōsukoshi mattetene.

tunggu sebentar ya.

Hitomi : 気をつけるのよ 滑る台。

Ki o tsukeru no yo suberu dai.

Hati-hati ya. Jangan sampai tergelincir lagi.

Dialog tersebut memperlihatkan bahwa Hitomi seakan-akan tidak tahu terhadap sebab dari luka Rena, yang sebenarnya ia telah ketahui penyebabnya yaitu akibat dari tindakan penganiayaan fisik oleh Uragami. Terlihat pada saat Hitomi menjawab pertanyaan dokter akan penyebab terjadinya luka pada Rena, Hitomi tidak memberikan jawaban apapun, hanya nampak berpikir mencari jawaban lain, yang pada akhirnya dijawab oleh Rena dengan suatu kebohongan. Pengabaian psikologis (*shinriteki negurekuto*/心理的ネグレクト) itu terjadi pada saat Hitomi mengiyakan pengakuan bohong Rena tersebut, yang menjawab “tergelincir” dengan menanggapi “**ki o tsukeru**

no yo suberudai/気をつけるのよ 滑る台”, seolah-olah pengakuan Rena tersebut adalah suatu kebenaran. Kemudian Rena menoleh menatap Hitomi, ia terlihat kaget dengan ucapan ibunya tersebut. Disinilah nampak adanya pengabaian psikologis anak, sehingga tidak bisa membaca perasaan anak.

7. Data 7

Akibat kelelahan dan beban dari masalah keluarga yang ditanggung seorang diri, tidak heran jika seorang *single mother* bisa mengalami stres dalam kehidupannya. Dampak dari stres yang timbul akibat kelelahan tersebut, menjadikan seorang *single mother* lebih banyak melalaikan anaknya. Studi yang dilakukan tentang orang tua yang lalai terhadap anak-anak mereka yang menggambarkan mereka nampak acuh tak acuh, mendisiplinkan mereka (jika ada), dan selebihnya lebih banyak untuk kebutuhan mereka sendiri, yaitu seperti untuk mendapatkan ketenangan atau kenyamanan selepas menjalani rutinitas yang ia lakukan sehari-harinya. Hal tersebut terlihat pada adegan 1 di bawah.



Adegan 1

Episode 8 (Durasi 00:12:18 – 00:12:57)

Adegan 1 terjadi pada malam hari di rumah Hitomi. Ketika itu Rena terlihat dengan semangatnya menceritakan kejadian lucu yang terjadi di sekolahnya kepada Hitomi, tetapi saat itu Hitomi nampak sedang sibuk memainkan *handphone*-nya.

Rena : ママ ねえ ママ。先生がね 大人用のトイレは入っちゃダメですよっていったのに 浩貴くん 入ったの！

Mama nē mama. Sensei ga ne, otonayō no toire wa haitcha dame desuyotteittanoni Koki-kun haitta no!

Mama hey mama. Padahal *sensei* sudah memberi peringatan jangan masuk toilet orang dewasa, tapi koki malah masuk.

Hitomi : 今 のぞみちゃんママにバザーのメール送ってるから 話しかけないで。

Ima Nozomi-chan mama ni bazā no mēru okutteru kara hanashikakenaide.

Sekarang Tante Nozomi sedang mengirim pesan kepada mama tentang bazar. Jangan ajak bicara dulu.

Rena : 大人のはね 大きいでしょう？だからね お尻が落ちちゃったの！

Otona no wa ne ōkīdeshou? Dakara ne oshiri ga ochichatta no!

Toilet orang dewasa itu besar kan? Karena itu pantat Koki jatuh kedalamnya.

Hitomi : 話しかけないでって いったるでしょう！約束守れないんだっ
ら、ママ 出て行くよ。

Hanashikakenaidette itteru deshou! *Yakusoku mamorenaindattara,*
mama dete iku yo.

Mama bilang jangan ajak bicara dulu! Kalau kamu tidak bisa
menjaga janjimu, nanti mama tinggalkan nih.

Rena : 出て行っていいもん。

Dete itte ii mon.

Baik, pergi saja!

Pada dialog tersebut nampak bahwa Hitomi melakukan tindakan penganiayaan secara psikologis (*shinriteki gyakutai/ 心理的虐待*) yaitu mengabaikan atau menunjukkan sikap menolak (*mushi o shitari, kyōhitekina taido o shimesu/ 無視したり、拒否的な態度を示す*) terhadap apa yang diceritakan oleh Rena. Terlihat Hitomi lebih ingin ketenangan dan kenyamanan dengan berfokus terhadap *handphone*-nya dibanding peduli terhadap cerita Rena. Keinginan akan ketenangan dan kenyamanan itu terlihat ketika Hitomi dengan nada tinggi mengatakan “**hanashikakenaidette itteru deshou!**” 話しかけないでっていったるでしょう!” disertai dengan mimik wajah yang menunjukkan kekesalannya terhadap Rena karena tidak menuruti perintahnya. Ucapan dengan nada tinggi tersebut pula termasuk kedalam kategori *verbal abuse*.

Selain *verbal abuse*, terdapat juga tindakan Hitomi yang memukul (*tataku*/叩く) kepala Rena pada adegan satu. Hal tersebut bisa dimaknai tindakan *jidougyakutai*, yaitu berupa penganiayaan fisik (*karadateki gyakutai*/身体的虐待), dan bisa juga dimaknai perilaku mendidik Hitomi terhadap Rena, karena Rena yang membantah Hitomi, ketika Hitomi mengancam akan pergi jika Rena tidak mendengarkannya. Disebut tindakan *jidougyakutai* karena situasi sebelumnya Hitomi yang acuh tak acuh terhadap Rena, dan setelah memukul jidatnya Rena, Hitomi langsung beranjak pergi meninggalkan Rena tanpa meminta maaf serta menanyakan sakit atau tidaknya bagian kepala Rena yang dipukulnya tersebut.

8. Data 8

Stres pada *single mother* timbul akibat dari kelelahan. Kelelahan tersebut muncul karena seorang *single mother* dihadapkan pada tanggung jawab ganda yaitu menjadi tulang punggung keluarga, melakukan pekerjaan rumah, serta merawat anak yang harus dihadapinya setiap hari. Padatnya aktivitas yang harus dilalui oleh seorang *single mother* serta tidak adanya dukungan sosial dari keluarga, menyebabkan stresnya seorang *single mother*.



Adegan 1



Adegan 2

Episode 1 (Durasi 00:48:04- 00:52:32)

Adegan 2 menggambarkan tindakan penganiayaan fisik (*karadateki gyakutai/身体的虐待*) yang dilakukan oleh Hitomi terhadap anaknya Rena, yang muncul akibat dari luapan emosi Hitomi terhadap Uragami. Namun yang menjadi korban kekesalannya saat itu adalah Rena. Pada adegan 1, Uragami melakukan tindakan pelecehan seksual (*seiteki gyakutai/性的虐待*) terhadap Rena. Uragami menyuruh Rena mengganti pakaiannya dengan gaun putih tipis yang sedikit terbuka, yang sengaja ia bawa untuk Rena. Setelah Rena mengenakan gaun tersebut, Uragami memakaikan lipstik di bibir Rena, dipegangnya kepala Rena dengan tangan kirinya Uragami, serta jarak muka Uragami yang semakin mendekati muka Rena. Tidak lama kemudian datang Hitomi yang baru pulang bekerja. Dengan mata berkaca-kaca, badan gemetar, serta terlihat mimik kekesalan Hitomi, ketika melihat Uragami memperlakukan Rena seperti itu. Hitomi tidak bisa membendung emosinya lagi dan langsung menghajar Rena yang saat itu berteriak lari kehadapannya, dengan kantong plastik yang berisi makanan yang ia bawa.

Rena : ママ～！

Mama～!

Mama...!

Hitomi : 汚い！汚い！汚い！汚い！汚い！汚い！汚い！汚い！

Kitanai! Kitanai! Kitanai! Kitanai! Kitanai! Kitanai! Kitanai!

Kitanai!

Cabul! Cabul! Cabul! Cabul! Cabul! Cabul! Cabul! Cabul!

Setelah itu Hitomi memasukkan Rena kedalam kantong plastik sampah hitam besar, diikatnya, kemudian dibuangnya di tumpukkan sampah pinggir jalan. Saat itu, waktu menunjukkan pukul 7 malam, temperatur cuaca di bawah -4° C, serta Rena masih dalam keadaan mengenakan gaun putih tipis. Jika dibiarkan terlalu lama Rena bisa saja meninggal, namun beruntung Nao menemukannya dan menyelamatkannya.

Selain penganiayaan fisik (*karadateki gyakutai*/身体的虐待), Hitomi juga melakukan tindakan penganiayaan secara psikologis (*shinriteki gyakutai*/心理的虐待) terhadap Rena, yaitu berupa perilaku yang menyakiti harga diri anak-anak (*kodomo no jisonshin o kizutsukeruyōna gendō*/子どもの自尊心を傷つけるような言動) ketika Hitomi mengatakan “*kitanai*/汚い” kepada Rena. *Kitanai* disini diartikan “cabul”.

Dalam kamus Kenji Matsura (1994: 506), *kitanai*/汚い memiliki arti:

kitanai (汚い) kotor; dekil; jorok.

~*fuku* (〜服) pakaian kotor (dekil).

~*benjo* (〜便所) kakus jorok; kakus yang tidak terurus.

~*yarikata* (〜やり方) cara kotor; tindakan busuk.

~*koto wo suru* (〜ことをする) bermain kotor.

~*kotoba* (〜言葉) kata-kata yang kotor.

Kare wa itsumo ~ kangaekata wo suru (彼はいつも〜考え方をする) pikirannya selalu kotor.

Dalam *Ruigo Reikai Jiten* (1994: 810-30), *kitanai* (汚い) berarti:

「汚い」は「汚い字」のように、見苦しい、聞き苦しい意や、「根性が汚い」のように、腹黒い、邪悪である意でも用いられる。

“Kitanai wa “kitanai ji” no yōni, migurushī, kikigurushī ya, “konjō ga kitanai” no yōni, haraguroi, jaakudearu i demo mochiirareru.”

"Kitanai" yaitu seperti "huruf yang kitanai", tidak enak dipandang, tidak enak didengar, itu juga digunakan seperti pada "tekad yang kitanai", yang berarti licik dan jahat.

Jadi, berdasarkan penjelasan diatas bahwa *kitanai* yang memiliki arti kotor/dekil/jorok tersebut, bisa digunakan pada seseorang yang bertekad kotor, yaitu tindakan yang licik dan jahat, seperti halnya yang dilakukan oleh Urugami terhadap Rena. Pada drama ini, maksud dari kata *kitanai* yang diucapkan Hitomi kepada anaknya tersebut dimaksudkan untuk tindakan kotor Urugami pada Rena yang melakukan pelecehan seksual (*seiteki gyakutai* 性的虐待) berupa menyentuh dan melihat tubuh dengan minat seksual (*seitekina kanshin de karada o sawaru, miru* 性的な関心で体を触る、見る). Sehingga *kitanai* disini diartikan dengan kata "cabul".

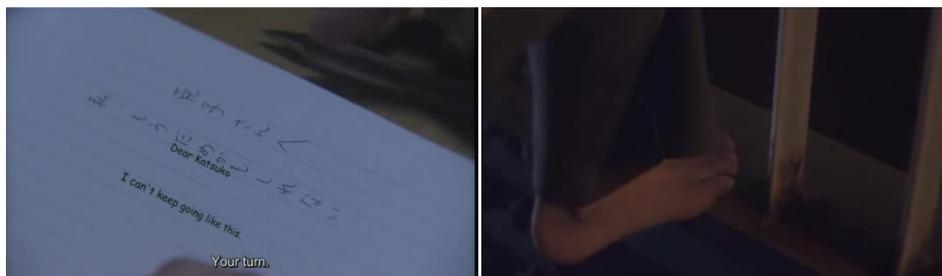
Tindakan penganiayaan secara psikologis (*shinriteki gyakutai*/心理的虐待) dan penganiayaan fisik (*karadateki gyakutai*/身体的虐待) berupa perilaku yang menyakiti harga diri anak-anak (*kodomo no jisonshin o kizutsukeruyōna gendō*/子どもの自尊心を傷つけるような言動), memukul/menghajar/menghantam (*naguru*/殴る), serta membuang Rena di tumpukan sampah oleh Hitomi dalam drama ini merupakan tindakan *jidouguyakutai* yang terjadi akibat luapan emosi dari Hitomi itu sendiri. Emosi

itu muncul dikarenakan Hitomi yang lelah dan stres karena baru pulang bekerja. Kemudian ketika setibanya di rumah disuguhkan dengan perilaku Uragami yang memperlakukan Rena secara tidak wajar. Hitomi yang tidak ingin kehilangan kebahagiaan serta dukungan dari orang lain tersebut, akhirnya meluapkan emosinya tersebut terhadap Rena, anak kandungnya sendiri.

9. Data 9

Stres akibat masalah ekonomi serta dalam perawatan anak seorang *single mother*, selain berdampak pada luapan emosinya terhadap orang terdekat seperti anak kandung yang kemudian berujung melakukan tindakan *jidougyakutai*, ada juga yang berakhir sampai melakukan *oyako shinju*.

Oyako shinju adalah tindakan bunuh diri seorang ibu yang melibatkan anaknya untuk melakukannya secara bersama-sama. Hal ini merupakan suatu tindakan *jidougyakutai* yang dilakukan oleh seorang ibu terhadap anaknya di Jepang. Tindakan ini termasuk kedalam bentuk pelecehan anak yang telah ada sejak lama di Jepang, yaitu sebagai praktik “*kogoroshi*” (membunuh anak) dan “*mabiki*” (membunuh anak untuk mengurangi beban ekonomi keluarga). Karena dalam hal ini, bukan hanya nyawa ibu yang hilang, melainkan nyawa anak pun akan lenyap akibat stres yang dialami seorang ibu pelaku tindakan *oyako shinju* tersebut.



Adegan 1

Adegan 2

Episode 8 (Durasi 00:27:56 – 00:30:38)

Dalam drama ini Hitomi hendak mengajak Rena melakukan *oyako shinju*. Pada adegan pertama, Hitomi menulis surat untuk Katsuko yang baru bertuliskan “*watashi, mō dame kamoshirenai*/私、もうだめかもしれない。” yang artinya “aku (Hitomi) sepertinya sudah tidak mampu lagi”. Terlihat Hitomi yang sudah merasakan di ujung keputus asa karena stres akibat peran gandanya seorang *single mother*, yang mana dia juga membutuhkan dukungan serta kebahagiaan bersama orang yang dicintainya. Namun dibalik kebahagiaan itu, terdapat Rena yang tersiksa akibat ulah kekasihnya sendiri, serta ia yang sering menelantarkannya akibat Hitomi yang selalu mengejar kesenangan dan kebahagiaannya sendiri bersama Uragami yang sebelumnya ia cari. Akibatnya, pada adegan 2 Hitomi memutuskan melakukan *oyako shinju* dengan menaiki jembatan penyebrangan jalan. Namun hal itu kemudian ia urungkan, lalu tubuhnya rubuh dan menangis dengan kerasnya.

Stres akibat kelelahan akan tanggung jawabnya sebagai seorang *single mother*, serta keinginan Hitomi untuk memiliki keluarga sempurna dan utuh, menjadikannya melakukan tindakan *oyako shinju*. Tindakan ini juga

merupakan termasuk kedalam tindakan *jidougyakutai* karena termasuk pembunuhan anak yang dilakukan oleh ibu.

10. Data 10

Besarnya peran ibu, kurangnya dukungan dari kerabat dalam pengasuhan anak, rendahnya penggunaan *baby sitter*, pembantu, atau pekerja yang membantu urusan rumah tangga, serta dalam keluarga yang kedua orang tuanya bekerja, fasilitas seperti *houikuen* (*day care*) memiliki peran hingga batas-batas tertentu, merupakan karakteristik utama dari pengasuhan anak di Jepang. Dari beberapa karakteristik tersebut akan menjadi beban yang sangat berat apabila dihadapkan kepada seorang *single mother*.



Adegan 1



Adegan 2



Adegan 3

Adegan 1 : Episode 1 (Durasi 00:31:34 – 00:31:46)

Adegan 2 : Episode 1 (Durasi 00:34:43 – 00:41:02)

Adegan 3 : Episode 8 (Durasi 00:12:18 – 00:12:57)

Sebelumnya pada drama ini, nampak sosok *ryousai kenbou* pada diri Hitomi, yaitu menjadi *kenbou* yang baik untuk Rena. Seperti selalu memasak masakan kesukaan Rena, mengerjakan pekerjaan rumah, penuh perhatian, dan selalu ceria. Namun hal itu berangsur-angsur pudar pada diri Hitomi dikarenakan merasakan kelelahan akibat peran gandanya, yang berujung pada pengabaian (*negurekuto*/ネグレクト) terhadap Rena.

Seperti pada adegan satu dan dua di atas, Hitomi melakukan pengabaian (*negurekuto*/ネグレクト) berupa; membiarkan Rena kelaparan, membiarkan/menyuruh Rena bermain keluar rumah dengan membekalnya uang 500 yen untuk bekal makan malamnya, dan tidak mencarinya meskipun hingga larut malam. Diluar dari pada itu, terlihat pada adegan 3 Hitomi juga mengabaikan pekerjaan rumah, membiarkan rumah berantakan. Pola Asuh *ryousai kenbou* yang dulu tertanam pada dirinya terlihat jelas menghilang.

11. Data 11

Banyaknya kecemasan yang di alami seorang ibu tunggal dalam mendidik anaknya, seperti dimana ia sebelumnya tidak memiliki pengalaman untuk hal kontak dan perawatan anak, tidak adanya sosok ibu dikedidupannya dulu, sehingga tidak dapat memahami keinginan anak. Sehingga dalam hal tidak adanya dukungan untuk ibu tunggal, menjadikan mereka merasakan rasa terisolasi di lingkungan mereka. Ketidakpedulian terhadap pengasuhan

anak dan kurangnya pengetahuan, dalam kondisi isolasi di mana ibu sendiri mengambil pengasuhan anak, pada gaya hidup seperti ini mengarah pada kekerasan anak-anak.



Adegan 1

Adegan 2

Adegan 1 : Episode 8 (Durasi 00:07:44 – 00:08:36)

Adegan 2 : Episode 8 (Durasi 00:08:37 – 00:09:11)

Pendidikan yang diberikan ibu terhadap anak di Jepang terkenal dengan sebutan *kyoiku mama*. Biasanya *kyoiku mama* tersebut berupa pendidikan karakter dan etika yang diajarkan oleh ibu terhadap anak-anaknya di rumah.

Pada drama ini Hitomi mengalami masalah dengan kemampuan membesarkan anak (ketidakmatangan kemampuan membesarkan anak, kecemasan merawat anak) (*yōiku nōryoku no mondai* (*yōikryō no mijuku*, *ikuji fuan*/養育能力の問題 (養育力の未熟、育児不安)). Kecemasan Hitomi akan kemampuannya mendidik Rena terlihat pada adegan pertama di atas. Ketika itu Hitomi sedang menghadiri acara reuni di salah satu rumah temannya. Rena yang pada saat itu merengek minta *donat stick* kepada Hitomi, sambil menarik-narik lengan kiri Hitomi, menyebabkan cangkir

yang berisi air teh milik Hitomi jatuh dan tumpah ke lantai. Kemudian Hitomi menyuruh Rena untuk meminta maaf ke pemilik rumah yang merupakan teman Hitomi tersebut, yang pada saat itu langsung membersihkan tumpahan air teh milik Hitomi. Namun Rena tidak menghiraukan perintah Hitomi dan langsung pergi. Adapun kecemasan Hitomi tersebut dapat dilihat pada dialog adegan satu berikut:

Hitomi : すいません。

Suimasen.

Maaf.

Temannya Hitomi : 父親がいないからかしらね。

Chihioya ga inai kara kashira ne.

Mungkin karena dia tidak memiliki ayah.

Hitomi : しつけて...。

Shitsukette...

Padahal aku telah berusaha mendidiknya untuk disiplin...

Temannya Hitomi : 子供は口でいっても無駄よ。デコピンとか。

Kodomo wa guchi ittemo muda yo. Dekopin toka.

Mendidik anak itu kalau hanya menggunakan mulut akan sia-sia. Coba pukul jidatnya.

Hitomi : デコピン?

Dekopin?

Memukul jidat?

Pada dialog tersebut, terlihat pada ucapan Hitomi yang digaris bawahi di atas memiliki makna bahwa, Hitomi mengalami kecemasan akan pengasuhan yang ia lakukan selama ini terhadap Rena. Hitomi merasa takut tidak bisa membentuk karakter yang sopan dan santun, serta kedisiplinan pada diri Rena. Pada kondisi ini, terlihat Hitomi tidak memiliki pengalaman dalam pengasuhan anak sebelumnya. Memungkinkan sekali bahwa Hitomi merupakan anak tunggal dalam keluarganya, sehingga tidak memiliki pengalaman pula dalam hal pengasuhan saudara seperti adik kandungnya. Akhirnya temannya tersebut memberikan saran untuk bertindak lebih keras dalam cara mendidik Rena.

Adegan kedua terjadi pada malam hari di rumah Hitomi. Hitomi mulai mencoba memarahi Rena karena tidak membereskan mainannya, kemudian memukul jidatnya. Hal itu ia lakukan demi mendidik Rena. Namun tindakan itu berlanjut dilakukannya setiap Rena melakukan tindakan yang tidak diinginkan oleh Hitomi.

Akibat kontinuitas perilaku Hitomi tersebut, tindakan yang semata-mata untuk mendidik ini bisa menjadi suatu penganiayaan fisik (*karadateki*

gyakutai/ 身体的虐待) dan penganiayaan secara psikologis (*shinriteki gyakutai*/ 心理的虐待). Disebut penganiayaan fisik dikarenakan Hitomi yang memukul jidat Rena, serta penganiayaan psikologis karena Hitomi yang selalu memarahinya dengan nada tinggi, sehingga bisa menyakiti dan memberi luka pada hati dan perasaan anak.

12. Data 12

Adanya kepercayaan yang kuat akan mitos “*san sai ji shinwa*” menjadikan sosok ibu sebagai peran utama bagi setiap wanita yang telah berkeluarga. Interaksi antara ibu dan anak cenderung lebih intensif bila dibandingkan dengan interaksi antara ayah dan anak. Namun hal ini berbeda dengan seorang *single mother*. Pengasuhan anak yang dipercayai bahwa 1-3 tahun harus dipegang oleh ibu kandung, *single mother* tidak memiliki jalan lain selain merelakan pengasuhan anak tersebut dilakukan oleh jasa penitipan anak (*houikuen*), dikarenakan dirinya yang harus bekerja.



Adegan 1

Adegan 2

Adegan 1 : Episode 8 (Durasi 00:02:59 – 00:03:44)

Adegan 2 : Episode 8 (Durasi 00:09:15 – 00:09:33)

Adegan satu dan dua tersebut adalah adegan ketika Hitomi menjemput Rena, sepulangnya ia bekerja. Gambar pertama Hitomi menjemput Rena yang ditinggalkan di rumah Katsuko, tetangga terdekat Hitomi. Waktu itu diceritakan usia Rena baru sekitar 2 tahunan. Pada adegan kedua Hitomi menjemput Rena di salah satu *houikuen*, dan ketika itu Rena sudah berumur 4 tahunan, yang mana belum memasuki usia sekolah.

Dari kedua adegan tersebut, sebelum Rena memasuki usia sekolah, Rena diasuh oleh orang lain. Akibatnya memungkinkan hilangnya ikatan yang telah terjalin antara anak dan orangtua sehingga menyebabkan perlakuan yang berbeda terhadap pola asuh anak.

Hilangnya ikatan yang telah terjalin antara anak dan orangtua tersebut menyebabkan perlakuan yang berbeda terhadap pola asuh anak, sehingga bisa berakhir pada tindakan *jidougyakutai* berupa pengabaian dan pengabaian secara psikologis. Hal tersebut tergambar pada adegan data 4 dan 7 yang telah dijelaskan sebelumnya. Pada data 4, Hitomi yang tidak mengerti keadaan Rena, membiarkan Rena sampai merasakan kelaparan. Adegan 7 yaitu ketika Rena menerima tindakan *gyakutai* dari kekasihnya (Uragami), Hitomi mengabaikannya hanya karena Rena yang tidak mengeluh dan mengadu kepada Hitomi, meskipun Hitomi mengetahuinya, ia menganggap semuanya baik-baik saja.

Oleh karena itu jika hubungan kedekatan ibu dan anak dibangun, tindakan *jidougyakutai* tidak akan terjadi. Alasannya adalah para ibu akan

merasakan sakitnya, susahny, dan deritanya anak seolah-olah mereka sendiri yang merasakan hal tersebut

D. Intepretasi Hasil Penelitian

Melalui hasil analisis dengan menggunakan teori sosiologi sastra di atas, dapat disimpulkan penggambaran faktor-faktor terjadinya tindakan *jidougyakutai* oleh tokoh *single mother* dalam drama “*mother*”, beserta kategori *jidougyakutai* yang ada didalamnya. Untuk mempermudah dalam memahami analisis ini, penulis paparkan melalui tabel berikut:

Data	Interpretasi Data	
1	<p>Gambar</p>	
	<p>Penggambaran Adegan</p>	<p>Berubahnya fungsi keluarga dalam keluarga <i>single mother</i>, yaitu memiliki tanggung jawab ganda. Selain mengerjakan pekerjaan rumah dan merawat anak, seorang <i>single mother</i> juga menjadi tulang punggung keluarga.</p>
	<p>Faktor</p>	<p>Peran ganda seorang <i>single mother</i>.</p>

	Kategori <i>jidougyakutai</i>	Penganiayaan secara psikologis (<i>shinriteki gyakutai</i> /心理的虐待) berupa <i>verbal abuse</i> (<i>kotoba no bōryoku</i> /言葉の暴力)
2.1	Gambar	
	Penggambaran Adegan	Meninggalkan pengasuhan anak. Rena masih berkeliaran diluar rumah meskipun jam sudah menunjukkan pukul 8 malam. Hitomi tidak pernah mengkhawatirkan Rena dan mencarinya.
	Faktor	Kemiskinan <i>single mother</i> .
	Kategori <i>jidougyakutai</i>	Pengabaian (<i>negurekuto</i> /ネグレクト): membiarkan anak diluar rumah sendirian hingga larut malam.
2.2	Gambar	
	Penggambaran Adegan	Meninggalkan pengasuhan anak. Membiarkan anak, tidak memberikan dan menyiapkan makanan untuknya hingga kelaparan.

	Faktor	Kemiskinan <i>single mother</i> .
	Kategori <i>jidougyakutai</i>	Pengabaian (<i>negurekuto</i> /ネグレクト) : tidak memberi makan (<i>shokuji o ataenai</i> /食事を与えない) hingga kelaparan
2.3	Gambar	
	Penggambaran Adegan	Kegagalan memberikan nutrisi sehingga Rena pingsan.
	Faktor	Kemiskinan <i>single mother</i> .
	Kategori <i>jidougyakutai</i>	Pengabaian (<i>negurekuto</i> /ネグレクト) : tidak memberi makan (<i>shokuji o ataenai</i> /食事を与えない) hingga menghambat pertumbuhan normal (tinggi/berat) si anak (<i>shokuji o ataezu hōchishite kodomo no tsūjō no seichō (shinchō taijū) o sogai shitari</i> /食事を与えず放置して子どもの通常の成長 (身長・体重) を阻害したり).
2.4	Gambar	
	Penggambaran Adegan	Meninggalkan pengasuhan anak untuk mengurangi beban ekonomi. Hitomi berencana

		meninggalkan Rena di pantai.
	Faktor	Kemiskinan <i>single mother</i> .
	Kategori <i>jidougyakutai</i>	Pengabaian (<i>negurekuto</i> ネグレクト) : tindakan “ <i>kosute</i> ” (menelantarkan anak).
3	Gambar	
	Penggambaran Adegan	Hitomi membiarkan Uragami (kekasihnya) melakukan tindakan <i>gyakutai</i> terhadap Rena. Hitomi membiarkan tindakan <i>jidougyakutai</i> itu terjadi dikarenakan tidak ingin ditinggalkan oleh kekasihnya, yang telah memberinya kebahagiaan dan dukungan.
	Faktor	Peluang orang lain masuk ke dalam keluarga akibat dari status orang tua sebagai <i>single mother</i> . Seperti kekasih baru dari orang tua, ibu/ayah tiri, dll. yang tidak memiliki ikatan darah dengan anak.
	Kategori <i>jidougyakutai</i>	Uragami : Kekerasan fisik (<i>karadateki gyakutai</i> 身体的虐待) , berupa mengurung dalam lemari (<i>oshiire</i>

		<p><i>ni tojikomeru</i>/押し入れに閉じ込める), mencekik/membuat sulit bernapas (<i>chissoku saseru</i>/窒息させる), menyundutnya dengan api rokok (<i>tabako no hi o oshitsukeru</i>/タバコの火を押し付ける).</p> <p>Hitomi :</p> <p>Pengabaian (<i>negurekuto</i>/ネグレクト), berupa membiarkan orang lain yang hidup serumah dengannya melakukan kekerasan terhadap anaknya (<i>dōkyo hito ga gyakutai shiteitemo hōchisuru</i>/同居人が虐待していても放置する).</p>
4	<p>Gambar</p> 	
	<p>Penggambaran Adegan</p>	<p>Hitomi merasa iri terhadap Rena, karena tidak ada yang memberi pujian dan dukungan terhadapnya. Di usia Hitomi yang masih terbilang muda yaitu 29 tahun, ia sudah mengisolasi diri dari lingkungannya. Termasuk dengan temannya, dikarenakan statusnya yang</p>

		telah menjadi <i>single mother</i> .
	Faktor	<p>Kehamilan, pernikahan, persalinan pada usia muda (<i>jakunen de no ninshin, kekkon, shussan/</i> 若年での妊娠、結婚、出産), sehingga pada akhirnya berstatus <i>single mother</i> pada usia muda pula.</p> <p>Isolasi sosial dari kerabat, lingkungan, teman, dll (<i>shinseki, kinrin, yūjin nado kara no shakaiteki koritsu ga agerareru/</i> 親戚、近隣、友人などからの社会的孤立が挙げられる).</p>
	Kategori <i>jidougyakutai</i>	<p>Penganiayaan fisik (<i>karadateki gyakutai/</i> 身体的虐待) : mendorong hingga terjatuh.</p> <p>Penganiayaan secara psikologis (<i>shinriteki gyakutai/</i> 心理的虐待) : <i>verbal abuse (kotoba no bōryoku/</i> 言葉の暴力).</p>
	Gambar	
5	Penggambaran Adegan	Kebahagiaan Hitomi setelah mendapatkan dukungan dan kebahagiaan yang didapat dari kekasih barunya. Untuk mendapatkannya, menjadikan pengasuhan dan perawatan anak terabaikan.

	Faktor	Tidak adanya dukungan sosial terhadap seorang <i>single mother</i> .
	Kategori <i>jidougyakutai</i>	Pengabaian (<i>negurekuto</i> /ネグレクト) : meninggalkan anak seorang diri di rumah dalam waktu yang cukup lama (<i>nagai ai, uchi no naka ni hitori ni sasete oitari</i> /長い間、家の中に一人にさせておいたり).
6	Gambar	
	Penggambaran Adegan	Sesuai dengan pengalaman Hitomi yang merasa terabaikan dan tidak menerima dukungan dari siapapun, sehingga Hitomi melakukan hal yang sama terhadap Rena. Hitomi tidak mempedulikan perasaan Rena, tidak memperlihatkan perhatiannya ketika Rena sakit, serta menutupi kekerasan yang dilakukan Uragami terhadap Rena, meskipun Rena sampai terluka sekalipun.
	Faktor	Pengalaman ibu yang disalahgunakan (<i>hahaoya jishin no hi gyakutai taiken</i> /母親自身

		の被虐待体験)
	Kategori <i>jidougyakutai</i>	Penganiayaan secara psikologis (<i>shinriteki gyakutai</i> /心理的虐待), berupa mengabaikan atau menunjukkan sikap menolak (<i>mushi o shitari</i> /無視をしたり). Pengabaian psikologis (<i>shinriteki negurekuto</i> 心理的ネグレクト).
	Gambar	
	Penggambaran Adegan	Hitomi menginginkan ketenangan dan istirahat setelah melewati rutinitas dari aktivitas kerja diluar serta pekerjaan rumah yang menjadi tanggung jawabnya.
7	Faktor	Kelelahan dan stres akibat beban dari masalah keluarga yang ditanggung seorang diri.
	Kategori <i>jidougyakutai</i>	Penganiayaan secara psikologis (<i>shinriteki gyakutai</i> /心理的虐待) : <i>verbal abuse</i> (<i>kotoba no bōryoku</i> /言葉の暴力), mengabaikan atau menunjukkan sikap menolak (<i>mushi o shitari, kyōhitekina taido o shimesu</i> /無視したり、拒否的な態度を示す). Penganiayaan fisik (<i>karada teki gyakutai</i> /身体

		的虐待) : berupa memukul (<i>tataku</i> /叩く) .
8	Gambar	
	Penggambaran Adegan	Hitomi yang lelah setelah melewati rutinitasnya bekerja diluar, sesampainya di rumah disuguhkan dengan pemandangan anaknya yang hampir menerima perlakuan pelecehan seksual (<i>seiteki gyakutai</i> /性的虐待) berupa menyentuh dan melihat tubuh dengan minat seksual (<i>seitekina kanshin de karada wo sawaru, miru</i> /性的な関心で体を触る、見る) dari Uragami.
	Faktor	<i>Work family conflict.</i>
	Kategori <i>jidougyakutai</i>	Penganiayaan secara psikologis (<i>shinriteki gyakutai</i> /心理的虐待) : perilaku yang menyakiti harga diri anak-anak (<i>kodomo no jisonshin o kizutsukeruyōna gendō</i> /子どもの自尊心を傷つけるような言動) Penganiayaan fisik (<i>karadateki gyakutai</i> /身体的虐待) : memukul/menghajar/menghantam (<i>naguru</i> /殴る), bertindak yang mengancam nyawa anak.

		Penganiayaan secara psikologis (<i>shinriteki gyakutai</i> /心理的虐待) : <i>verbal abuse</i> (<i>kotoba no bōryoku</i> /言葉の暴力).
9	Gambar	
	Penggambaran Adegan	Hitomi yang sebelumnya akan melakukan <i>oyako shinju</i> .
	Faktor	Stres akibat masalah ekonomi serta dalam perawatan anak seorang <i>single mother</i> .
	Kategori <i>jidougyakutai</i>	“ <i>Kogoroshi</i> ” (membunuh anak) dan “ <i>mabiki</i> ” (membunuh anak untuk mengurangi beban ekonomi keluarga)
10	Gambar	
	Penggambaran Adegan	Hilangnya sosok <i>kenbou</i> yang sebelumnya tertanam pada diri Hitomi, akibat kelelahan dari peran gandanya, sehingga mengabaikan pengasuhan anaknya.
	Faktor	Pengabaian pola asuh akibat kelelahan dari

		peran gandanya seorang <i>single mother</i> .
	Kategori <i>jidougyakutai</i>	Pengabaian (<i>negurekuto</i> /ネグレクト) berupa, membiarkan Rena kelaparan, membiarkan/menyuruh Rena bermain keluar rumah dengan membekalinya uang 500 yen untuk bekal makan malamnya, dan tidak mencarinya meskipun Rena masih berkeliaran di luar hingga larut malam.
	Gambar	
11	Penggambaran Adegan	Hitomi merasa bingung bagaimana cara dia untuk mendidik Rena agar memiliki etika sopan santun terhadap orang lain, serta Rena mampu membereskan mainannya sendiri setelah membuatnya sangat berantakan di rumah. Sehingga pada akhirnya Hitomi menuruti masukan dari temannya, yaitu menggunakan sedikit kekerasan dalam mendidik anak.
	Faktor	Mengalami masalah dengan kemampuan membesarkan anak (ketidakmatangan kemampuan membesarkan anak, kecemasan

		merawat anak) (<i>yōiku nōryoku no mondai</i> (<i>yōikryō no mijuku, ikuji fuan</i> /養育能力の問題 (養育力の未熟、育児不安)).
	Kategori <i>jidougyakutai</i>	Penganiayaan fisik (<i>karadateki gyakutai</i> /身体的虐待) : Memukul (<i>dekopin</i> /デコピン). Penganiayaan secara psikologis (<i>shinriteki gyakutai</i> /心理的虐待) : <i>verbal abuse</i> (<i>kotoba no bōryoku</i> /言葉の暴力).
	Gambar	
12	Penggambaran Adegan	Pengasuhan anak yang dilepas sejak anak masih berusia 2 tahun, yaitu dititipkannya di tetangga dan di <i>houikuen</i> .
	Faktor	Hilangnya ikatan yang telah terjalin antara anak dan orang tua sehingga menyebabkan perlakuan yang berbeda terhadap pola asuh anak.
	Kategori <i>jidougyakutai</i>	Pengabaian (<i>negurekuto</i> /ネグレクト). Pengabaian psikologis (<i>shinriteki gyakutai</i> /心理的ネグレクト).

BAB V

KESIMPULAN DAN SARAN

Pada bab ini, penulis memberikan kesimpulan dan saran yang berhubungan dengan hasil penelitian yang telah dilakukan. Adapun kesimpulan tersebut penulis buat berdasarkan dari hasil analisis data pada bab sebelumnya. Setelah terbentuknya kesimpulan, penulis juga menyajikan saran yang ditujukan untuk berbagai pihak, seperti para pembaca penelitian ini, khususnya untuk pembelajar bahasa dan sastra Jepang yang kedepannya hendak memperluas penelitian yang telah penulis teliti sekarang. Adapun kesimpulan dan saran tersebut adalah sebagai berikut:

A. Kesimpulan

1. Faktor penyebab tindakan *jidouyakutai* oleh tokoh *single mother* dalam drama “*Mother*”

Setelah menganalisis 32 adegan yang disajikan ke dalam 12 data yang didapat dalam drama “*Mother*”, penulis menyimpulkan bahwa faktor-faktor penyebab terjadinya tindakan *jidouyakutai* yang dilakukan oleh tokoh *single mother* adalah sebagai berikut:

a. Perubahan dalam struktur keluarga

- 1) Berubahnya fungsi keluarga *single mother*, sehingga terjadinya peran ganda yang harus ditanggung oleh seorang *single mother*.

Hal ini juga disebut sebagai *Work family conflict* (konflik dari bekerja dan keluarga).

- b. Masalah ekonomi keluarga
 - 1) Kemiskinan keluarga *single mother*.
- c. Status sebagai seorang *single mother*
 - 1) Tidak memiliki sosok suami, sehingga mudah untuk adanya orang baru yang masuk dan menggantikan sosok suami tersebut. Oleh karena itu, berpeluang besar untuk terjadinya tindakan *jidougyakutai* oleh orang lain, juga *jidougyakutai* yang dilakukan oleh ibu, apabila ibu tersebut membiarkan tindakan itu terjadi.
 - 2) Terisolasi dari lingkungan, kerabat, teman, dan lain-lain. Sehingga tidak ada teman untuk berkeluh-kesah dari setiap masalah yang dihadapi seorang *single mother*.
 - 3) Status *single mother* pada usia muda, akibat dari kehamilan, pernikahan, dan persalinan pada usia muda. Pada akhirnya seorang *single mother* muda tidak memiliki waktu untuk berkumpul dan bersenang-senang dengan teman-temannya.
 - 4) Tidak adanya dukungan sosial terhadap seorang *single mother*. Terlihat dari keluarga di Jepang yang mayoritas berbentuk keluarga inti/*nuclear family*, sehingga selain tidak mendapatkan dukungan dari teman, dukungan dari keluarga dan kerabat pun tidak ada.

d. *Parenting stress*

- 1) Stres akibat status dari seorang *single mother*, serta dari ekonomi keluarga yang kemudian dilampiaskan kepada anak.
- 2) Pengalaman ibu yang disalahgunakan, yaitu seperti tidak mendapatkan dukungan dan perhatian seorang *single mother* dari orang lain sehingga hal itu dilakukannya juga terhadap anak sendiri.

e. Pola asuh ibu

- 1) Mengalami masalah dengan kemampuan membesarkan anak (ketidakmatangan kemampuan membesarkan anak, kecemasan merawat anak).
- 2) Hilangnya ikatan yang telah terjalin antara anak dan orang tua sehingga menyebabkan perlakuan yang berbeda terhadap pola asuh anak.
- 3) Mendidik anak terlalu keras.

2. Kategori tindakan *jidougyakutai*

Berdasarkan dari analisis data pada bab sebelumnya, kategori tindakan *jidougyakutai* yang terdapat dalam drama “*Mother*” adalah sebagai berikut

- a. Kategori tindakan *jidougyakutai* berdasarkan undang-undang tentang pencegahan pelecehan anak dll. Tahun 2000 di Jepang:
 - 1) Penganiayaan fisik (*karadateki gyakutai*/身体的虐待):
 - a) Mendorong hingga terjatuh.

- b) Memukul/mengetuk (*tataku*/叩く).
- c) Memukul/menghajar/menghantam (*naguru*/殴る).
- d) Melakukan tindakan yang mengancam nyawa anak.
- e) Memukul jidat (*dekopin*/デコピン).
- f) Perilaku yang mengarah pada tindakan *kogoroshi*” (membunuh anak) dan “*mabiki*” (membunuh anak untuk mengurangi beban ekonomi keluarga).
- g) Mengurung dalam lemari (*oshiire ni tojikomeru*/押し入れに閉じ込める).
- h) Mencekik/membuat sulit bernapas (*chissoku saseru*/窒息させる).
- i) Menyundutnya dengan api rokok (*tabako no hi o oshitsukeru*/タバコの火を押し付ける).

2) Pengabaian (*negurekuto*/ネグレクト):

- a) Membiarkan anak diluar rumah sendirian hingga larut malam.
- b) Tidak memberi makan (*shokuji o ataenai*/食事を与えない) hingga menghambat pertumbuhan normal (tinggi/berat) si anak (*shokuji o ataezu hōchishite kodomo no tsūjō no seichō (shinchō taijū) o sogai shitari*/食事を与えず放置して子どもの通常の成長 (身長・体重) を阻害したり).
- c) “*Kosute*” (menelantarkan anak), meninggalkan atau membuang anak di suatu tempat untuk mengurangi beban ekonomi.

d) Membiarkan orang lain yang hidup serumah dengannya melakukan kekerasan terhadap anaknya (*dōkyo hito ga gyakutai shiteitemo hōchisuru*/同居人が虐待していても放置する).

e) Meninggalkan anak seorang diri di rumah dalam waktu yang cukup lama (*nagai ai, uchi no naka ni hitori ni sasete oitari*/長い間、家の中に一人にさせておいたり).

3) Penganiayaan secara psikologis (*shinriteki gyakutai*/心理的虐待) :

a) Pelecehan verbal/*Verbal abuse* (*kotoba no bōryoku*/言葉の暴力).

b) Mengabaikan atau menunjukkan sikap menolak (*mushi o shitari, kyōhitekina taido o shimesu*/無視したり、拒否的な態度を示す).

c) Perilaku yang menyakiti harga diri anak-anak (*kodomo no jisonshin o kizutsukeruyōna gendō*/子どもの自尊心を傷つけるような言動).

4) Pelecehan seksual (*seiteki gyakutai* 性的虐待) :

Menyentuh dan melihat tubuh dengan minat seksual (*seitekina kanshin de karada o sawaru, miru*/性的な関心で体を触る、見る).

b. Kategori tindakan *jidougyakutai* tambahan dari Kazumi:

Pengabaian psikologis (*shinriteki negurekuto* 心理的ネグレクト), yaitu berupa acuh tak acuh terhadap rasa sakit fisik dan mental anak.

B. Saran

Dari hasil analisis yang telah dilakukan oleh penulis tentang faktor-faktor terjadinya tindakan *jiougyakutai* oleh tokoh *single mother* dalam drama “*Mother*”, adapun saran yang dapat penulis berikan adalah sebagai berikut:

1. Teruntuk para pembelajar bahasa dan budaya Jepang, khususnya mahasiswa di STBA JIA, mengingat penelitian ini masih jauh dari kesempurnaan, maka diharapkan untuk peneliti selanjutnya yang memiliki tema yang sejenis agar lebih mempertajam dan memperluas teori tentang tindakan *jidougyakutai* di Jepang. Serta harus memiliki pandangan lain tentang faktor-faktor yang akan menyebabkan tindakan tersebut, selain dari status seorang *single mother*. Mengingat dari tindakan *jidougyakutai* yang merupakan salah satu masalah sosial yang sedang dihadapi di Jepang dulu hingga sekarang, maka sangat penting sekali untuk mengetahui akar-akar permasalahan awal sehingga hal itu dapat terjadi.
2. Sebagai masukan kepada perpustakaan STBA JIA, agar dapat menambah koleksi buku mengenai keadaan masalah sosial di Jepang, terkhusus untuk “*Jidougyakutai/Child Abuse in Japan*” itu sendiri, dikarenakan penulis sedikit mengalami kesulitan menemukan buku-buku tersebut.

DAFTAR ACUAN

Buku:

Arifin, Bambang Samsul. 2015. *Psikologi Sosial*. Bandung: CV. Pustaka Setia.

Doriza, Shinta. 2015. *Ekonomi Keluarga: Keluarga yang Seimbang dan Sejahtera*. Bandung: PT. Remaja Rosdakarya.

Hua Sing, Lim. 2001. *Peranan Jepang di Asia*. Jakarta: PT Gramedia Pustaka Utama.

Ibrahim. 2015. *Metodologi Penelitian Kualitatif*. Bandung: CV. Alfabeta.

Kazumi, Takahashi. 2014. *Kietai: Gyakutaisareta Hito no Ikikata kara Shiru Kokoro no Shiawase*. Tokyo: Kabushiki Gaisha Chikuma Shobo.

Nobuhiro, Katsurajima. 2007. *Nihonjijou Nyumon: A Study of the Theory About Japanese Society*. Kyoto: Bunrikaku.

Ratna, Nyoman Kutha. 2010. *Metodologi Penelitian: Kajian Budaya dan Ilmu-Ilmu Sosial Humaniora pada Umumnya*. Yogyakarta: Pustaka Pelajar.

Sudaryono. 2017. *Metodologi Penelitian*. Depok: PT. Rajagrafindo Persada.

E-book:

Crosson-Tower, Cynthia. 2014. *Understanding Child Abuse and Neglect-Ninth Edition*. United States of America: Pearson Education, Inc.

- Jabrohim dkk. 2003. *Metodologi Penelitian Sastra*. Yogyakarta: Hanindita Graha Widya.
- Kornblum, William & Joseph Julian. 2012. *Social Problems*. United States America: Pearson Education, Inc.
- Kumagai, Fumei. 2015. *Family Issues on Marriage, Divorce, and Older Adults in Japan*. Tokyo: Kyorin University.
- Kumagai, Fumei & Masako Ishii-Kuntz. 2016. *Family Violence in Japan: A Life Course Perspective*. Singapore: Springer Science + Business Media Singapore Pte Ltd.
- Razak, Zulkifli. 2017. *Perkembangan Teori Sosial (Menyongsong Era Postmodernisme)*. Makassar: CV. Sah Media.
- SOS Renraku-kai. 2015. *Yokohamashi Kodomo Gyakutai Boushi Handbook*. Yokohama: Yokohama-shi kodomo seishōnenkyoku kodomo kateika.
- Suroso. 2015. *Drama: Teori dan Praktik Pementasan*. Yogyakarta: Elmaterra.
- Suwardi. 2011. *Bahan Kuliah: Sosiologi Sastra*. Yogyakarta: FBS Universitas Negeri Yogyakarta
- Wiyatmi. 2014. *Sosiologi Sastra: Teori dan Kajian terhadap Sastra Indonesia*. Kanwa Publisier.
- Yamaguchi, Koichiro. 2012. *Rōdō Seisaku Kenkyū Hōkoku-sho No. 140: Shingurumazā no Shūgyō to Keizai-teki Jiritsu*. JILPT: The Japan Institute for Labour Policy and Training.

Jurnal:

Akiko, Monma dkk. 2009. *Singurumazaa no Kosodate ni Kansuru Shitsuteki Kenkyuu; Eigobunken Rebyuu 1995-2007*. Kazoku Kangogaku Kenkyuu Dai Jyuugo-kan Dai Ichi-gou.

Ghiamitasya, Mellisa. 2012. *PERUBAHAN PERAN AYAH DALAM PENGASUHAN ANAK DI JEPANG PADA ERA SHOUSHIKA*. Program Studi Sastra Jepang Fakultas Ilmu Budaya Universitas Airlangga: JAPANOLOGY, VOL. 1, NO. 1, SEPTEMBER 2012 – FEBRUARI 2013 : 96 – 102.

Hamad, Ibnu. 2005. *Lebih Dekat dengan Analisis Wacana*. Terakreditasi Dirjen Dikti SK. No. 56/DIKTI/Kep/2005.

Hasanah, Suci Fadhla dan Ni'matuzahroh. 2017. *Work Family Conflict pada Single Parent*. Jurnal Muara Ilmu Sosial, Humaniora, dan Seni Vol. 1, No. 2, Oktober 2017: hlm 381-398. ISSN 2579-6348 (Versi Cetak) & ISSN-L 2579-6356 (Versi Elektronik).

Hiroko, dkk. 2016. *Shakai-teki Yōgo o Hitsuyō to Suru Boshi Setai e Kosodate Shien ga Ataeru Eikyō: Singurumazā no Genjō to Ikuji Fuan ni Tsuite*. Bukkyō Daigaku Shakai Fukushi Gakubu Ronshū dai 12-gō (2016-nen 3 tsuki) (Buddhist University College of Social Welfare 12th (Maret 2016), Kikan Kakei Keizai Kenkyuu, AUTUMN No. 88 (http://kakeiken.org/journal/jjrhe/88/088_03.pdf, diakses 22 Maret 2018, pukul 21:14 WIB)

- Ledyana, Ni. Luh Ketut Yuniasari. 2012. *Peran Hoikuen dalam Tahap Perkembangan Sosialisasi Anak Bagi Ibu yang Bekerja di Jepang*. Surabaya: Program Studi Sastra Jepang Fakultas Ilmu Budaya Universitas Airlangga. *Japanology*, Vol. 1, No. 1, September 2012: 96 – 106.
- Mulyadi, Budi. 2014. *Model Pendidikan Karakter Dalam Masyarakat Jepang*. Jurnal IZUMI, Volume 3, No 1. Fakultas Ilmu Budaya Universitas Diponegoro.
- Nabekura, Sayuri. 2017. *The Research on The Mothers who Abused Her own Child –Towards Improvement of Social Conditions for Rearing The abused Childs (Jibun no Kodomo o Gyakutaishita Hahaoya no Kenkyū; Yōiku no tame no Shakai Hoshō no Jūjitsu o Motomete)*. Tokyo: Soka University (https://www.soka.ac.jp/files/ja/20170512_155456.pdf, diakses pada 22 Maret 2018, pukul 21:34 WIB)
- Salda Yanti, Citra. *RELIGIOSITAS ISLAM DALAM NOVEL RATU YANG BERSUJUD KARYA AMRIZAL MOCHAMAD MAHDAV*. Jurnal Humanika No. 15, Vol. 3, Desember 2015 / ISSN 1979-8296.
- Usui, Masami. 2000. *Creating a Feminist Transnational Drama: Oyako-Shinju (Parent-Child Suicide) in Velina Hasu Houston's Kokoro (True Heart)*. *The Japanese Journal of American Studies*, No. 11.

Skripsi:

Aulia, Mutiara. 2014. *Kajian Tunjangan Membesarkan Anak untuk Single Mother yang Bercerai di Jepang*. Universitas Indonesia: Fakultas Ilmu Pengetahuan Budaya.

Hayashibo. 2004. *Ryousai Kenbo to Jyousei Kyoiku ni Tsuite*. Aichi: Universitas Chubu. <http://www.moehwald.jp/Uni-Pictures/Semi/Lin.pdf>, diakses pada 29 Maret 2018, pukul 22:30)

Yulia. 2001. *Kecenderungan Jidougyakutai (Tindak Kekerasan Terhadap Anak) yang Dilakukan oleh Ibu Kandung*. Universitas Indonesia: Fakultas Sastra

Laporan Penelitian TA:

Taka, Masuzawa dkk. 2010. *Jidōgyakutai ni Kansuru Bunken Kenkyū (Dai 6-pō); Kodomo Gyakutai to Hattatsu Shōgai no Kanren ni Shōten o Ateta Bunken no Bunseki*. Yokohama: Shakai Fukushi Hōjin Yokohamahakuhōkai; Kodomo no Niji Jōhō Kenshū Sentā.

Kamus:

Matsura, Kenji. 1994. *Kamus Bahasa Jepang- Indonesia (Nihongo-Indonesiago Jiten)*. Jakarta: PT. Gramedia Pustaka Utama.

Norimasa, Satou. 1994. *A Dictionary of Synonyms in Japanese (Ruigo Reikai Jiten)*. Tokyo: Shogakukan.

Internet:

Gejala Sosial: Definisi dan Contohnya. 2017. <http://sosiologis.com/gejala-sosial>
(Diakses 2 Mei 2018, pukul 04:24)

Gyaru (Dari Wikipedia bahasa Indonesia, ensiklopedia bebas),
<https://id.wikipedia.org/wiki/Gyaru>. Diakses 2 April 2018, pukul 03:08
WIB.

Keishi, Nishimura. 2017. *Jumlah penganiayaan anak sesuai dengan data Jidousoudanjou*.
<http://www.asahi.com/articles/ASK8J2VP0K8JUTFL001.html>. Diakses
15 Oktober 2017, pukul 15:13 WIB.

Komite Manajemen Info-Graphic (Info-graphic 管理委員会). *Seikatsu-hi ga Takai Kuni Rankingu*. <http://info-graphic.me/map/1110>. Diakses pada 19
November 2017.

Mohaya Sengodewanai — Keizai Hakusho 70-nen (2)/ もはや戦後ではない—経済白
書 70 年 (2) . Japan Center for Economic Research .

<https://www.jcer.or.jp/column/komine2/index866.html> (Diakses pada 1 Mei 2018, pukul 12:15)

Mother (serial televisi). [https://id.wikipedia.org/wiki/Mother_\(serial_televisi\)](https://id.wikipedia.org/wiki/Mother_(serial_televisi))
(Diakses pada 25 Juli 2018, pukul 20:15)

Nur Hidayat, Faisal. 2014. Pengertian Pola Asuh Anak Dalam Keluarga.
<https://www.wawasanpendidikan.com/2014/10/pengertian-pola-asuh-anak-dalam.html>. Diakses 27 Maret 2018, pukul 04:29 WIB.

Susilo, Richard. 2014. *Survei Nasional: Tingkat Kemiskinan di Jepang Melonjak*.
<http://www.tribunnews.com/internasional/2014/11/04/survei-nasional-tingkat-kemiskinan-di-jepang-melonjak>. Diakses pada 15 Oktober 2017, pukul 12:42 WIB.

Toshiya, Nobuyoshi. 2004 (hal.35-53). *Gendai kazoku to kazoku-hō:Kazoku seisaku ni kanren shite*.
http://www.tku.ac.jp/kiyou/contents/law/9/tkulr9_2_toshitani.pdf
(Diakses pada 19 Mei 2018, pukul 14:01)

RIWAYAT HIDUP PENULIS

Nama : Pina Ismayanti

Tempat, Tanggal Lahir : Sumedang, 13 September 1995

Alamat : Dsn. Sarmaja RT 01/02, Ds.
Nyalindung, Kec. Cimalaka,
Sumedang



Riwayat Pendidikan Formal

TK Tunas Dharma Mekar 2000-2001

SDN Panorama 2001-2007

SMPN 2 Cimalaka 2007-2010

SMKN 2 Sumedang 2010-2013

STBA JIA 2014-2018

Riwayat Pekerjaan

PT. Toyo Denso Indonesia, ADM Engineering September 2013 - Sekarang